

学生確保の見通し等を記載した書類（本文）

目次

(1) 収容定員を変更する組織の概要	2
① 収容定員を変更する組織の概要	2
② 収容定員を変更する組織の特色	2
(2) 人材需要の社会的な動向	5
① 収容定員を増加する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	5
② 中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向	10
③ 収容定員を増加する組織の主な学生募集地域	12
④ 既設組織の定員充足状況	13
(3) 学生確保の見通し	15
① 学生確保に向けた具体的な取り組みと見込まれる効果	15
ア 既設組織における取組とその目標	15
イ 収容定員を増加する組織における取組とその目標	16
ウ 当該取り組みの分析結果に基づく、収容定員を増加する組織での入学者の見込み数	19
② 競合校の状況分析	20
ア 競合校の選定理由と収容定員を増加する組織との比較分析、優位性	20
イ 競合校の入学志願動向等	25
ウ 収容定員を増加する組織において定員を充足できる根拠等	29
エ 学生納付金等の金額設定の理由	29
③ 先行事例分析	31
④ 学生確保に関するアンケート調査	32
⑤ 人材需要に関するアンケート調査等	39
(4) 収容定員を変更する組織の定員設定の理由	42

(1) 収容定員を変更する組織の概要

①収容定員を変更する組織の概要

収容定員を変更する組織の概要は以下のとおりである。

収容定員を増加する組織	入学定員	収容定員	所在地
立命館大学大学院 理工学研究科基礎理工学専攻 博士課程前期課程	70	140	滋賀県草津市野路東 1-1-1
立命館大学大学院 理工学研究科電子システム専攻 博士課程前期課程	155	310	滋賀県草津市野路東 1-1-1
立命館大学大学院 理工学研究科機械システム専攻 博士課程前期課程	155	310	滋賀県草津市野路東 1-1-1
立命館大学大学院 理工学研究科都市システム専攻 博士課程前期課程	145	290	滋賀県草津市野路東 1-1-1
立命館大学大学院 人間科学研究科人間科学専攻 博士課程前期課程	75	150	大阪府茨木市岩倉町 2-150
立命館大学大学院 デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻 修士課程	20	40	京都市北区等持院北町 56-1

②収容定員を変更する組織の特色

[理工学研究科博士課程前期課程]

理工学研究科博士課程前期課程は基礎理工学専攻、電子システム専攻、機械システム専攻および都市システム専攻の4つの専攻で構成し、以下の人材育成目的を設定している。

本研究科は、立命館建学の精神および、立命館の教学理念の下、理工学の専門領域に関する高度な理論と技術に加え、創造的発見能力を兼ね備えた研究者、高度専門人材を養成することを目的とする。

【基礎理工学専攻】

基礎理工学専攻博士課程前期課程は、数学または物理学の専門領域における確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を備えた者の育成を目的とする。

【電子システム専攻】

電子システム専攻博士課程前期課程は、電気・電子工学・光工学・情報工学などの専門領域における確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を備えた者の育成を目的とする。

【機械システム専攻】

機械システム専攻博士課程前期課程は、機械工学・ロボティクス・マイクロ機械などの専門領域における確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を備えた者の育成を目的とする。

【都市システム専攻】

環境都市専攻博士課程前期課程は、土木工学・環境工学・建築学などの専門領域における確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を備えた者の育成を目的とする。

基礎理工学専攻は、数理科学コースと物理科学コースの2コースで教育と研究を展開する。数理科学コースでは、特長である確率および数理ファイナンス分野と密接にかかわり、近年著しく発展しているデータサイエンス分野を取り込んだ教育プログラムを開始し、高まる時代のニーズに応える一方、基礎数学の教育をより強化したプログラムに取り組む。研究者、教員、公務員、情報関連企業の技術者などを中心に、幅広い領域で活躍できる人材を養成する。また、数理ファイナンスの教育カリキュラムを通して、金融商品開発、保険設計士（アクチュアリー）、財務管理、ファンド・マネージャー、金融システム開発などで活躍できる人材を養成していく。物理科学コースでは自然科学および工学の学問体系を支える力学、電磁気学、熱力学・統計力学、量子力学など、古典および現代物理学の基礎を学習するとともに、これらの科学的知識を応用する実践的な技術を修得した人材の養成に取り組む。このように基礎理工学専攻では、学際的な幅広い成長分野にも貢献できる高度専門技術者の輩出が期待できる。

電子システム専攻において、電気・電子工学が扱う広範な技術領域は現代社会を根底から支える工学基盤そのものである。電子情報工学においてもエレクトロニクス、集積回路、コンピュータ、ソフトウェア、情報通信に関する広範な専門領域において教育研究を展開する。このように電子システム専攻では、グリーン分野・デジタル分野といった学際的な成長分野を含めた工学全般における今後の新技術創造と新技術領域開拓において必要不可欠となる高度専門技術者を養成する。

機械システム専攻において、機械創成工学の観点からは、「材料・加工系」「熱・流体系」「エネルギー・環境系」などの科目群を系統的に学び、機械工学を基盤としサステナビリティに関連する分野横断的なカリキュラムを展開する。機械情報工学の観点からは、機械が活用する情報の取得に必要なセンサ・マイクロマシンや計測手法に関する科目群と、情報を駆使したデータサイエンスの機械工学への利活用に関する科目群を配してカリキュラムを展開する。ロボティクスの観点では、機械、情報、生体工学などを基盤として学び、多様な先端テクノロジーを場面に応じて活用できるスキルおよび基盤知識と要素技術を融合し、様々なニーズからロボットの機能と形をデザインし、実際に作って動かす力を持つ創造性ある人材育成を強化する。このように機械システム専攻では、人と社会の持続的な発展に対する機械工学の貢献および環境問題や環境負荷軽減への社会からの高まる要求へ対応し、世界で活躍できる高度専門人材を養成し、グリーン分野・デジタル分野といった学際的な成長分野へも幅広く貢献する。

都市システム専攻においては、人々の健康で安全・安心な生活、快適で持続可能な社会の形成を支援するために、工学技術を活用し、さまざまな分野とも連携しながら総合的な立場で、環境や防災など人々の生活に関わる問題に取り組む人材を養成する。建築都市デザインに関する新しいニーズおよび複合的な課題に応えうる人材の養成を行う。

[人間科学研究科博士課程前期課程]

人間科学研究科博士課程前期課程は、総合的な心理学を基盤として、人間それ自身の研究を拓き、対人援助・人間理解にかかわる関連分野の諸科学や多様に取り組みられている実践を包摂する、広い意味での人間科学の創造を目指す。その中で、細分化している専門の深まりを、社会のなかにある人間科学としての広がりの中で学生自らの研究主題を構築し直す研究力を養い、社会のなかで生きる心理学・人間科学の創造を通して、学術と社会の発展に貢献する人材の育成を目指しており、以下の人材育成目的を設定している。

人間科学研究科は、心理学とその隣接領域の科学的、総合的知識にもとづいて包括的に人間を理解し、理論と実践を相互還流させる高度な技能と対応力を身につけることで、人々のニーズや社会的要請を適切に捉えて、学術と社会の発展に貢献することができる人材を育成することを目的とする。

人間科学研究科人間科学専攻博士課程前期課程に心理学領域、臨床心理学領域、実践人間科学領域の3領域を置き、心と行動の理論的、実証的研究および臨床と支援の実践的研究を行う。本課程は、これらの人間科学研究を通じて、国際的、かつ、総合的視野を持って学術の発展と社会の進歩、安寧に貢献できる人材の育成を目的とする。

本研究科では、心理学領域と臨床心理学領域や実践人間科学領域を交差させることで生まれる多様な研究成果を、実践に応用していくため、院生が自らの関心領域を中心に置きながら、周辺領域へと学びや研究を発展させ、現実の問題解決に取り組めるカリキュラムを設定している。本研究科での研究・教育を通して、サイエンスとしての心理学を究める研究者の育成と、心理社会的支援の専門的方法を習得し、社会の諸課題解決に取り組む公認心理師や臨床心理士などの心理専門職の養成に取り組んでいる。

[デザイン・アート学研究科修士課程]

2026（令和8）年4月に開設するデザイン・アート学研究科修士課程では、美的感性に裏打ちされた「問題解決力」、「問い直し力」、「共創力」、「問題発見力」、「創造的思考力」を学修者自身がさらに高度に発揮できることに加え、その能力の意義を他者と共有するためにそれらの社会的な効用を評価できる人材を育成する。そのために、人材育成目的を以下の通り設定する。

デザイン・アート学研究科は、人工知能や仮想・複合現実などのデジタル情報技術の発展を背景に、人間本来の思考と創造性のあり方自体が問い直されるべき社会的要請に応えるために、本学園の根幹である「建学の精神」、「教学理念」、「立命館憲章」に則り、長い歴史と重厚な文化のもとで革新的な知が創出されてきた京都という都市において、美的感性に裏打ちされた「問題解決力」「問い直し力」「共創力」「問題発見力」「創造的思考力」を総合して高度に発揮しながら他者と積極的に協働し、その能力の社会的意義と効用を評価することによって、多様な社会や組織において、フィジカルからデジタルに拡張し融合した未来社会を感性豊かに創造できる研究者および高度専門職業人を育成する。

デザイン・アート学研究科では、現在から将来の社会情勢を展望しながら、アートの観点からデザインの位置づけを改め、空洞化しているデザイン学領域に責任をもち、世界的なデザイン・アートのキャピタル・シティである京都において、日本の歴史と文化を踏まえた独自の視点とデジタルネイティブのデザイン教育研究を行うことに特色がある。

デザイン・アート学研究科と関連する近接組織として、映像研究科修士課程があり、その概要は以下

のとおりである。

既設組織	入学定員	収容定員	所在地（教育研究を行うキャンパス）
立命館大学大学院 映像研究科映像専攻 修士課程	10	20	大阪府茨木市岩倉町 2-150

なお、新設するデザイン・アート学研究科修士課程と、既設の映像研究科修士課程はどちらも学位の分野を芸術分野とするが、教学内容について異なるものとなるため、デザイン・アート学研究科修士課程を設置後も、映像研究科修士課程においては募集停止や収容定員変更・改組等は行わない。

（２）人材需要の社会的な動向

①収容定員を増加する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

[理工学研究科博士課程前期課程]

理工学研究科博士課程前期課程では基礎理工学専攻、電子システム専攻、機械システム専攻および都市システム専攻の各分野および学際分野において幅広く理工系の高度専門人材を養成する。

基礎理工学専攻は、数理科学コースと物理科学コースにわけられる。数理科学コースでは、確率論や数理ファイナンス、さらには社会からのニーズに応えたデータサイエンス分野を取り入れた教育を展開する。物理科学コースでは、現代物理学の基礎に加え、実践的な技術を学び、応用力を身につける。電子システム専攻は、エレクトロニクス、集積回路、コンピュータ、ソフトウェア、情報通信に関連する広範な領域をカバーしており、現代社会を支える基盤技術を学ぶ。機械システム専攻は、機械創成工学、機械情報工学、ロボティクスといった先端分野に焦点を当て、高度な技術者を育成する。都市システム専攻は、環境や防災、都市デザインなど、現代社会の複合的な問題に対応するために、総合的な立場から学問を深める。都市設計や環境問題に取り組む専門的な技術と知識を持つ人材を養成する。

各専攻分野において基礎的・普遍的な知識を修め、高い付加価値を創造できる人材を養成する。「第6期科学技術・イノベーション基本計画」（2021（令和3）年3月26日閣議決定）では社会課題を解決に導くために、学術や科学技術を活用して新たな知や価値を創造し、社会にイノベーションを起こすことができる人材需要について述べられている。先端技術や知見を計画的・効果的に組み立てて活用できる実践的・専門的力の育成が必要となる。高い専門性や能力だけでなく、多様性や様々な視点をもって俯瞰し、物事の本質を理解し、グローバル社会で生き抜く素養を身につけることが必要とされている【資料1】。

このように、Society5.0の到来による仮想空間の活用による社会、経済、産業の再定義に加え、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大など、変化が激しく不確実性の高まる時代に生き抜く力量を身につけることが必要となってきている。また、AI時代、ポストAI時代に向けた対応として、創造性、デザイン性、企画力、調和性など、新たな価値を創造する力が必要となっている昨今、全国的に理系人材を増やしていくことは不可欠である。

デジタル化の加速度的な進展と、「脱炭素」の世界的な潮流は、これまでの産業構造を抜本的に変革するだけではなく、労働需要の在り方にも根源的な変化をもたらすことが予想されている【資料2】。日本での理工系高度人材は諸外国に比べて極めて少ない状況であり、今後の人口ならびに労働力人口の減少

の中で、イノベーションを担う理工系人材の育成がかねてから指摘されている【資料3】。

例えば「工学系教育改革制度設計等に関する懇談会取りまとめについて」（文部科学省、2018（平成30）年3月30日）において、①学科・専攻定員設定の柔軟化と学位プログラムの積極的な導入、②学部段階における工学基礎教育の強化（最低限の基準設定）、③学部・大学院連結教育プログラムの構築に向けて（メジャー・マイナー制及びダブルメジャー制の導入）、④産業界との教員人事交流促進等を含めた連携強化が課題にあげられている【資料4】。

このように工学系人材が、新たな社会的価値を創造するいわゆるイノベーションを拡大させ、あらゆる分野を牽引していく人材に進化することが期待されている【資料2】。また、世界的にデジタル革新を背景とした技術革新や普及が進み、同時にデジタル・トランスフォーメーションが進展している。「第5期科学技術基本計画」で提起された Society5.0 の実現に向け、さらに社会変革の断行と未来への投資を推進する「第6期科学技術・イノベーション基本計画」（2021（令和3）年3月26日）が閣議決定された。

この基本計画において、Society 5.0 の実現に向けた科学技術・イノベーション政策、知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力の強化、大学・高等専門学校における多様なカリキュラム、プログラムの提供などイノベーション創出の源泉となる大学の研究力強化やその担い手となる若手人材育成の推進に関する政策が打ち出されている【資料5】【資料6】。

2040（令和22）年を見据えた大学院教育のあるべき姿である「2040年を見据えた大学院教育のあるべき姿～社会を先導する人材の育成に向けた体質改善の方策～」（審議まとめ）（2019（平成31）年1月22日中央教育審議会大学分科会）では、Society5.0の実現等、2040（令和22）年ごろの社会変化に対応するため「知のプロフェッショナル」が諸外国と遜色ない水準で活躍することが必要で、その「知のプロフェッショナル」の育成を大学院が中心的に担うことがうたわれている【資料7】。

社会課題を解決に導くために、学術や科学技術を活用して新たな知や価値を創造し、社会にイノベーションを起こすことができる人材を育成することが求められている。そのため、学部で獲得する基礎的・普遍的な知識・理解や汎用的技能等を基礎としながらも、解決に向けて俯瞰的な視野を持ち、先端技術や知見を計画的・効果的に組み立てて活用できる実践的・専門的力の育成が必要となる。高い専門性や能力だけでなく、多様性や様々な視点をもって俯瞰し、物事の本質を理解し、グローバル社会で生き抜く素養を身につけることが必要とされている。

これらのことから、理工学研究科博士課程前期課程の基礎理工学専攻、電子システム専攻、機械システム専攻および都市システム専攻の各分野および学際分野において育成する人材は社会的ニーズがあり、かつ、社会情勢の変化に伴う社会からの要請に応じて教学内容の不断の見直しを行い、幅広く理工系の高度専門人材として社会に貢献しうる人材を育成している。

また理工学研究科が所在する滋賀県では、滋賀県総合教育会議において理系人材の母体層形成と育成に向けた取り組みをより積極的に推進する必要性が提言されている【資料8】【資料9】。このように地域からも社会的動向の面からデジタル分野やグリーン分野を鑑みた分野横断的な成長性を背景とした高度専門技術者の継続的な需要の増加が予想される。

[人間科学研究科博士課程前期課程]

心理学に限れば 2017（平成 29）年の公認心理師法施行による心理専門職の国家資格化により社会から心理学への期待が高まると同時に、心理学系の大学、学部、研究科の入試状況、教育、研究、卒業生・修了生の進路選択にも大きな影響を与えている。

厚生労働省「患者調査」によると、精神疾患を有する外来患者数は年々増加傾向にあり、2020（令和 2）年の調査では約 26.7 万人であった。また、いじめ、不登校、虐待件数の増加によって学校や家庭における心理的支援の必要性が高まっており、教育や福祉の現場で心理支援専門職の配置が求められている。家庭裁判所や企業におけるメンタルヘルス対応など、司法や産業の分野でも心理職への期待が高まっている【資料 10】。このような状況の中で学術と社会を牽引する心理学人材を育成する心理学教育への社会的要請は高まっているといえる。「令和 5 年度公認心理師活動状況等調査報告書」（2024（令和 6）年 3 月）によると、心理的支援業務に従事する者の現住所では「近畿地方・大阪府」の割合が「関東・甲信地方」に次いで高く、また 2023（令和 5）年 6 月 1 日現在の臨床心理士登録者数においても大阪や神戸、京都の人数が全国的にも多くみられる。このことから、関西地域における心理専門職へのニーズは高いといえる。

人の心や行動に関する基本的機能を理解し、悩みや困難、疾病や障害を抱える人や集団に対して支援を行い、心の健康を促進する心理専門職の育成は、大学の学部・研究科における心理学教育の重要な使命のひとつである。心理専門職については 2017（平成 29）年に公認心理師法が施行され、民間資格である臨床心理士と国家資格である公認心理師が名称独占資格として広く認知されている。公認心理師は心理に関する国家資格として 2018（平成 30）年から認定が開始された比較的新しい制度だが、公認心理師登録者数は 71,732 人（2023（令和 5）年 10 月末日時点）であり【資料 11】、一般社団法人公認心理師試験研修センターの「令和 5 年公認心理師活動状況等調査報告書」（2024（令和 6）年 3 月）で、勤務先は保健医療分野（30.7%）、福祉分野（29.5%）、教育分野（34.2%）、司法・犯罪分野（4.7%）、産業・労働分野（8.2%）、その他（13.7%）となっている。このことは心理専門職の活動が多分野に広がっていると同時に、心理学が一般の人々の身近な存在になりつつあることを伺わせる【資料 12】。2024（令和 6）年より、厚生労働省社会・擁護局傷害保険福祉部・精神・障害保健公認心理師制度推進室により、公認心理師実習演習担当教員養成講習会がはじまった【資料 13】。これによって、大学・大学院において、学生の指導を行う教員のみならず、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪及び産業労働分野の臨床現場において公認心理師の養成に携わるものが質の高い指導を行うための講習カリキュラムが設定され、すでに 2 年間にわたり、2,000 人ほどの公認心理師が受講している。この講習は、一般社団法人日本公認心理師養成機関連盟によっても開始され、公認心理師養成の体制作りが整備されつつある。また、公益社団法人日本公認心理師協会では、より高度な知識と技能をもち、専門職の人材育成、および指導に貢献する高次資格として、日本公認心理師協会 認定専門公認心理師、認定専門指導公認心理師の資格認定を開始している。公認心理師資格を中心とした臨床家養成の制度整備が大きな関心であることがうかがえる。

もう一方で、臨床心理士は公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認定する資格で 1988（昭和 63）年に認定が開始されて以来 30 年以上の実績がある。一般社団法人日本臨床心理士会の「第 9 回『臨床心理士の動向調査』報告書」（2024（令和 6）年 7 月）では、臨床心理士資格保有者約 37,000 人（2023

(令和5)年9月1日時点)を対象に調査が行われ、勤務している機関は、病院・診療所(全回答者数の37.2%)、自治体から派遣(スクールカウンセラー等)(16.9%)、児童福祉施設・機関(児童相談所を含む)(15.6%)、幼稚園・小学校・中学校・予備校1,333人(12.1%)、公立教育相談機関・教育委員会等(11.3%)となっており、ここからも心理専門職の活動の広がりが伺える。両資格とも大学に設置される心理学部、心理学科および関連する大学院が主要な教育・養成機関であり、本研究科も両資格の受験資格取得に対応したカリキュラムを整備している。心理専門職をめざす者の心理系学部、研究科への進学動向は、今後も高まると考えられる【資料14】。

[デザイン・アート学研究科修士課程]

文化芸術全般にわたる基本的な法律として、2001(平成13)年に「文化芸術振興基本法」が成立して以降、政府ではこの法律に基づき策定された「文化芸術の振興に関する基本的な方針」のもと、文化芸術立国の実現に向けた文化芸術の振興に関する取り組みが進められてきた。一方で、少子高齢化やグローバル化の進展など社会の状況が著しく変化する中で、観光やまちづくり、国際交流等の幅広い関連分野との連携を視野に入れた総合的な文化芸術政策の展開が求められるようになり、2017(平成29)年に「文化芸術振興基本法の一部を改正する法律」が施行されている。これは、文化芸術そのものの振興に加え、観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等文化芸術に関連する分野の施策についても法律の範囲に取り込むとともに、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の更なる継承や発展、創造につなげることの重要性を示している。その上で、政府は、2018(平成30)年に新・文化芸術基本法第7条に基づく「文化芸術推進基本計画(第1期)」を策定し、計画においては、「文化芸術立国の実現」にむけて4つの目標を掲げ、そのために6つの戦略を提示している。

<4つの目標>

1) 「文化芸術の創造・発展・継承と教育」

文化芸術の創造・発展、次世代への継承が確実に行われ、全ての人々に充実した文化芸術教育と文化芸術活動の参加機会が提供されている。

2) 「創造的で活力ある社会」

文化芸術に効果的な投資が行われ、イノベーションが生まれるとともに、文化芸術の国際交流・発信を通じて国家ブランド形成に貢献し、活力ある社会が形成されている。

3) 「心豊かで多様性のある社会」

あらゆる人々が文化芸術を通して社会に参画し相互理解が広がり、多様な価値観が尊重され、心豊かな社会が形成されている。

4) 「地域の文化芸術を推進するプラットフォーム」

地域の文化芸術を推進するためのプラットフォームが全国各地で形成され、多様な人材や文化芸術団体・諸機関が連携・協働し、持続可能で回復力のある地域文化コミュニティが形成されている。

<6つの戦略>

1) 「文化芸術の創造・発展・継承と豊かな文化芸術教育の充実」

2) 「文化芸術に対する効果的な投資とイノベーションの実現」

- 3) 「国際文化交流・協力の推進と文化芸術を通じた相互理解・国家ブランディングへの貢献」
- 4) 「多様な価値観の形成と包摂的環境の推進による社会的価値の醸成」
- 5) 「多様で高い能力を有する専門的人材の確保・育成」
- 6) 「地域の連携・協働を促進するプラットフォームの形成」

これら6つの戦略は、文化芸術を通じた「社会的・経済的価値化」として明確化され、デザイン・アートが社会的価値創造の文脈で重要となっていることが強く意識されている。

さらに、2023（令和5）年3月には、「文化芸術推進基本計画（第2期）」が閣議決定され、第1期計画の評価と新型コロナウイルスの影響から散見された課題を踏まえて、7つの重点取組と16の施策群が設定された。

<7つの重点取組と16の施策群>

- 1) ポストコロナの創造的な文化芸術活動の推進
 - ① コロナ禍からの復興と文化芸術水準の向上等
 - ② 基盤強化、自律的運営による文化芸術の持続可能な発展
- 2) 文化資源の保存と活用の一層の促進
 - ③ 文化財の匠プロジェクトの推進等による文化資源の保存と活用の好循環の構築
 - ④ 国際協力を通じた文化遺産の保存・活用（世界文化遺産・無形文化遺産等）
 - ⑤ 国土強靱化に資する文化財の防火・防災対策の推進
- 3) 文化芸術を通じた次代を担う子供たちの育成
 - ⑥ 文化芸術教育の改善・充実、子供たちによる文化芸術鑑賞・体験機会の確保
- 4) 多様性を尊重した文化芸術の振興
 - ⑦ 障害者等の文化芸術の参画促進による共生社会の実現
 - ⑧ 国語の振興、国内外での日本語教育の推進
- 5) 文化芸術のグローバル展開の加速
 - ⑨ 世界を視座とした戦略的な文化芸術の展開
 - ⑩ 海外との連携による文化芸術の好循環の創出
- 6) 文化芸術を通じた地方創生の推進
 - ⑪ 国立美術館・博物館、国立劇場等の文化振興のナショナルセンターとしてのマネジメント機能の強化、博物館行政の充実
 - ⑫ 地域における文化芸術振興拠点の整備・充実
 - ⑬ 文化観光の推進による好循環の創出
 - ⑭ 食文化をはじめとした生活文化の振興
- 7) デジタル技術を活用した文化芸術活動の推進
 - ⑮ デジタル技術を活用した文化芸術の振興
 - ⑯ DX時代に対応した著作権制度の構築

これらのことから、政府の動向において、デザイン・アートがもたらす美的価値および社会的・経済的価値、またデザイン・アート思考を通じた価値創出と人材の育成への期待が高まっていることが把握される。これは、フィジカルとデジタルが融合した未来の生活世界をアートの感性と技術を基盤に、感

性豊かに創造できる専門家や研究者、高度専門職業人の育成を行い、日本の歴史と文化を反映した独自の視点とデジタルネイティブのデザイン・アート教育研究を、世界的なデザイン・アート拠点である京都で展開するデザイン・アート学研究科の設置趣旨と合致するものである。本研究科が立地する京都は多様な文化・歴史・芸術に日常的に触れられる環境を有する。この環境は、日本の歴史と文化を踏まえた美的感性の育成において掛け替えのないものであり、デザイン・アートの教育・研究において大きな優位性を持つ。

経済産業省においては、2019（平成 31）年に「高度デザイン人材育成ガイドライン」を策定し、これからの社会に求められるデザイン人材像とその育成の仕組み等を整理し、提示している。そこでは、従来、デザイナーは現場で行う高い職能技術人材として捉えられていたが、より高い視座を持ち、複雑な課題を自らの視点・感性で捉え直し、様々な形で表現できる高度デザイン人材としてその力を発揮することが示されている。

同じく 2019（令和元）年に日本経済団体連合会が実施した「人材育成に関するアンケート調査」では、デジタルやデザイン素養等の専門能力や幅広い知識の取得や開発を進めるため、8 割弱の企業が「外部との連携に取り組む」と回答し、うち 5 割を超える企業が連携先として「大学や高等教育機関」を挙げている【資料 15】。

さらに、2024（令和 6）年に独立行政法人情報処理推進機構が実施した「企業等における DX 推進状況等調査分析」では、DX を推進する人材として 5 つの人材類型を提示しており、デザインの知識や技術を多分に含んだビジネスアーキテクトやデザイナー、その他にもデータサイエンティストやソフトウェアエンジニア、サイバーセキュリティの人材過不足の状況を調査している。いずれの類型も不足が訴えられているが、とりわけ、データ活用、テクノロジー、セキュリティに一定のスキル・知識を必要とし、さらに、戦略、マネジメント、システム、ビジネスモデル、デザインのスキル・知識が要されるビジネスアーキテクトやデザイナーの高度な知識や技術を有した人材不足の状況が明記されている。

このような高度デザイン人材の必要性や社会人のリスクリングも含めた大学や高等教育機関に対する人材育成ニーズに応じるべく、本学に、より高度な専門性を有し、情報、環境、社会、意味の領野を融合したデザイン・アート学研究科修士課程を設置するものである。

②中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向

現在、日本の 18 歳人口は縮小傾向にあり、2023（令和 5）年の全国の 18 歳人口は 109.7 万人であり、2035（令和 17）年には 97.0 万人に減少することが予測されている。特に、2024（令和 6）年から 2029（令和 11）年まではほぼ横ばいで推移するものの、その後再び減少傾向に入り、2035（令和 17）年には 2023（令和 5）年に比べて 12.7 万人（11.1%）の人口減が予測され 100 万人を切る見通しである。

地域別に見ると、東北や甲信越、北海道等で減少率が高く、特に東北では、2035（令和 17）年には、2023（令和 5）年比 79.7%にまで減少する。一方で、南関東や九州沖縄では減少率が比較的 low、南関東では 2023（令和 5）年比 94.8%、九州沖縄では 2023 年比 93.9%、となっているが、全体としては東京と沖縄を除くすべての都道府県で減少傾向にある。

また、全国の大学進学率は 2014（平成 26）年の 48.1%から 2023（令和 5）年には 56.9%へと上昇しており、特に南関東や近畿では高い水準を維持している【資料 16】。

関西地域（近畿）においても、18歳人口は減少傾向にある。2023（令和5）年から2035（令和17）年までの間に23,357人が減少し、減少率は2023（令和5）年比87.1%である。しかし、他の地域と比較すると減少率は比較的安く、大学進学率も高い水準（63.3%）を維持している【資料16】。

なお、私立大学の志願者動向に目を向けると、2024（令和6）年度入試（一般＋共通テスト）の志願者数は、2023（令和5）年度から約3万5千人減少し、3,046,822人であった（前年比99%）【資料17】。こうした厳しい状況下にあっても本学における一般選抜入試の志願者数は募集人数を上回る高い水準を維持している。

大学院においては、日本私立学校振興・共催事業団「私学経営情報センター」が発行している「私立大学・短期大学等 入学志願動向」の主な研究科別の志願者・入学者動向（大学院）によると、2022（令和4）年の修士課程及び博士前期課程、専門職学位課程の志願者は63,627名、2024（令和6）年度の修士課程及び博士前期課程、専門職学位課程の志願者は78,221名と、大きく増加している【資料18】【資料19】。

理工学研究科博士課程前期課程に関してみれば、学士課程修了者の大学院進学率は、2014（平成26）年は理学系42.2%、工学系36.2%で、2023（令和5）年には、理学系44.3%、工学系38.6%と緩やかに増加している【資料20】。また、「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）」（令和4年5月10日【資料21】）において、現在35%にとどまっている自然科学分野の学問を専攻する学生の割合を、OECD諸国で最も高い水準である5割程度を目指すなどの目標が設定されており、理工学研究科博士課程前期課程への進学者の増加が見込まれる。

人間科学研究科博士課程前期課程に関しては、私立大学の心理学系学部の全国的な動向を見れば、18歳人口が減少する中でも心理学系学部・学科の人気は高く、直近3年の心理学関連の改組・収容定員変更においても学部学科新設、定員増が相次いでいる。関西地区に限っても帝塚山大学、龍谷大学、京都橘大学、武庫川女子大学、佛教大学、神戸女子大学等で改組、定員増を行っている。「私立大学・短期大学入学志願者動向」によると、2017（平成29）年度から2023（令和5）年度の学部系統別の動向の中で、人文科学系、心理学部を見ると、集計学部数は14学部から26学部（＋12学部、186%）、入学定員は2,195人から3,783人（＋1,588人、172%）、志願者数は15,051人から32,716人（＋17,665人、217%）、入学者数は2,198人から3,942人（＋1,744人、179%）と大きく増加している【資料22】。大学院でみても、私立大学全体の心理学系研究科の志願者数は増加している。「私立大学・短期大学入学志願者動向」の「2. 主な研究科別の志願者・入学者動向（大学院）」「（1）修士課程及び博士前期課程、専門職学位課程」から人文科学系「心理学研究科」「心理科学研究科」、その他「人間科学研究科」「臨床心理学研究科」の2017（平成29）年度から2023（令和5）年度の状況をみると、集計研究科数は47研究科から50研究科（＋3研究科）、入学定員は1,013人から1,058人（＋45人）、志願者数は1,929人から2,230人（＋301人）、入学者数は651人から724人（＋73人）となっている。国家資格公認心理師の動向等を受け志願者は増加しており、この分野の志望度は高まっていることが見て取れる。一方、入学定員充足率は経年平均が61.97と多くの研究科が定員充足していない状況が見て取れる【資料22】。

デザイン・アート学研究科修士課程に関しては、「令和6（2024）年度私立大学・短期大学等入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）によると、研究科系統別の入学定員充足率（修士課程）では、芸術系は121.56%を示しており【別紙1】、デザイン・アート学研究科の該当する分野の定員充足率が高

いことも把握される。このような状況に加え、デザイン・アート学研究科では、社会人学生も積極的に募集対象としていくことから、全国の 22 歳人口の低減化は推定されるものの、デザイン・アート学研究科の入学定員は問題なく充足できるものと想定している。

以上に述べた通り、18 歳人口も 22 歳人口も減少する厳しい状況が続いてはいるが、立命館大学への志願状況は高い傾向があり、かつ、全国的な大学院進学状況についても、増加傾向にあることから、入学定員の充足は可能であると判断している。

③収容定員を増加する組織の主な学生募集地域

立命館大学は、大阪・京都を含む近畿圏はもちろんのこと、東京を含む南関東圏、愛知を含む東海圏、福岡を含む九州圏からも多くの志願者を集めており、特に人口集中地域（政令指定都市および特別区が位置する都道府県）出身の在籍者は、2024（令和 6）年度で 64.2%、2023（令和 5）年度で 65.8%と、全体の 5 割を超えている【資料 23】。加えて、人口増加あるいは人口減少率 11.0%以内と予測されている 12 都県出身の在籍者は、2024（令和 6）年度で全体の 31.1%、2023（令和 5）年度で 31.0%を占めている【資料 23】。以上の実績をふまえるならば、たとえ近畿圏の人口減少があっても、本学の修士課程の基盤となる学士課程では、今後も広域からの十分な志願者の確保を見込むことができる。

「令和 6（2024）年度私立大学・短期大学等入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）によると、理工学研究科が設置されている滋賀県（京都、大阪、兵庫を除く近畿）、人間科学研究科が設置されている大阪府、デザイン・アート学研究科設置予定の京都府、における大学の定員充足状況は【別紙 1】のとおりであり、大阪府は、過去 3 年間 100%を上回っており、京都府も 100%に近い数字であった。また、デザイン・アート学研究科が含まれる芸術系、理工学研究科が含まれる理・工学系、人間科学研究科が含まれる人文学系および社会学系の大学院の定員充足状況については、【別紙 1】のとおりで、芸術系、理・工系、人文学系、社会科学系それぞれ収容定員状況は増加傾向にある。

2024（令和 6）年度の理工学研究科の志願者をみると、88.0%が立命館大学からの志願者であり、9.8%が海外の大学出身者、1.2%が立命館大学以外の近畿の大学出身者であった。

人間科学研究科入学試験の直近 3 年間（2022（令和 4）年度から 2024（令和 6）年度）の出身大学所在地域別の志願者状況をみると、学内進学入試、留学生入試をのぞいた志願者数の地域別（出身大学の所在地別）の比率は、北海道 1.3%、東北 0.8%、関東・甲信越 19.3%、北陸 2.9%、東海 6.7%、近畿 61.9%、中国・四国・九州・沖縄 7.1%となっている。キャンパスを設置する近畿圏以外からの志願者が 4 割を占め、内半分は関東・甲信越が占めており、近畿、関東・甲信越を中心に全国から志願者を集めているといえる。

新設するデザイン・アート学研究科については、近畿圏、東海圏を中心に学生募集を行う。本学学部生の出身地域ごとの在籍者数からも、京都府、大阪府、滋賀県、愛知県、兵庫県出身者が 2,000 名を超える規模であり、大学院の学生募集に際しても、同地域が中核となる【資料 23】。また、内部進学、関西圏のみならず、関東圏や東海圏、北陸、九州などからの志願者もみられ、デザイン・アート学研究科では、1 年制コースの設定やオンライン授業、集中講義の開講も含めて社会人に配慮したカリキュラム、履修構造を構築することにより、現状を維持しながら入学・受講・修了が可能となるため、関西圏のみならず、関東圏、東海圏を中心に広く社会人学生の募集地域が設定できる。なお、既設組織の映像研究

科の入学者では、日本国内で学ぶ外国人留学生の志願・入学割合も一定程度みられ、日本国内の教育機関で学ぶ大学院進学希望者も募集対象となる。

④既設組織の定員充足の状況

収容定員を変更する理工学研究科博士課程前期課程の基礎となる理工学部、人間科学研究科博士課程前期課程の基礎となる総合心理学部、2026（令和 8）年 4 月に開設するデザイン・アート学研究科修士課程の近接組織にあたる映像研究科修士課程の基礎となる映像学部について、過去 5 年間で行われた本学の一般選抜入試に関しては、延べ人数、実人数ともに募集人数を上回る志願者を確保している（なおデザイン・アート学研究科デザイン・アート学専攻の基礎となる学部として、デザイン・アート学部デザイン・アート学科の設置届出を 2025（令和 7）年 6 月に予定している）。

学科別にみても、過去 5 年間の志願者数は安定しており、理工学部の 8 学科（数理科学科、物理科学科、電気電子工学科、電子情報工学科、機械工学科、ロボティクス学科、環境都市工学科、建築都市デザイン学科）、総合心理学部総合心理学科、映像学部映像学科では、一般選抜、共通テスト利用入試、学校推薦型選抜、総合型選抜や、その他の入試のいずれにおいても、概ね募集人数以上の志願者を確保している。その結果、入学定員充足率は 1.00 前後を維持しており、収容定員充足率も適切なものとなっている【別紙 2】。

[理工学研究科博士課程前期課程]

理工学研究科博士課程前期課程の在籍者数の推移は以下のとおりであり、2024（令和 6）年度の在籍者総数としては、現在の収容定員を上回っている。

<理工学研究科博士課程前期課程在籍学生数>

専攻		2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
基礎理工学専攻	在籍学生数	98	92	77	100	119
	収容定員	100	100	100	100	100
	収容定員充足率	98.0%	92.0%	77.0%	100.0%	119.0%
電子システム専攻	在籍学生数	235	265	261	248	271
	収容定員	280	280	280	280	280
	収容定員充足率	83.9%	94.6%	93.2%	88.6%	96.8%
機械システム専攻	在籍学生数	292	303	285	306	329
	収容定員	280	280	280	280	280
	収容定員充足率	104.3%	108.2%	101.8%	109.3%	117.5%
都市システム専攻	在籍学生数	183	214	201	202	219
	収容定員	240	240	240	240	240
	収容定員充足率	76.3%	89.2%	83.8%	84.2%	91.3%
合計	在籍学生数	808	874	824	856	938
	収容定員	900	900	900	900	900
	収容定員充足率	89.8%	97.1%	91.6%	95.1%	104.2%

[人間科学研究科博士課程前期課程]

人間科学研究科博士課程前期課程の直近 5 年間の収容定員の充足状況は、2020（令和 2）年度 1.01、2021（令和 3）年度 1.02、2022（令和 4）年度 1.05、2023（令和 5）年度 1.02、2024（令和 6）年度 0.96、平均 1.01 と収容定員を満たしている。

<人間科学研究科博士課程前期課程の収容定員充足率>

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
収容定員	130	130	130	130	130
在籍学生数	131	133	137	132	125
収容定員充足率	1.01%	1.02%	1.05%	1.02%	0.96%

直近 5 年間の入学定員の充足状況は、2020（令和 2）年度 0.98、2021（令和 3）年度 0.88、2022 年度（令和 4）1.02、2023（令和 5）年度 0.94、2024（令和 6）年度 0.85、平均 0.93 とほぼ入学定員を満たす状態にある。

<人間科学研究科博士課程前期課程の入学定員充足率>

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
入学定員	65	65	65	65	65
合格者	77	71	72	73	69
入学者	64	57	66	61	55
入学定員充足率	0.98%	0.88%	1.02%	0.94%	0.85%
歩留率	0.83%	0.80%	0.92%	0.84%	0.80%

[デザイン・アート学研究科修士課程]

近接する内容の既設組織である映像研究科映像専攻修士課程の入学定員充足率等の状況は、以下のとおりである。入学定員は概ね充足しており、志願者数では、入学定員 10 名に対し、3 倍以上の志願者数が継続しており、かつ増加傾向にある。

<映像研究科映像専攻修士課程の入学定員充足率等>

映像研究科	2022 年度	2023 年度	2024 年度
志願者数	34	52	61
合格者数	12	12	12
入学者数	10	11	8
入学定員	10	10	10
入学定員充足率	1.00	1.10	0.80
在籍者数	21	22	19
収容定員	20	20	20
収容定員充足率	1.05	1.10	0.95

また、映像研究科の基礎となる学部である映像学部映像学科の入学定員充足率等の状況は、以下のとおりである。入学定員は充足しており、志願者数では2,000名を超える状況も継続している。

<映像学部映像学科の入学定員充足率等>

映像学部	2022年度	2023年度	2024年度
志願者数	2,131	2,213	2,460
合格者数	441	415	759
入学者数	168	170	258
入学定員	160	160	240
入学定員充足率	1.05	1.06	1.08
在籍者数	685	691	791
収容定員	640	640	720
収容定員充足率	1.07	1.08	1.10

以上のことより、新設組織の定員も充足できると判断している。

(3) 学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取り組みと見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

立命館大学大学院全体での募集活動においては、立命館大学大学院への進学考えている方に向けて大学院説明会を春と秋に実施している。ZOOMによるオンライン配信での開催をすることで、自宅からでも参加が可能となり、大学院に少しでも興味がある受験生の他、保護者等、誰でも気軽に参加してもらう環境を整え、前年度と同数以上の参加者を集めることを目標としている。

大学院説明会に参加した人数のうち、受験対象者数、受験者数、入学者数についてみると、理工学研究科博士前期課程では、2023（令和5）年度の大学院説明会への参加を申し込み、参加をしたのは151名、うち36名が2024（令和6）年度入試の受験対象となり、受験者14名、入学者11名であった。2022（令和4）年度説明会への参加を申し込み、参加をしたのは127名、うち43名が2023（令和5）年度入試の受験対象となり、受験者は21名、入学者は15名であった。

人間科学研究科博士前期課程では、2023（令和5）年度の大学院説明会への参加を申し込み、参加をしたのは218名、うち146名が2024（令和6）年度入試受験対象となり、受験者は66名、入学者は23名であった。2022（令和4）年度説明会への参加を申し込み、参加をしたのは391名、うち232名が2023（令和5）受験対象となり、受験者は58名、入学者は26名であった。

映像研究科修士課程では、2023（令和5）年度の大学院説明会への参加を申し込み、参加をしたのは91名、うち77名が2024（令和6）受験対象となり、受験者は26名、入学者は5名であった。2022（令和4）年度説明会への参加を申し込み、参加をしたのは61名、うち45名が2023（令和5）の受験対象となり、受験者は14名、入学者は4名であった【別紙3】。

その他にも、学内の学生向けには「大学院ウィーク」企画を開催している。「大学院ウィーク」とは、2週間の期間で、各研究科で大学院の志願者確保につなげる企画を実施するもので、学生に大学院進学

を検討する機会を提供している。大学院ウィークは、低回生から参加が可能であり、学生に大学院進学という進路を考えてもらうことと、学内進学者の確保を目標としている。

理工学研究科については2024（令和6）年度入学者の90.6%が、人間科学研究科については2024（令和6）年度入学者の63.6%が学内進学となっており、大学院ウィークによる効果も大きいものと考えられる。

イ 収容定員を増加する組織における取組とその目標

[理工学研究科博士課程前期課程]

理工学研究科博士課程前期課程は入学定員の拡大に伴い、学生募集に向けた取組として、PR活動の方針、戦略、実施計画、目標を、以下のように設定する。

PR活動の方針としては、理工学研究科の魅力をはじめ、大学院進学を目指す上で必要な情報を広範囲に提供し、より多くの学生、そして多様な層へアプローチする。従来までは、もともと大学院進学を目指す意識を持つ学生に対してのPR活動が中心であった。引き続き大学院進学を目指す学生に対してのPR活動は継続し、強化していく。

さらに、女子学生と留学生に重点的にアプローチを行う。女子学生の大学院進学率は、男子学生と比較して、低い傾向にあり、学部低回生からのPRなどによって、まだ進学者数を伸ばせる可能性がある。留学生はこの間、理工学研究科と連携を望む海外の大学が増えていることや、これまで英語基準入試の広報が十分でなかったため、進学者数を伸ばせる可能性がある。外国人留学生や女子学生、加えて進路の選択肢に大学院進学が入っていない層に対してアプローチすることで、学生募集の効果を高める。また、理工系は文社系に比べて大学院進学率が高く、経済面や大学院進学後のキャリアプランについての理解を促進することも必要であることから、保護者に対してもアプローチを行う。

PR活動の戦略としては、大学院進学説明会や、大学院ウィークでの広報の継続、参加者数・参加者層の拡大、企画内容の充実化を図り、研究科の魅力や入試制度、奨学金制度、修了後のキャリア等の情報や、大学院生との交流機会を提供するなどの機会を提供し、内部進学者および外部からの進学者をターゲットとする。

PR活動の実実施計画としては、年間3回程度実施している学生を対象とした大学院進学説明会では、PDCAサイクルを確立し、参加者が求める情報提供や説明内容を精査して計画・実施し、参加者からのアンケート結果をもとに、常にアップデートされた説明会を実施する。参加者のニーズに応えることで、学生募集に繋がり、参加者数の増加、参加者層を拡大させる。

また年に1回保護者向け大学院進学説明会を実施しているが、保護者が参加しやすいようオンライン開催かつ土曜日での開催としており、従来の取組において満足度が高い状態を維持している。保護者からは、経済的な不安が解消された、大学院進学の意義が理解できた、学生（子供）の進学意思を尊重しようと思う等、保護者向けに大学院進学説明会を実施する意義は大きく、学生確保に向けて重要な役割を担っているため、継続して実施し、内容を精査して参加者数を増加させる。

外国人留学生については、海外大学と新たに連携するために交換留学や研究交流を積極化し、理工学研究科のPR活動を行い、協定による入試制度を確立することで、学生募集を行う。また、学部間交流のあるインドを中心とした提携・協力校との連携を強化し、国費外国人留学生としての受入を念頭に学生

募集を行う。

女子学生については、学部入学時から女子大学院生との交流機会を提供し、学部低回生から早期段階での大学院進学を意識醸成を図る。また、大学院修了後のキャリアについて、特に女子学生に対しては正しい情報提供を行うことで、キャリアに対する不安を解消することを狙う。

PR 活動の目標としては、学生を対象とした大学院進学説明会は、年間 600 名以上の参加、満足度は 95%以上、本研究科への進学希望者は参加者数の 80%程度を目標とする。また、参加者の属性についても分析を行い、参加者増の多様化についてもモニタリングする。保護者を対象とした大学院進学説明会についても、年間 600 名以上の参加、満足度は 95%以上を目標とする。外国人留学生については、年間 5 校と交流し、2027（令和 9）年までに 3 校との協定を締結する。女子学生については、年間 4 件の企画を開催し、本学部の男子学生の過去 5 年間の進学率 52.7%に近い水準を女子学生でも目指す。

[人間科学研究科博士課程前期課程]

PR 活動の方針としては、人間科学研究科が掲げるアドミッション・ポリシーおよび教育理念に沿った形で、研究科の特色や教育内容、進路支援体制などについて、誠実かつ公正に情報を発信していくことを基本方針とする。学生一人ひとりが自身の関心や志向と照らし合わせて進学を検討できるよう、研究科の魅力や正しく伝えるとともに、現役学生との座談会などを含めた双方向のコミュニケーションを重視した広報を展開する。特に、多様な背景を持つ受験希望者（内部進学者、外部受験者、社会人、留学生など）に対して、それぞれに適した情報提供と相談体制を整備することを重視する。

PR 活動の戦略としては、年間を通じた複数回の大学院進学説明会や大学院ウィークに加えて、SNS やウェブサイトなどのデジタルメディアを活用し、研究科の教育内容・カリキュラムの特徴、修了後の進路などをわかりやすく発信する。また、在學生・修了生の声を通じて、より具体的でリアルな大学院生活のイメージを伝えることを強化する。さらに、2026（令和 8）年度からのカリキュラム改革に伴い、新たに魅力を増す実践人間科学領域に焦点を当てた広報活動を展開し、領域間の入学者数のバランス是正にもつなげていく。

内部進学希望者に対しては、学部段階からの継続的な進学支援や個別相談を充実させる一方、外部受験者・社会人・留学生に対しては、大学院進学の意味や社会的な有用性をわかりやすく示すコンテンツを用意し、それぞれのニーズに応じたアプローチを取っていく。加えて、入試の公正性・透明性を伝える工夫（出題方針の紹介、選考プロセスの明確化など）も強化し、受験への安心感を提供する。

PR 活動の目標としては、独自の大学院入試説明会を複数回開催し、現行、入学定員 65 名に対して約 2.6 倍の志願者を確保していることから、入学定員 75 名の 2.6 倍、195 名の大学院入試説明会参加者の確保を目標とする。また、入学者においては 3 領域間でのバランスにも留意した志願者の確保を図る。特に、2024（令和 6）年度に入学者数が少なかった実践人間科学領域については、2026（令和 8）年度カリキュラム改革を見据え、希望者数の増加が期待される中、説明会等においてその魅力や新設科目の内容を積極的に伝え、より多くの志願者を集めることを目標とする

[デザイン・アート学研究科修士課程]

本研究科は主として社会人を対象とした 1 年制のコースと、デザインやアートにとどまらず、様々な

領域の学部からの進学者を対象とした2年制の2つのコースを設ける。

方針としては、デザイン・アート学研究は、総合大学である本学がデザインやアートの領域を教育研究の対象とし、未来社会を感性豊かに創造する人材を育成するとともに、アートの技術と感性を基盤に自然科学と人文・社会科学を横断した研究領域を開拓し、新たなデザイン学を追究することを目的として構想しているため、多種多様な入学層にアプローチする。

戦略としては、2026（令和8）年の開設時では、基礎となる学部の卒業生がいないことから、社会人をメインターゲットとし、修士学位を有さないデザイン関連の社会人や将来のアカデミックフィールドを目指す社会人向けの教育研究を実践する。主として社会人を対象としたコースを設けることは、企業・組織において戦略立案に関わる役職・地位が与えられたものの、そのスキルやマインドセットを持たないことに悩む中堅以上のビジネスパーソン、ジョブ型雇用の促進により自立した職能を得ることによるキャリアアップを目指す比較的若いビジネスパーソン、デジタル分野やイベントマネジメントがますます重視されるアート関連職種（＝社会人）のニーズが極めて高いと考えられ、この多様なニーズにこたえていくことが狙いである。当然ながらより深くデザイン・アートの領域を研究したい学生を迎え入れるために、一般的な就学期間である2年制のコースも置き、学生確保につとめる。様々なアプローチで学部卒業生も迎えることで、多種多様な大学院生が、各々の学生が持つ専門性に裏打ちされた自らの強みを生かしながら、多様なプロジェクトに参加し、他者との協働的実践的な活動を通じて、研究を深めていく研究科を形成することを目指し、志願者確保に取り組む。

PR活動の戦略として、本研究科では以下6点のPR活動を実施する。

1) ホームページ上での情報公開

デザイン・アート学研究科の独自のホームページを制作し、専攻の特徴、教員紹介、3つのポリシー、教育研究施設を中心に情報を発信する。

2) 大学院案内

全ての研究科を掲載する大学院案内に新たにデザイン・アート学研究科の紹介ページを追加し、「立命館大学大学院入試情報サイト」上で公開する。大学院案内の請求時にデザイン・アート学研究科の基本情報も発信できるよう準備しておく。

3) デザイン・アート学研究科パンフレットの作成

デザイン・アート学研究科の独自のパンフレットを作成し、近畿、東海圏のみならず首都圏の製造業、卸売業、小売業、建築業、IT関連企業などデザイン・アート学研究科が育成する人材像に関連する企業を対象に800件程度郵送し、情報発信に努める。

4) 学内における大学院進学説明会、研究科別入試説明会

学内における研究科合同の大学院進学説明会にデザイン・アート学研究科も参画するとともに、研究科独自の入試説明会も実施する。社会人募集にも注力し、オンラインでの開催や開催の時間帯も夜間や週末にも設定する。また、「大学院ウィーク」にも参加し、総合大学である強みを生かし、幅広い学部学生へのアプローチにも取り組む。

5) 大学院進学の情報サイト

大学ホームページ上での研究科の情報発信のみならず、民間で広く情報発信している大学院進学情報サイト（大学院へ行こう！等）に参画し、デザイン・アート学研究科の情報、説明会やイベント情報を

発信する。

6) ROOT (Ritsumeikan Osaka-umekita Open innovation Terrace) での大学院案内等の配布
大阪市北区グラングリーン大阪北館 JAM BASE の 5 階に開設した ROOT において、主として社会人を対象とした企画、イベント開催時や通常利用時に大学院案内等の資料を配布しする。

PR 活動の目標として、大学院進学説明会、研究科別入試説明会については、年間で 10 回以上の説明会を実施し、年間総数で 150 名以上の参加数を目標として設定する。ROOT での大学院案内等においては、年間で 100 名以上との接点を持つことを目指し、社会人を中心とした本研究科の認知形成に努める。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づき、収容定員を増加する組織での入学者の見込み数

[理工学研究科博士課程前期課程]

学生を対象とした大学院進学説明会や、大学院ウィークでは、本学理工学部定員の約半数にあたる研究科全体として、480 名程の入学者を見込んでいる。そのため大学院進学説明会には、年間 600 名以上の参加者を目指しており、参加者の進学希望者が 80%程度の水準としている。480 名の入学者を見込めるように PR 活動の実施計画を遂行し、参加者数・参加者層の拡大、企画内容の充実化を図る。

保護者を対象とした大学院進学説明会では、保護者の協力・理解を得ることを目的としているため、一概に本取組のみでの入学者の見込みは立てられないが、教員や保護者からの勧めがきっかけで大学院進学を目指すことになった学生は、2024 (令和 6) 年 4 月開催の大学院進学ガイダンスで実施したアンケートでは 8.5%いることを確認している。学生を対象とした大学院進学説明会と保護者を対象とした大学院進学説明会による相乗効果で、大学院進学説明会によって見込まれる入学者数は 500 名程である。外国人留学生については、協定による入試で 10 名程の入学者、学部間交流のあるインドを中心とした提携・協力校から国費外国人留学生としての受入は 5 名の計 15 名程の入学者を見込む。女子学生については、本学部女子学生の過去 5 年間の進学率 37.2%から進学率 50%に引き上げることを目標としているため、15 名程の入学者を見込む。

これらのことから、理工学研究科博士前期課程では、基礎理工学専攻博士課程では 70 名、電子システム専攻では 155 名、機械システム専攻では 155 名、都市システム専攻では 145 名の入学者を見込んでいる。

[人間科学研究科博士課程前期課程]

これまで本学人間科学研究科は例年、入学定員の約 2.6 倍の志願者数と、入学定員を上回る受験者数と、高い入学定員充足率を確保してきた。大学院入試説明会の参加状況からは学内進学にとどまらず、他大学学部生、社会人の志望度の高さがうかがえる。また留学生も例年、平均 35 名の志願者を得ている。2026 (令和 8) 年度に予定している収容定員増とカリキュラム改革は一層、人間科学研究科への志望を促進するものと考えられる。

また、総合心理学部からの学内進学について、上述の通り、総合心理学部の進路・就職状況では大学院進学率が 20.05%と高く、学内進学入試 (7 月) の直近 5 年間の志願者数は、2020 (令和 2) 年度 35 名、2021 (令和 3) 年度 39 名、2022 (令和 4) 年度 41 名、2023 (令和 5) 年度 32 名、2024 (令和 6) 年度 47 名と多いが、研究科の規模からは進学希望者全体を受け入れる状況にない。収容定員増は総合心

理学部からの学内進学を希望する志願・入学の受け皿を広げることとなり、入学者確保の充実・安定化につながると考えられる。収容定員を増加する 2026（令和 8）年度以降は安定的に入学定員 75 名の入学者確保を見通している。

[デザイン・アート学研究科修士課程]

ホームページ上での情報公開、大学院案内・デザイン・アート学研究科パンフレットの配布、ROOTでの取り組みに加え、学内における大学院進学説明会、研究科別入試説明会、「大学院ウィーク」への参加の取組を行うことにより、デザイン・アート学研究科の入学定員 20 名を確保する。既設組織の募集活動を上回る活動や施策を行い、ビジネスパーソンやリスクリング、学位取得を目指す社会人や企業に積極的に広報活動を行う。このように、従来と異なる志願・入学母体層の形成により、既設組織の志願率、入学率は既設組織よりも相対的に高い割合になると想定できる。

② 競合校の状況分析

ア 競合校の選定理由と収容定員を増加する組織との比較分析、優位性

[理工学研究科博士課程前期課程]

【競合校選定の理由】

本学理工学研究科の競合校として、関西大学大学院理工学研究科と、関西学院大学大学院理工学研究科を選定した。関西大学大学院、関西学院大学大学院とも本学同様に文社系、理工系の学部・研究科をもつ総合大学である。理工学研究科の規模は関西大学大学院 336 名、関西学院大学大学院 340 名と大規模な理工系の研究科を設置している。所在地は両大学院とも関西にあり、学力層も類似している。学問分野については都市システム専攻のみ、関西学院大学大学院の建築学専攻が 2025（令和 7）年に設置のため、本学の都市システム専攻の競合校から外した。以下、専攻毎の競合校の研究科と専攻である。

(基礎理工学専攻)

	入学定員	収容定員	所在地
関西大学大学院 理工学研究科 システム理工学専攻	142	284	大阪府吹田市山手町 3-3-35
関西学院大学大学院 理工学研究科 数理科学専攻	15	30	兵庫県三田市学園上ヶ原 1 番
関西学院大学大学院 理工学研究科 物理・宇宙物理学専攻	25	50	兵庫県三田市学園上ヶ原 1 番

(電子システム専攻)

	入学定員	収容定員	所在地
関西大学大学院 理工学研究科 システム理工学専攻	142	284	大阪府吹田市山手町 3-3-35
関西学院大学大学院 理工学研究科 先進エネルギーナノ工学専攻	63	126	兵庫県三田市学園上ヶ原 1 番

(機械システム専攻)

	入学定員	収容定員	所在地
関西大学大学院 理工学研究科 システム理工学専攻	142	284	大阪府吹田市山手町 3-3-35
関西学院大学大学院 理工学研究科 知能・機械工学専攻	29	58	兵庫県三田市学園上ヶ原 1 番

(都市システム専攻)

	入学定員	収容定員	所在地
関西大学大学院 理工学研究科 システム理工学専攻	142	284	大阪府吹田市山手町 3-3-35

【入試について】

関西大学大学院、関西学院大学大学院の 2025（令和 7）年度入試の主な試験の実施状況は以下のとおりである。本学理工学研究科では、7月に学内進学試験、8月に一般入試・留学生入試・社会人入試、2月に一般入試・留学生入試・社会人入試・飛び級入試を実施している。他大学大学院も春に学内進学入試、夏と冬にそれぞれ入試を実施しており、志願者の状況に応じて入試を受けることができる条件が整っている。

関西大学大学院理工学研究科

6月:学内進学入試、8月:一般入試、10月:外国人留学生入試・社会人入試

2月:学内進学入試・一般入試・外国人留学生入試・社会人入試・特別選抜入試

関西学院大学大学院理工学研究科

6月:前期課程推薦入試、特別推薦入試、8月:前期課程一般（第一次）入試、

2月:前期課程一般（第二次）入試・特別学生入試

【就職支援の内容】

立命館大学は3キャンパスにキャリアセンターを設置しており、全体で合計66名のスタッフで立命館大学の学生、院生のキャリア支援を行っている。様々な学生への支援として、「低回生への支援」「グローバルキャリア・留学支援」「大学院生の就職・キャリア支援」「個別支援を要する学生への支援」を行っており、いずれの支援においても、それぞれの属性に応じたキャリア選択の幅や可能性を提示するような支援や企画を実施し、自身のキャリアを考え次の行動を促す支援を行っている。とりわけ理工系学生に対しては学校推薦制度を他大学とは異なる形で有効に活用し、学生・大学院生の希望する進路の実現に寄与している。また国家公務員総合職試験・公認会計士試験・司法試験といった「難関試験」への支援も重点課題として取り組んでおり、2024（令和6）年度の国家公務員試験総合職の合格者数は84名で、全国の大学の中で3位の結果を残している。

理工学研究科博士課程前期課程の2023（令和5）年度の就職決定率は98.5%となっており、そのうち53%が上場企業となっており、他大学と比較しても非常に高い水準にあると言える。

[人間科学研究科博士課程前期課程]

競合校について、本学人間科学研究科は入学定員 65 名と心理学系研究科の中でも規模が大きく、定員規模の類似性からの競合校の設定は困難であるが、私立大学の心理学系研究科で、本研究科所在地(大阪)を含む近畿圏と隣接する東海圏で、母体となる学部の学力層の類似性の観点から以下を競合校として設定した。

	入学定員	収容定員	所在地
同志社大学大学院 心理学研究科 心理学専攻	10	20	京都府京田辺市多々羅都谷 1-3
関西大学大学院 心理学研究科 心理学専攻	12	24	大阪府吹田市山手町 3-3-35
関西大学大学院 心理学研究科 心理臨床学専攻	15	30	大阪府吹田市山手町 3-3-35
関西学院大学大学院 文学研究科 総合心理学専攻	20	40	兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155
中京大学大学院 心理学研究科 実験・応用心理学専攻	5	10	愛知県名古屋市中区八事 本町 101-2
中京大学大学院 心理学研究科 臨床・発達心理学専攻	15	30	愛知県名古屋市中区八事 本町 101-2

同志社大学大学院心理学研究科は臨床領域における認知行動心理学アプローチや、研究においても量的研究を中心とした実績を持ち、関西大学大学院心理学研究科はヒューマンスティック心理学を専門とする教員陣が充実しており、幅広く基礎領域をカバーしている、関西学院大学大学院文学研究科心理学専攻は臨床領域において認知行動心理学アプローチに特化し、研究においても量的研究を中心とした取り組みが進められている、中京大学大学院心理学研究科は 実験・応用心理学専攻と臨床・発達心理学専攻を持ち、実験心理学と臨床心理学を共に学べ、資格取得にも力を入れている、といった特徴を有している。

一方、本研究科は競合校との比較において、基礎心理学・臨床心理学のどちらかに偏ることなく、心理学、臨床心理学、実践人間科学の 3 つの観点から従来の心理学諸領域を超えた学びを提供しており、専門領域の総合性、さらには博士課程後期課程についても量的・質的な規模を展開していることも他大学大学院の研究科にない特徴といえる。

公認心理師・臨床心理士などの心理専門職の育成においても、①専任教員に加えて、任期制教員や嘱託教員が加わる実践家からの実習指導が充実している、②実践人間科学領域の科目履修が可能であるため、対人援助の最先端の実践のあり方についてより広く学ぶことができる、③研究指導は幅広く全教員から主たる指導教員を選ぶことができる点も本研究科の強みといえる。

人間科学研究科の就職支援についてもキャリアセンターと研究科が連携して就職支援を行っており、研究科の特性に合わせてキャリア選択の幅や可能性を提示するような支援や企画を実施し、自身のキャリアを考え次の行動を促す支援を行っている。

2023 (令和 5) 年度修了生の進路就職状況を見ると、就職 62.7%、大学院進学 13.6%、その他 18.6%、

不明 5.1%となっている。就職の業種をみると公務員 28.1%と多く、次いで医療・福祉施設 18.8%、IT 情報処理 15.6%、メーカー 15.6%、サービス 9.4%、官公庁・団体 6.3%、教育機関 3.1%、金融 3.1% となっており、心理学、人間科学の専門性を活かして多様な分野業種で修了生が活躍していることが伺える。

[デザイン・アート学研究科修士課程]

競合校の状況分析に際し、「京都芸術大学大学院芸術研究科芸術専攻（対面学習）」、「武蔵野美術大学大学院造形構想研究科造形構想専攻（クリエイティブリーダーシップコース）」、「多摩美術大学大学院美術研究科デザイン専攻（統合デザイン）」、「慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科およびシステムデザイン・マネジメント研究科」を選定した。なお、選定理由については、以下のとおりである。

・京都芸術大学大学院芸術研究科

本学同様に京都に立地する私立大学であり、芸術系統の専攻を設置している点で類似性がある。

・武蔵野美術大学大学院造形構想研究科

本学同様に私立大学であり、デザイン学系統の専攻・コースを設置し、プロジェクト型の教育を実施している点で類似性がある。

・多摩美術大学大学院美術研究科

本学同様に私立大学であり、デザイン学系統の専攻・研究領域を設置している点で類似性がある。

・慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科、システムデザイン・マネジメント研究科

本学同様に私立大学であり、幅広い領域を対象とするデザイン学系統の専攻・研究領域を設置している点で類似性がある。

大学・研究科	専攻	学位	入学定員	所在地
立命館大学大学院 デザイン・アート学研究科	デザイン・アート学 専攻	修士（デザイン・アート学）	20名	京都市北区等持院北町 56-1
京都芸術大学大学院 芸術研究科	芸術専攻	修士（芸術）、 修士（学術）	60名	京都市左京区北白川瓜生山 2-116
武蔵野美術大学大学院 造形構想研究科	造形構想専攻	修士（造形構想）	35名	東京都小平市小川町 1-736
多摩美術大学大学院 美術研究科	デザイン専攻	修士（芸術）	62名	東京都八王子市鎌水 2-1723
慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科	メディアデザイン専攻	修士（メディアデザイン学）	80名	神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1
慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科	システムデザイン・マネジメント専攻	修士（システムデザイン・マネジメント学）	77名	神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1

【教育内容と方法、受験時期など】

競合校の京都芸術大学大学院芸術研究科芸術専攻では、2つの領域に分かれ、武蔵野美術大学大学院造形構想研究科造形構想専攻でも2つのコースに分かれる。また、多摩美術大学大学院美術研究科デザイン専攻では、6つの研究領域に分かれ、それぞれのコースや専門領域で専門性に特化した教育研究を行っている。また、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科では、リサーチインテンシブと主として社会人を中心とするラーニングインテンシブの2コースが設けられている。競合校の専らは、大学院レベルでは一般的な専攻やコースで区分して、特化した専門の研究を深めるカリキュラムが設計されている。

一方、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科や本学のデザイン・アート学研究科は、一専攻で他領域を融合させる教育研究を行うカリキュラムが設計されている。とりわけ、本学のデザイン・アート学研究科では、フィジカルとデジタルが融合した未来の生活世界の創造に重要な「意味」、「情報」、「環境」、「社会」の4つの領野と方法論を横断的・融合的に学び、理論とともに必要な技能を修得し、デジタルネイティブのデザイン・アート教育研究にアプローチする点が競合校と比較して大きな特長となる。

また、16名の教授、7名の准教授と総勢23名の教員がデザイン・アート学研究科の教育研究に参画する。保有する学位も文学、デザイン学、工学、美術、学術など4つの領野からの最新の研究や実践を教授できるに十分な体制であり、自然科学と人文・社会科学を融合する教育研究を実質化できることにも大きな優位性がある。教員が連携して教育研究に携わる象徴的な事例としては、デザイン・アート学研究科カリキュラムの「新領域デザイン・アート学基盤科目群」に表れている。この科目群では、デザイン・アートが関わる状況の変化や進化、新たな研究対象領域に対応するための科目が配置されている。「デザイン学」、「アート」、「情報」、「社会」、「環境」、「意味」の6領野からの専任教員が参画し、研究方法論やケーススタディを中心にオムニバス形式での授業が展開される。研究者や社会実践者の取組を通じて、最新の研究や実践について、社会背景や背景理論、概念や課題設定、アプローチ、方法論的特性、技術などの多面的な観点から分析・理解し、研究の推進が行えるような内容で構成されている。

さらに、学位授与プロセスにおいては、セメスターごとに、「成果報告会」や「中間報告会」、「修士研究成果報告会」、「口頭試問」など、研究指導のみならず、学位授与プロセス全般で複数の教員や院生が参画し、相互で研究の進捗や質的向上を図れるような機会が設定されており、このようなきめ細やかな学位授与プロセスについても、本学デザイン・アート学研究科の優位性があるといえる。

なお、受験時期や入学手続時期については、競合校含め、9月下旬から2月中旬の期間までに受験機会が設定され、試験日から2週間前後の期間で手続時期が設定されている。

【学生納付金、修学支援】

本学のデザイン・アート学研究科および競合校の初年次の学生納付金については、以下のとおりである。本学のデザイン・アート学研究科の初年度納付金（2年制）は、相対的に低額に設定されていることが把握される。さらに、本学の研究科には、修士課程学生に向けた奨学金制度があり、「1年次対象成績優秀者奨学金」、「博士課程前期課程学生会奨学金」など大学独自に経済的支援を行っている。

大学・研究科	初年度総額	入学金	授業料	施設費・維持費・ 実習費ほか
立命館大学大学院 デザイン・アート学研究科	2年制 1,111,600円	200,000円	811,600円	100,000円
	1年制 1,923,200円	200,000円	1,623,200円	100,000円
京都芸術大学大学院 芸術研究科	1,890,000円	250,000円	1,320,000円	320,000円
武蔵野美術大学大学院 造形構想研究科	1,778,000円	150,000円	1,210,000円	418,000円
多摩美術大学大学院 美術研究科	1,759,000円	200,000円	1,237,000円	322,000円
慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科	1,980,000円	—	1,920,000円	60,000円 (在籍基本料)
慶應義塾大学大学院 システムデザイン・ マネジメント研究科	1,980,000円	—	1,920,000円	60,000円 (在籍基本料)

【就職支援、資格】

いずれの大学においても、研究科学生の就職支援について、キャリアセンターが設置され、支援を実施している。本学の就職支援は、キャリアセンターと学部・研究科が連携をとって、学部・研究科の特性に即した就職支援に取り組むとともに、とりわけ新設学部・研究科においては進路開拓などにも力を入れていく。また、学生・院生の状況を把握しつつ、時期や学生・院生の置かれた状況に沿った手厚い支援を行っており、他大学と比較しても非常に高い水準にある。

資格については、京都芸術大学大学院、多摩美術大学大学院において、中学校教諭専修免許状（美術）、高等学校教諭専修免許状（美術）、科目等履修生としての受講により、学芸員資格が取得できる。

イ 競合校の入学志願動向等

[理工学研究科博士課程前期課程]

関西大学大学院理工学研究科博士課程前期課程、関西学院大学大学院理工学研究科博士課程前期課程の過去3年間の入学志願状況等は、過去3年間の平均では、理工学研究科全体で志願倍率は関西大学大学院が1.28倍、関西学院大学大学院は1.45倍となっている。また、入学定員に対する充足率は、理工学研究科全体で関西大学大学院が104.1%、関西学院大学大学院は120.5%となっており、専攻別に見ても高い割合で安定的に志願者と入学者を確保していることがわかる。

< 関西大学大学院理工学研究科博士課程前期課程 >

	システム理工学専攻				環境都市工学専攻			
年度	2022年	2023年	2024年	3年平均	2022年	2023年	2024年	3年平均
入学定員	142	142	142		86	86	86	
志願者	203	216	165		99	112	129	
合格者	192	195	150		92	104	99	
入学者	172	182	140		82	90	88	
入学定員充足率	121.1%	128.2%	98.6%		116.0%	95.3%	104.7%	
志願倍率	143.0%	152.1%	116.2%	137.1%	115.1%	130.2%	150.0%	131.8%

< 関西学院大学大学院理工学研究科博士課程前期課程 >

	数理学専攻				物理学専攻 (物理・宇宙物理学専攻)			
年度	2022年	2023年	2024年	3年平均	2022年	2023年	2024年	3年平均
入学定員	10	10	10		22	22	22	
志願者	12	14	12		25	16	24	
合格者	11	14	10		21	14	20	
入学者	10	13	10		21	8	18	
入学定員充足率	100.0%	130.0%	100.0%		110.0%	95.5%	36.4%	
志願倍率	120.0%	140.0%	120.0%	126.7%	113.6%	72.7%	109.1%	98.5%
	先進エネルギーナノ工学専攻				人間システム工学専攻 (知能・機械工学専攻)			
年度	2022年	2023年	2024年	3年平均	2022年	2023年	2024年	3年平均
入学定員	30	30	30		25	25	25	
志願者	36	48	42		50	36	44	
合格者	29	39	31		46	32	36	
入学者	26	36	30		46	29	35	
入学定員充足率	86.7%	120.0%	100.0%		102.2%	184.0%	116.0%	
志願倍率	120.0%	160.0%	140.0%	140.0%	200.0%	144.0%	176.0%	173.3%

※ 関西学院大学大学院は2025（令和7）年度に収容定員変更及び名称変更を行っているが、上記収容定員は2024（令和6）年度入試までの実績のため、収容定員変更前の数字となる。なお、（ ）内は2025年（令和7）年度からの新しい名称。

以上のように、関西大学大学院、関西学院大学大学院では、安定的に志願者と入学者を確保しており、社会的にも理工系人材が求められていることから、さらに志願倍率や入学者数が増加していくことは明らかであり、本学理工学研究科博士課程前期課程において、新たな定員を充足する十分な見込みがあると判断できる。

[人間科学研究科博士課程前期課程]

本学人間科学研究科と競合校の2022（令和4）年度、2023（令和5）年度、2024（令和6）年度入試における志願者、合格者、入学者、入学定員充足率、歩留率は以下の通りである。本研究科は競合校に比して入学定員の規模が大きいが、入学定員充足率、歩留率とも競合校より高いもしくは同等の数値を確保している。従って本学人間科学研究科博士課程前期課程においても、新たな定員を充足する十分な見込みがあると判断できる。

	立命館大学大学院 人間科学研究科 人間科学専攻			同志社大学大学院 心理学研究科 心理学専攻			関西大学大学院 心理学研究科 心理学専攻/ 心理臨床学専攻		
年度	2022年	2023年	2024年	2022年	2023年	2024年	2022年	2023年	2024年
入学定員	65	65	65	10	10	10	27	27	27
志願者	180	136	169	33	25	33	34	38	43
合格者	72	73	69	13	9	12	22	23	24
入学者	66	61	55	8	6	10	20	20	22
入学定員充足率	1.02	0.94	0.85	0.80	0.60	1.00	0.74	0.74	0.81
歩留率	0.92	0.84	0.80	0.62	0.67	0.83	0.91	0.87	0.92
	関西学院大学大学院 文学研究科 総合心理科学専攻			中京大学大学院 心理学研究科 実験・応用心理学専攻/ 臨床・発達心理学専攻					
年度	2022年	2023年	2024年	2022年	2023年	2024年			
入学定員	20	20	20	20	20	20			
志願者	27	30	28	45	50	37			
合格者	14	17	11	15	16	10			
入学者	8	15	11	14	14	10			
入学定員充足率	0.40	0.75	0.55	0.70	0.70	0.50			
歩留率	0.57	0.88	1.00	0.93	0.88	1.00			

[デザイン・アート学研究科修士課程]

競合校として設定した研究科についての入学志願状況は以下のとおりである。専攻単位での志願・入学者数等の状況では、武蔵野美術大学大学院、多摩美術大学大学院では大幅に入学定員を充足しており、京都芸術大学大学院においても入学定員に近い入学者を確保している。なお、慶應義塾大学大学院については、春入学・秋入学の入学制度を設けている。従って本学デザイン・アート学研究科修士課程においても定員を充足する十分な見込みがあると判断できる。

京都芸術大学大学院芸術研究科	2022年度	2023年度	2024年度
志願者数	掲載なし	掲載なし	掲載なし
合格者数	掲載なし	掲載なし	掲載なし
入学者数	87	42	53
入学定員	60	60	60
入学定員充足率	1.45	0.7	0.88

武蔵野美術大学大学院造形構想研究科	2022年度	2023年度	2024年度
志願者数	201	295	317
合格者数	57	55	62
入学者数	50	52	62
入学定員	35	35	35
入学定員充足率	1.43	1.49	1.77

多摩美術大学大学院美術研究科	2022年度	2023年度	2024年度
志願者数	408	564	515
合格者数	73	90	78
入学者数	71	90	78
入学定員	62	62	62
入学定員充足率	1.15	1.45	1.26

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科	2022年度	2023年度	2024年度
志願者数	350	446	掲載なし
合格者数	107	106	掲載なし
入学者数	98	94	掲載なし
入学定員	80	80	80
入学定員充足率	1.23	1.18	—

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科	2022年度	2023年度	2024年度
志願者数	133	129	掲載なし
合格者数	72	70	掲載なし
入学者数	61	69	掲載なし
入学定員	77	77	77
入学定員充足率	0.79	0.90	—

ウ 収容定員を増加する組織において定員を充足できる根拠等

理工学研究科および人間科学研究科については、競合校については定員を充足しているため、該当しない。

デザイン・アート学研究科修士課程について、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科は、確認できる過去2年の平均でも未充足となっているが、「私立大学・短期大学等入学志願動向」によると、研究科系統別の入学定員充足率（修士課程）では、芸術系は121.56%を示している。また、デザイン・アート学研究科に関連する既設組織である映像研究科の志願者数は入学定員を上回る数で推移しており、入学定員充足率も高い状況を継続している。

デザイン・アート学研究科修士課程の入学定員は20名であり、競合校に比べて、入学定員は小さくなく、上述のようなきめ細やかな教育研究の指導体制や学位授与の工程などの特長からも競合校同様に、入学定員を充足できると判断している。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

[理工学研究科博士課程前期課程]

○学生納付金、奨学制度などの就学支援の内容

立命館大学大学院理工学研究科の2025（令和7）年度の学費は1,244,400円（基礎理工学専攻は1,163,200円）となっており、競合校及び他大学大学院と比較してやや高めの設定である。しかし、1回生、2回生時に配分される博士課程前期課程1年次対象成績優秀者奨学金や2年次対象成績優秀者奨学金の給付、大学院博士課程前期課程研究実践活動補助金による学会参加時の補助のほか、配属後の研究室における研究活動に対してもさまざまな支援を行っている。このように他大学と比較して学生納付金は若干高くなっているものの、奨学金、学会参加時の補助、配属後の研究室での研究活動時のさまざまな補助等を総合的に考えると、学生納付金等の金額設定は妥当であると考えている。

大学・研究科	納付金
関西大学大学院理工学研究科博士課程前期課程 (2025年度)	1,139,000円
関西学院大学大学院理工学研究科博士課程前期課程 (2025年度数理学専攻以外)	1,010,000円 (授業料715,000円、実験実習費87,000円、教育充実費208,000円)

[人間科学研究科博士課程前期課程]

人間科学研究科博士課程前期課程の2024（令和6）年度の初年度納付金は1,093,000円、総合心理学部からの学内進学者は入学金を除く893,000円としている。本学の人文社系研究科の初年度納付金は788,000円（入学金除く）であるが、教員体制、実験・実習等の施設整備など充実した教学条件を踏まえた学費設定としている。なお収容定員増にともなう学費額の変更は予定していない。競合校の初年度納付金と比較しても学生納付金が学生確保に影響を及ぼす金額設定になっていない。

<競合校の諸年度納付金（2024年度、大学ポータルレート 学費・経済的支援から）>

		初年度納付金	
		自大学出身	他大学出身
同志社大学大学院心理学研究科心理学専攻		¥881,000	¥981,000
関西大学大学院心理学研究科	心理学専攻	¥749,000	¥879,000
	臨床心理学専攻	¥1,000,000	¥1,130,000
関西学院大学大学院文学研究科総合心理科学専攻		¥563,000	¥763,000
中京大学大学院心理学研究科	実験・応用心理学専攻	¥755,000	¥955,000
	臨床・発達心理学専攻	¥755,000	¥955,000
立命館大学大学院人間科学研究科人間科学専攻		¥893,000	¥1,093,000

[デザイン・アート学研究科修士課程]

デザイン・アート学研究科の学費については、新設研究科であることから、衣笠キャンパスの既存施設の改修、新たな施設建設、機器、備品の整備が不可欠であり、これをふまえた学生納付金等の設定を行っている。競合校との比較では、デザイン・アート学研究科の1年制コースと競合校の初年度総額が同等程度の水準であり、デザイン・アート学研究科の2年制コースの初年度総額を比較すると、競合校より最大で87万円程度低額であり、相対的に学生納付金等の総額負担が少ないことが把握できる。

<競合校との学生納付金等（初年度総額）の比較>

大学	研究科	初年度総額 (入学金等含む)
立命館大学大学院	デザイン・アート学研究科	1年制 1,923,200
		2年制 1,111,600
京都芸術大学大学院	芸術研究科	1,890,000
武蔵野美術大学大学院	造形構想研究科	1,778,000
多摩美術大学大学院	美術研究科	1,759,000
慶應義塾大学大学院	メディアデザイン研究科	1,980,000
慶應義塾大学大学院	システムデザイン・マネジメント研究科	1,980,000

<デザイン・アート学研究所 学生納付金の内訳詳細>

2年制	1年次		2年次
	立命館大学出身	他大学出身	—
入学金	0	200,000	0
春学期	455,800	455,800	455,800
秋学期	455,800	455,800	455,800
計	911,600	1,111,600	911,600
1年制	1年次		2年次
	立命館大学出身	他大学出身	
入学金	0	200,000	
春学期	861,600	861,600	
秋学期	861,600	861,600	
計	1,723,200	1,923,200	

なお、この金額には、各学期 50,000 円の実習費が含まれている。また、1年制コースの学生納付金は、実習費を除く授業料の2年分と実習費の1年分を1年間で納入する設計となっている。

③ 先行事例分析

先行事例については対象がないため、該当しない。

④ 学生確保に関するアンケート調査

収容定員を増加する理工学研究科基礎理工学専攻、電子システム専攻、機械システム専攻、都市システム専攻、人間科学研究科については、既設の専攻であるため、アンケートに代えて各研究科・専攻の実績については以下に述べる。

[理工学研究科博士課程前期課程]

理工学研究科博士課程前期課程の在籍者数推移は以下のとおりであり、2024（令和 6）年度の在籍者総数としては、現在の収容定員を上回っている。

<理工学研究科博士課程前期課程在籍学生数>

		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
基礎理工学専攻	在籍学生数	98	92	77	100	119
	収容定員	100	100	100	100	100
	収容定員充足率	98.0%	92.0%	77.0%	100.0%	119.0%
電子システム専攻	在籍学生数	235	265	261	248	271
	収容定員	280	280	280	280	280
	収容定員充足率	83.9%	94.6%	93.2%	88.6%	96.8%
機械システム専攻	在籍学生数	292	303	285	306	329
	収容定員	280	280	280	280	280
	収容定員充足率	104.3%	108.2%	101.8%	109.3%	117.5%
都市システム専攻 (旧:環境都市専攻)	在籍学生数	183	214	201	202	219
	収容定員	240	240	240	240	240
	収容定員充足率	76.3%	89.2%	83.8%	84.2%	91.3%
合計	在籍学生数	808	874	824	856	938
	収容定員	900	900	900	900	900
	収容定員充足率	89.8%	97.1%	91.6%	95.1%	104.2%

理工学研究科博士課程前期課程の入学者総数については、2023（令和 5）年度は 460 名となり、2022（令和 4）年度の 372 名から大幅に増加した。2024（令和 6）年度の入学者数は 476 名となり、2 年続けて入学定員を充足している。

<理工学研究科博士課程前期課程入学者推移>

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	変更前定員
基礎理工学専攻	52	39	34	63	57	50
電子システム専攻	122	144	112	132	141	140
機械システム専攻	154	145	136	159	166	140
都市システム専攻 (旧:環境都市専攻)	109	101	90	106	112	120
合計	437	429	372	460	476	450

理工学研究科博士課程前期課程全体の志願者数は、2023（令和5）年度以降、変更後の定員を上回っている。この間、保護者向けの大学院進学説明会に力を入れており、研究科長が自ら大学院進学の利点（研究能力および専門知識の向上、研究職等専門性の高い職種での採用可能性、アカデミックキャリア、採用後の待遇等）を説明することで、保護者の大学院進学への理解が深まっている。参加者は2021（令和3）年に195名、2022（令和4）年に463名、2023（令和5）年に607名、2024（令和6）年には567名と増加傾向にある。2024（令和6）年度のアンケートでは、343名（回収率60%）のうち約80%が大学院進学を支援すると回答しており、これらの広報活動が志願者増加につながっていると考えている。

<理工学研究科博士課程前期課程志願者推移>

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
基礎理工学専攻	64	42	39	72	65
電子システム専攻	147	174	137	162	167
機械システム専攻	183	178	163	190	196
都市システム専攻 (現・環境都市専攻)	127	120	110	118	119
合計	521	514	449	542	544

英語基準留学生の入学状況であるが、2024（令和6）年9月の英語基準による入学生は15名にとどまっている。これまで、英語基準の留学生に対する広報が十分ではなかったことが影響している。今後は、ホームページの充実や海外への積極的な広報活動、さらに海外の大学との連携を模索し、英語基準留学生の志願者数を増やしていくことを目指す。また、現在、インド工科大学ハイデラバード校（IITH）およびニッテ大学とは、学部レベルでの相互訪問プログラムを実施しており、毎年多くの学生が双方の大学を訪れている。IITHからは、大学院レベルでの交流に関する検討要請も受けている。これらの大学に加え、海外の複数の大学からも同様に大学院レベルでの交流の検討要請があり、理工学研究科として積極的に海外大学との連携を模索し、英語基準の留学生の確保につなげていく。

<理工学研究科博士課程前期課程英語基準入学生推移（理工学研究科全体）>

2020年9月入学	2021年9月入学	2022年9月入学	2023年9月入学	2024年9月入学
10	12	8	6	15

女子学生については、進学率は徐々に上昇しているものの、まだ伸びる余地が十分にある。理系女性人材増への社会的要請も強まっており、女性技術者・研究者のキャリアパスの充実や所得見込みなどを考慮したうえで、女子学生への情報提供を一層強化し、進学者数の増加につなげていく。

<理工学部女子学生大学院進学率>

		2020年	2021年	2023年	2024年	2025年
基礎理工学専攻	前年度学部卒業生	28	15	20	23	28
	当年度大学院入学者数	3	1	3	4	7
	進学率	10.7%	6.7%	15.0%	17.4%	25.0%
電子システム専攻	前年度学部卒業生	7	17	7	18	15
	当年度大学院入学者数	3	5	5	8	8
	進学率	42.9%	29.4%	71.4%	44.4%	53.3%
機械システム専攻	前年度学部卒業生	24	20	20	18	18
	当年度大学院入学者数	9	10	9	8	8
	進学率	37.5%	50.0%	45.0%	44.4%	44.4%
都市システム専攻	前年度学部卒業生	56	55	58	74	41
	当年度大学院入学者数	13	16	16	26	16
	進学率	23.2%	29.1%	27.6%	35.1%	39.0%
合計	前年度学部卒業生	115	107	105	133	102
	当年度大学院入学者数	28	32	33	46	39
	進学率	24.3%	29.9%	31.4%	34.6%	38.2%

各専攻における入学定員の確保の見込みについて以下の通り分析する。

【基礎理工学専攻】 数理科学科および物理科学科の卒業生による理工学研究科博士課程前期課程基礎理工学専攻への進学率は、2021（令和3）年度28.6%、2022（令和4）年度26.0%、2023（令和5）年度37.3%、2024（令和6）年度34.4%と増加傾向にある。2023（令和5）年度の入学者数は63名で、定員を大きく上回った。データサイエンス系研究室への進学者数は、2023（令和5）年度22名、2024（令和6）年度21名と安定している。近年、データサイエンス専門職に就く学生が増加していることから、大学院進学の特長をさらに広報することで、進学率40%以上に引き上げ、2023（令和5）年度の63名を上回る70名の定員を確保する見込みである。

【電子システム専攻】 電子システム専攻の志願者数は、2022（令和4）年度の137名から、2023（令和5）年度には162名、2024（令和6）年度には167名と増加傾向にある。2023（令和5）年度以降、志願者数は変更後の入学定員を上回っている。入学者数も増加しており、2022（令和4）年度は112名、2023（令和5）年度は132名、2024（令和6）年度は141名である。電子システム系の学科（電気電子工学科、電子情報工学科）は、機械システム系の学科（機械工学科、ロボティクス学科）とともに、高等専門学校からの編入学生の受け皿となっている。これらの編入学生に対する大学院への誘導や、「情報系分野を内包した専攻の広範な専門性」についての広報を一層強化することで、電子システム専攻の志願者数をさらに増加させ、入学定員を確保する。

【機械システム専攻】機械システム専攻の志願者数は、2022（令和4）年度の163名から、2023（令和5）年度には190名、2024（令和6）年度には196名へと増加傾向にある。入学者数についても、2023（令和5）年度に159名、2024（令和6）年度に166名と推移しており、すでに変更後の入学定員を上回っている状況である。

本専攻に多く進学する機械システム系の学科（機械工学科、ロボティクス学科）には、電子システム系と同様に、高等専門学校からの編入学者が多数在籍している。これらの編入学生に対して大学院進学を積極的に促すことで、入学志願者のさらなる増加が期待される。

また、2024（令和6）年度には英語基準による入学者が7名おり、今後、英語基準留学生に対する広報活動を一層強化することで、留学生の志願者数の増加が見込まれる。以上のことから、今後も安定的に入学定員を十分に確保できる見通しである。

【都市システム専攻】都市システム専攻においては、就職状況が良好であるため、学部を卒業して就職する学生が多い傾向にある。しかし、学部卒業生と大学院修了生の間には、採用される職種や賃金面などで差が見られる。こうした状況の中で、オープンカレッジや大学院進学説明会において、大学院修了生の優位性を父母や受験生に説明したことが功を奏し、立命館大学理工学部の都市システム学科および建築都市デザイン学科の卒業生による理工学研究科博士課程前期課程都市システム専攻（旧：環境都市専攻）への進学率は、2022（令和4）年度に36.7%、2023（令和5）年度に41.0%、そして2024（令和6）年度には46.1%と年々上昇している。2025（令和7）年度の学内進学入試では120名が合格しており、8月と2月に行われる試験で入学する学内からの入学者を10名と見込むと、進学率は49.9%に達する見込みである。今後もキャリア形成に関わる有利性を示しながら大学院進学に向けた広報を強化することで、2026（令和8）年度には55%の進学率を目指す。この55%の進学率については、この間の各種取り組みにより達成する見込みである。その結果、学内からの入学者は138名（卒業生を250名と仮定）となり、学外からの入学者を含めて合計145名の入学者を確保できると考えている。

[人間科学研究科博士課程前期課程]

人間科学研究科博士課程前期課程の直近5年間の在籍者数推移は以下のとおりであり、2024（令和6）年度の在籍者総数としては、現在の収容定員を上回っている。また、直近5年間の入学定員の充足状況においても以下の表のとおりであり、概ね入学定員を満たす状態にある。

<人間科学研究科博士課程前期課程の収容定員充足率>

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
収容定員	130	130	130	130	130
在籍学生数	131	133	137	132	125
収容定員充足率	1.01	1.02	1.05	1.02	0.96

<人間科学研究科博士課程前期課程の入学定員充足率>

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
入学定員	65	65	65	65	65
合格者	77	71	72	73	69
入学者	64	57	66	61	55
入学定員充足率	0.98	0.88	1.02	0.94	0.85
歩留率	0.83	0.80	0.92	0.84	0.80

近年の全国的な私立大学の心理学系研究科の志願者数は増加している。一方で入学定員充足率は7割に満たない状況が見て取れる。本研究科は直近5年間の入試でみても、入学定員65名に対する志願者の割合は、2020（令和2）年度は260%、2021（令和3）年度は271%、2022（令和4）年度は277%、2023（令和5）年度は209%、2024（令和6）年度は260%と、多くの志願者を集めている。

<人間科学研究科博士課程前期課程全体の志願者数の推移>

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
入学定員	65	65	65	65	65
志願者	169	176	180	136	169

博士課程前期課程入学試験は年3回（7月、9月、2月）実施しており、7月には総合心理学部からの学内進学入試を設定している。総合心理学部の進路・就職状況では大学院進学率が20.05%と他の人文社会科学研究科に比べて高く、入学定員280名に対し、56名程度が他大学ふくめた大学院に進学している状況がある。本研究科の学内進学入試（7月）の直近5年間の志願者数は以下の表のとおり多くなっているが、研究科の規模からは進学希望者全体を受け入れられる状況にない。学内進学入試の基準を満たさない学部生、学内進学入試で不合格となった学部生は9月、2月の一般入試を受験する、もしくは他大学を受験する状況があり、学内進学希望者の受け入れを促進する観点からも、博士課程前期課程の入学定員および収容定員増は必須課題となっている。

<学内進学入試（7月）の志願者数の推移>

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
志願者	35	39	41	32	47

学内進学入試（7月）とともに、7月、9月、2月の入試では留学生入試、社会人入試を実施している。留学生は日本語基準での受入を実施、社会人は福祉、医療・看護、教育分野での実務家が本研究科で専門性を高める学び直しの志望度も高く、本研究科では積極的な受け入れを進めている。

<留学生入試・社会人入試の志願者数の推移>

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
留学生入試	志願者	40	38	29	25	45
社会人入試	志願者	28	21	27	15	13

学生募集地域の状況について、本研究科入学試験の直近3年間（2022（令和4）年度から2024（令和6）年度）の出身大学所在地域別の志願者状況をみると、学内進学入試、留学生入試をのぞいた志願者数の地域別（出身大学の所在地別）の比率は、北海道1.3%、東北0.8%、関東・甲信越19.3%、北陸2.9%、東海6.7%、近畿61.9%、中国・四国・九州・沖縄7.1%となっている。キャンパスを設置する近畿圏以外からの志願者が4割を占め、内半分は関東・甲信越が占めており、近畿、関東・甲信越を中心に全国から志願者を集めているといえる。

[デザイン・アート学研究科修士課程]

デザイン・アート学研究科は、デザイン・アート学部開設の2026（令和8）年に同時開設する。また、前述のとおり、主として社会人を想定した1年制コースと社会人や学部卒業生を想定した2年制コースを設定する。前者は募集人数を15名程度とし、後者は5名程度の募集人数と予定している。

学生確保に関するアンケート調査は、2026（令和8）年4月に開設されるデザイン・アート学研究科デザイン・アート学専攻の学生確保の見通しを明らかにするため、主たるターゲットとなる社会人を対象としたアンケート調査として実施した。

調査に際しては、リカレント教育やリスキリング教育、大学院での学びへの興味を「スクリーニング調査」として実施した上で、「本調査」として、研究科概要や設置の理念、学びの特徴、アドミッションポリシー、設置場所（アクセス）、学生納付金、競合する大学院などを中心に必要な情報を明示し、実施した【資料24】。なお、アンケート調査の実施、回収、分析については、信頼性担保の観点より外部の専門機関である「株式会社高等教育総合研究所」に委託し、2024（令和6）年12月に実施した。

<アンケート調査の概要>

調査エリア・対象	近畿の2府4県（京都府、大阪府、滋賀県、奈良県、兵庫県、和歌山県）および福井県、愛知県、三重県在住の20代以上50代以下で、大学卒業以上（大学院含む）の学歴を有し、かつリカレント教育やリスキリング教育、または、大学院での学びに興味がある者としている。
調査内容	<p><スクリーニング調査> 3問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居住地 ・最終学歴 ・リカレント教育やリスキリング教育または大学院での学びへの興味の有無 <p><本調査> 9問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回答者の基本情報（年代、性別、現在の状況、最終学歴、専攻分野） ・学びたいと考えている興味のある学問分野 ・志望する大学院の設置者（国公立の区分） ・デザイン・アート学研究科に対する受験意向、入学意向など <p>社会人が対象のため、卒業後の進路に関する設問は設けていないが、スクリーニング調査の結果、「調査対象」にあてはまる者のみを本調査の対象とした。</p>

調査方法 調査実施機関	高等教育総合研究所がアンケート企画・設計を行い、協力先ネット・リサーチ会社(株式会社クロス・マーケティング)の登録モニターを対象にインターネットでアンケート回答を依頼。 はじめに、10,000名を対象にスクリーニング調査を実施した。スクリーニング調査は、近畿2府4県(京都府、大阪府、滋賀県、奈良県、兵庫県、和歌山県)および福井県、愛知県、三重県在住とした登録モニターだが、スクリーニング調査時に当該地域以外の地域に居住とした者は本調査の対象外としている。
回答件数	有効回答数 937件
調査時期	2024(令和6)年12月

プレススクリーニング調査の結果、2府4県に居住し、かつ大学卒業以上の学歴を有し、さらにリカレント教育やリスクリング教育、大学院での学びに関心のある933名が本調査の対象となった。この933名を対象に本調査を実施すると以下のような結果が把握できた。

デザイン・アート学研究科の受験希望及び入学希望については以下(3)のように447名がデザイン・アート学研究科の受験意思を示しており、「合格した場合、入学を希望するか(択一)どうか」の設問には、下記(4)のとおり、447名が入学希望の意向を示している。

a) デザイン・アート学研究科の受験希望について

選択項目(択一)	回答数	割合(%)
第一志望として受験する	174	18.6
第二志望として受験する	145	15.5
第三志望以降として受験する	128	13.7
受験しない	486	52.1
計	933	100.0

b) 受験して合格した場合の入学希望について

選択項目(択一)	回答数	割合(%)
入学する	165	36.9
志望上位が不合格の場合に入学する	261	58.4
入学しない	21	4.7
計	447	100.0

また、アンケート設問のQ6(「あなたが興味があるとされたリカレント教育、リスクリング教育又は大学院での学びにおいて、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。」(【資料24】5ページ)及びQ7(「あなたが大学院進学を希望される場合、志望する大学等の設置者の希望を選択してください。」(【資料24】6ページ)において、学問分野として、「美術、デザイン、芸術その他」のいずれかを選択し、かつ志望する大学院の設置者に「私立」を選択したものは117名いた。そ

の 117 名に対してデザイン・アート学研究科の受験希望、入学希望（上記 a）及び b））をクロス集計すると、以下の c）及び d）のとおり、デザイン・アート学研究科を「第一志望として受験」としたものは 48 名、「合格した場合、入学する」としたものは入学定員 20 名を上回る 39 名が該当した。

このような調査結果より、デザイン・アート学研究科の学生確保の見通しについて問題なく、入学定員を充足できると判断している。

c) デザイン・アート学研究科の受験希望について

選択項目（択一）	回答数	割合（%）
第一志望として受験する	48	41.0
第二志望として受験する	22	18.8
第三志望以降として受験する	17	14.5
受験しない	30	25.6
計	117	100.0

d) 上記（5）で「第一志望として受験」と回答した 48 名への合格した場合の入学希望について

選択項目（択一）	回答数	割合（%）
入学する	39	81.3
志望上位が不合格の場合に入学する	9	18.8
入学しない	0	0
計	48	100.0

⑤ 人材需要に関するアンケート調査等

[理工学研究科博士課程前期課程]

全国のおよび社会的に理工系人材の需要は高く、今後は一層の増加が見込まれる。各企業では、文理共に「母集団（エントリー数）の不足」（文系：77.9%、理系：82.2%）による人材獲得競争が激化している。人手不足が深刻な理工系の大卒採用は特に競争が激化している。日本経済新聞社がまとめた 2025（令和 7）年春入社採用計画調査を文理別でみると、理工系は前年実績比で 21.2%増える見通しである。3年連続で 2割超の増加となり、文科系（12.1%増）を上回った。特にデジタルトランスフォーメーション（DX）に関連した人材を求める動きが活発となっている。

マイナビ 2024（令和 6）年卒企業新卒採用予定調査では、2024（令和 6）年卒の採用環境の見通しが「（非常に）厳しくなる」と回答した企業は、文系で前年比 21.7pt 増の 49.1%（「非常に厳しくなる（11.9%）」+「厳しくなる（37.2%）」）、理系で前年比 19.8pt 増の 50.4%（「非常に厳しくなる（17.6%）」+「厳しくなる（32.8%）」）だった【資料 25】。

また、日本のデジタル競争力は世界で 28 位であり先進国の中では低く、強化が求められている【資料 26】。IT 人材需給に関して、人材のスキル転換が停滞した場合、2030（令和 12）年には先端 IT 人材が 54.5 万人不足すると試算されている【資料 26】。

脱炭素の潮流において、産業構造の転換が起こり再生可能エネルギーなどで新たな雇用が創出されることも予想されている。企業へのアンケートにおいて、5年後に技術者が不足すると予想されている分野として機械工学（12.4%）、電力（7.5%）、通信・ネットワーク（5.8%）、ハード・ソフトウェア系（5.5%）、土木工学（5.5%）が上位に挙げられている【資料27】。

基礎理工学専攻における情勢として、各大学・高等専門学校における数理・データサイエンス・AI教育の取組が奨励されており、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」が内閣府・文部科学省・経済産業省の3府省の連携によって行われている。数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育を行うプログラムとして文部科学大臣が認定しており、我が国の学生の数理・データサイエンス・AIへの関心および基礎的な能力の向上を図る機会が拡大されている。このように基礎理工学専攻 数理科学コースで養成する確率論や数理ファイナンス、データサイエンスといった分野の専門人材への需要は高い。物理科学コースでは、現代物理学の基礎に加え、実践的な技術を学び、応用力を身につける。

電子システム専攻においては電気電子エンジニアが慢性的に人材不足という課題を抱えていることや、機械システム専攻においては機械工学分野では5年後に技術者が最も不足すると予想されている分野であり、多くの企業が人材確保に力を入れており、人材需要は高い。

都市システム専攻においては、特に地方において都市設計や環境問題に取り組む専門的な技術と知識を持つ人材が不足しており人材育成が重要となってくる。

「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）」（令和4年5月10日）では、人材育成を取り巻く課題として以下(1)～(8)が挙げられている【資料28】。

- (1) 高等教育の発展と少子化の進行
- (2) デジタル人材の不足
- (3) グリーン人材の不足
- (4) 高等学校段階の理系離れ
- (5) 諸外国に比べて低い理工系への入学者
- (6) 諸外国に比べて少ない修士・博士号の取得者
- (7) 世帯収入が少ないほど低い大学進学希望者
- (8) 諸外国に比べて低調な人材投資・自己啓発

理工学研究科博士課程前期課程を構成する4専攻では、社会からの人材需要が高まる前述の各分野、および分野間横断において活躍できる高度専門人材を養成できる。

このように全国的にも地域的にも理工系人材の需要は高く、将来的にも需要の増加が予想される。

[人間科学研究科博士課程前期課程]

人間科学研究科博士課程前期課程修了生の人材需要については、現代社会における心の健康問題の重要性や、メンタルヘルスケアに対する需要の増加に伴い官民間問わず高まっている。2023（令和5）年度修了生の進路就職状況は、就職62.7%、大学院進学13.6%、その他18.6%、不明5.1%となっている。就職の業種をみると、公務員28.1%と多く、次いで医療・福祉施設18.8%、IT情報処理15.6%、メーカー15.6%、サービス9.4%、官公庁・団体6.3%、教育機関3.1%、金融3.1%となっており、心理学、

人間科学の専門性を活かし多様な分野・業種で修了生が求められていることが伺える。

2024（令和6）年3月3日実施の第7回公認心理師国家試験では、本研究科の新卒（③大学院（区分A））で29名が合格し、学校別合格者数では九州大学とともに全国1位となり、受験者数29名の合格率は100%となった。本学人間科学研究科を修了した心理専門職が行政、教育、医療などの多様な分野で求められ、活躍していることも伺える。

[デザイン・アート学研究科修士課程]

人材需要に関するアンケート調査は、デザイン・アート学研究科デザイン・アート学専攻が2026（令和8）年に開設された後、修了時の採用や人材需要の見通しを調査することを目的に、2024（令和6）年11月～2025（令和7）年1月までの間で実施している。調査対象は、東証スタンダードまたは東証プライム上場企業から製造業、卸売業、小売業、建築業、IT関連業務などデザイン・アート学研究科が育成する人材像に適した業種を選定した。調査に際しては、学生確保の見通しアンケートと同様に、研究科の概要や設置の理念、学びの特徴、アドミッションポリシー、設置場所（アクセス）、学生納付金、競合する研究科名称などを中心に必要な情報を明示し、実施した【資料29】。

アンケート調査の実施、回収、分析については、信頼性担保の観点より外部の専門機関である「株式会社高等教育総合研究所」に委託して実施している。

<アンケート調査の概要>

調査目的	2026（令和8）年度に立命館大学が設置構想中である「デザイン・アート学研究科デザイン・アート学専攻（入学定員20名）」の設置における修了後の採用・就職（人材需要）の見込みを測定することを目的とする。	
調査対象	調査対象	東証スタンダードまたは東証プライム上場企業からデザイン・アート学研究科が育成する人材像に適した業種
	業種	製造業、卸売業、小売業、建築業、IT関連業務
	調査地域	首都圏を中心とした全国
	依頼件数	3,226件
調査内容	・回答対象先の基本情報（業種・所在地・従業員／職員規模） ・立命館大学デザイン・アート学研究科修了生の人材ニーズ ・立命館大学デザイン・アート学研究科修了生の採用意向	
調査時期	2024（令和6）年11月～2025（令和7）年1月	
調査方法	調査対象事業所に対し、アンケートを郵送し、依頼することにより実施（紙方式とWEB方式での回答方法を案内し、いずれかの方法で回答を依頼）	
回収件数	有効回答数365件（回収率11.3%）	

調査の結果、依頼した3,226件のうち365件の有効回答を受け、以下のとおりに分析を行った。デザイン・アート学研究科で養成する人材ニーズについては、「人材ニーズは高い」72事業所（19.7%）、「ニ

ニーズはある程度高い」196 事業所（53.7%）となり、合計すると 268 事業所（73.4%）が人材ニーズの高さを認める結果となった。また、183 事業所（50.1%）が採用意向を示し、その上での採用可能人数（単年度あたり）の合計は、276 名であることが把握された。

このように、アンケート調査結果から、デザイン・アート学研究科の人材需要についての見通しが十分に見通せるものと判断している。

<養成する人材の社会ニーズ>

人材ニーズは高い・ある程度高い	268 事業所	73.4%
人材ニーズはない・あまりない・わからない・無回答	97 事業所	26.6%
合計	365 事業所	100%

<卒業生の採用意向>

採用したい	183 事業所	50.1%
採用しない・わからない・無回答	182 事業所	49.9%
合計	365 事業所	100%

<単年度の採用可能人数>

	1 名	2 名	3 名	4 名	5 名以上	人数未定 (最低 1 名)	無回答	合計
「採用したい」回答数	51	15	6	2	15	94	0	183
採用可能人数 計 (回答数×採用可能人数)	51 名	30 名	18 名	8 名	75 名	94 名	0 名	276 名

※5 名以上は 5 名として計算

※人数未定・最低 1 名は 1 名として計算

(4) 収容定員を変更する組織の定員設定の理由

[理工学研究科博士課程前期課程]

Society5.0 の実現やデジタルトランスフォーメーション (DX) の推進に伴い、AI、データサイエンス、IoT、再生可能エネルギー、脱炭素技術などの成長分野において、理工系分野の高度専門人材が求められている。特に、数理科学やデータサイエンスを活用した問題解決能力、電子システムや機械システムを活用した技術革新、都市システムを基盤とした環境持続型社会の構築に寄与する人材が、社会的な課題解決において中心的役割を果たすと期待されている。「第 6 期科学技術・イノベーション基本計画」や「2040 年を見据えた大学院教育のあるべき姿」などの政府指針においても、科学技術や学術を活用し、新たな価値を創出する高度専門人材の育成が重要視されている。さらに、日本国内では修士号・博士号取得者の割合が諸外国に比べて低く、この割合を引き上げることが喫緊の課題である。これらの背景から、理工系大学院の収容定員拡大は、社会的要請に応えるために不可欠である【資料 30】。

基礎理工学専攻、電子システム専攻、機械システム専攻および都市システム専攻の各専攻は、それぞれの分野で高度専門技術者を養成するためのカリキュラムを提供する。

【基礎理工学専攻数理科学コース】

確率論や数理ファイナンス、さらには社会からのニーズに応えたデータサイエンス分野を取り入れた教育を展開する。

【基礎理工学専攻物理科学コース】

現代物理学の基礎に加え、実践的な技術を学び、応用力を身につける。

【電子システム専攻】

エレクトロニクス、集積回路、コンピュータ、ソフトウェア、情報通信に関連する広範な領域をカバーし、現代社会を支える基盤技術を学ぶ。

【機械システム専攻】

機械創成工学、機械情報工学、ロボティクスといった先端分野に焦点を当て、高度な技術者を育成する。

【都市システム専攻】

環境や防災、都市デザインなど、現代社会の複合的な問題に対応するために、総合的な立場から学問を深める。都市設計や環境問題に取り組む専門的な技術と知識を持つ人材を養成する。

また、各専攻は、学際的な成長分野にも貢献できる人材を養成するための特色あるカリキュラムを展開しており、これにより多様な分野での活躍が期待される人材を輩出する。

関西大学や関西学院大学などの競合校と比較しても、本研究科は学際的かつ実践的な教育プログラムを提供しており、競争力の高い教育内容が強みである。特に、数理科学やデータサイエンス、電子情報工学、環境工学などの分野におけるカリキュラムの充実は、他大学との差別化に成功している。競合校の安定した志願倍率と定員充足率を踏まえれば、本研究科も増員分を含めて定員を充足する十分なポテンシャルを有しているといえる。

滋賀県においては、総合教育会議においても理系人材の育成が重要課題として提言されており、本学が所在する草津市を含め、地域との連携を強化し、地域ニーズに応じた人材育成を推進することで、地域社会への貢献を果たす。

以上の理由から、理工学研究科博士課程前期課程の4専攻の入学定員を基礎理工学専攻で20名、電子システム専攻で15名、機械システム専攻で15名、都市システム専攻で25名増加させることは、社会的・地域的な人材需要に応えるものであり、有為な人材を育成するための手厚い指導體制も確保できることとともに、入学者確保が見込まれることから、十分な合理性が認められる。

[人間科学研究科博士課程前期課程]

2017(平成29)年の公認心理師法施行による心理専門職の国家資格化により社会から心理学への期待の高まりがあり、本学人間科学研究科として従来の臨床心理士育成に加え、公認心理師養成を一層すすめる教学改革とそれを支える教学条件を確保するための収容定員増が必要である。

18歳人口が減少する中でも心理学系学部・学科の人気は高く、直近3年の心理学関連の改組・収容定員変更においても学部学科新設、定員増が相次いでいる。関西地区に限っても帝塚山大学、龍谷大学、京都橘大学、武庫川女子大学、佛教大学、神戸女子大学等で改組、定員増を行っている。2017(平成29)年度から2023(令和5)年度の学部系統別の動向の中で、人文科学系、心理学部を見ると、集計学部数

は14学部から26学部(+12学部、186%増)、入学定員は2,195人から3,783人(+1,588人、172%増)、志願者数は15,051人から32,716人(+17,665人、217%増)、入学者数は2,198人から3,942人(+1,744人、179%増)と大きく増加している。こうした心理系学部・学科進学者の大学院進学を受け皿となり、心理専門職、研究者養成を進める本研究科の教学充実と研究科の拡充が必要といえる。

本研究科は、心理学領域と臨床心理学領域や実践人間科学領域を交差させることで生まれる多様な研究成果を、実践に応用していくため、院生が自らの関心領域を中心に置きながら、周辺領域へと学びや研究を進展させ、現実の問題解決に取り組めるカリキュラムを設定し、心理専門職、研究者など社会の多方面に優位な人材を輩出してきた。2024(令和6)年3月3日実施の第7回公認心理師国家試験では、本学人間科学研究科の新卒(③大学院(区分A))で29名が合格し、学校別合格者数では九州大学とともに全国1位となり、受験者数29名の合格率は100%となった。社会の心理学への期待の高まりにこたえる教育、研究、人材育成を進めるため、本研究科の教学拡充と収容定員増が求められる。

学生確保において、本研究科の入学試験では、例年定員の2.6倍を超える志願者があり、研究科の母体となり総合心理学部からの学内進学入試に加え、留学生入試、社会人入試の志願度も高い。学内進学入試、留学生入試を除く地域別(出身大学所在地別)の志願状況からは近畿が6割を占めるが、関東甲信越を中心に全国から志願を得ていることが見て取れる。加えて、学内進学入試については、大学院進学率が20.05%と高く、人間科学研究科の学内進学入試に例年40名程度が志願するが、研究科規模から学内進学希望者全員を受け入れられる状況になく、この点からも本研究科博士課程前期課程の入学定員65名から75名への増、収容定員の130名から150名への増が合理的であると判断する。

[デザイン・アート学研究科修士課程]

新設研究科であるデザイン・アート学研究科修士課程は、総合大学である本学がデザインやアートの領域を教育研究の対象とし、未来社会を感性豊かに創造する人材を育成するとともに、アートの技術と感性を基盤に自然科学と人文・社会科学を横断した研究領域を開拓し、新たなデザイン学を追究することを目的としている。この研究科では、各々の学生が持つ専門性に裏打ちされた自らの強みを生かしながら、多様なプロジェクトに参加し、他者との協働的実践的な活動を通じて、研究を深めていく研究科を形成することを目指す。

また、現在の日本の文化芸術分野では、時代に即したデザイン・アート活動を推進できる高度な人材が求められている。デザイン・アート学研究科の設置は、こうした高度なデザイン人材の需要に応えるとともに、社会人のリスクリングを含む大学や高等教育機関での人材育成ニーズにも応えることを目的としている。

とりわけ、主として社会人を対象としたコースを設けることは、企業・組織において戦略立案に関わる役職・地位が与えられたものの、そのスキルやマインドセットを持たないことに悩む中堅以上のビジネスパーソン、ジョブ型雇用の促進により自立した職能を得ることによるキャリアアップを目指す比較的若いビジネスパーソン、デジタル分野やイベントマネジメントがますます重視されるアート関連職種(=社会人)のニーズが極めて高いと考えられ、この多様なニーズにこたえていくことが狙いである。実際に、2019(令和元)年に日本経済団体連合会が実施した「人材育成に関するアンケート調査」では、デジタルやデザイン素養等の専門能力や幅広い知識の取得や開発を進めるため、8割弱の企業が「外部

との連携に取り組む」と回答し、うち5割を超える企業が連携先として「大学や高等教育機関」を挙げている。当然ながらより深くデザイン・アートの領域を研究したい学生を迎え入れるために、一般的な就学期間である2年制のコースも置く。

デザイン・アート学研究科修士課程は入学定員を20名、収容定員を40名で設定する。入学定員20名は競合校と比較して小さくなく、本研究科では前述の目標及び目的を果たすためにきめ細やかな研究指導体制や学位授与の仕組みが整っており、入学者確保が見込まれることから、合理性があると判断する。

以上

学生確保の見通し等を記載した書類（資料）

資料目次

資料 1	総合科学技術・イノベーション会議（第 53 回）議事次第 科学技術・イノベーション基本計画（案）（14 頁-16 頁）	3
資料 2	総合科学技術・イノベーション会議（第 53 回）議事次第 科学技術・イノベーション基本計画（案）（18 頁-23 頁）	6
資料 3	理工系人材育成戦略（3 頁）	17
資料 4	工学系教育改革制度設計等に関する懇談会取りまとめについて（1 頁-7 頁）	18
資料 5	科学技術・イノベーション基本計画（案）（16 頁）	25
資料 6	科学技術・イノベーション基本計画（案）（概要）（1 頁）	26
資料 7	2040 年を見据えた大学院教育のあるべき姿 ～社会を先導する人材の育成に向けた体質改善の方策～（審議まとめ）（4 頁-10 頁）	27
資料 8	滋賀県総合教育会議 会議録（令和 5 年 11 月 13 日）（20 頁-25 頁）	34
資料 9	滋賀県における 理系人材育成に向けた提言 ～滋賀県の社会価値創出のための理系人材基盤の構築に向けて～（21-22 頁）	40
資料 10	令和 2 年（2020）患者調査の結果（令和 4（2022）年 6 月 30 日）（24 頁-25 頁）	42
資料 11	公認心理師の生涯学習制度	44
資料 12	令和 5 年度公認心理師活動状況等調査報告書（1 頁、5 頁）	46
資料 13	公認心理師実習演習担当教員養成講習会の実施について	48
資料 14	第 9 回臨床心理士の動向調査報告書（1 頁、10 頁）	49
資料 15	人材育成に関するアンケート調査（22 頁）	51
資料 16	リクルート進学総研マーケットリポート 2023（1 頁-9 頁）	52
資料 17	私立大入試結果（全体）	58
資料 18	令和 5（2024）年度私立大学・短期大学等入学志願動向（66 頁）	59
資料 19	令和 6（2024）年度私立大学・短期大学等入学志願動向（64 頁）	60
資料 20	大学院関連参考資料集（13 頁）	61
資料 21	我が国の未来をけん引する 大学等と社会の在り方について（第一次提言）（12 頁）	62
資料 22	人分科学系 心理学 志願者・入学者動向／人文科学系（心理学研究科・心理科学研究科）、その他（人間科学研究科・臨床心理学研究科） 志願者数・入学者数	63
資料 23	立命館大学都道府県別出身者数（学部）	64

資料 24	立命館大学大学院「デザイン・アート学研究科デザイン・アート学専攻（修士課程）」入学意向についてのアンケート報告書	65
資料 25	2024 年卒企業新卒採用予定調査（3 頁）	100
資料 26	教育未来創造会議 論点整理（案）（1 頁）	101
資料 27	理工系人材需給状況に関する 調査結果概要（13 頁）	102
資料 28	我が国の未来をけん引する 大学等と社会の在り方について（第一次提言）概要（1 頁）	103
資料 29	立命館大学デザイン・アート学研究科デザイン・アート専攻設置構想についての人材需要アンケート調査報告書	104
資料 30	2040 年を見据えた大学院教育のあるべき姿 ～社会を先導する人材の育成に向けた体質改善の方策～（審議まとめ）（4 頁-6 頁）	129
別紙 1	新設組織が置かれる都道府県への入学状況	132
別紙 2	既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）	135
別紙 3	既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績	145

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料1 (3 ページ)

1. 書類等の題名

総合科学技術・イノベーション会議 (第 53 回) 議事次第 科学技術・イノベーション基本計画 (案)

2. 出典

内閣府

3. 引用範囲

<https://www8.cao.go.jp/cstp/siryo/haihui053/siryo1.pdf>

(14-16 ページ)

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料2 (6 ページ)

1. 書類等の題名

総合科学技術・イノベーション会議 (第 53 回) 議事次第 科学技術・イノベーション基本計画 (案)

2. 出典

内閣府

3. 引用範囲

<https://www8.cao.go.jp/cstp/siryo/haihui053/siryo1.pdf> (18-23 ページ)

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料3（17 ページ）

1. 書類等の題名

理工系人材育成戦略

2. 出典

文部科学省

3. 引用範囲

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfi1e/2015/03/13/1351892_02.pdf（3 ページ）

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料4 (18 ページ)

1. 書類等の題名

工学系教育改革制度設計等に関する懇談会取りまとめについて

2. 出典

文部科学省

3. 引用範囲

https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2018/03/30/1403193_02.pdf (1 - 7 ページ)

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料5 (25 ページ)

1. 書類等の題名

第6期科学技術・イノベーション基本計画

2. 出典

内閣府

3. 引用範囲

<https://www8.cao.go.jp/cstp/siryo/haihui053/siryo1.pdf> (16 ページ)

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料6 (26 ページ)

1. 書類等の題名

第6期科学技術・イノベーション基本計画 概要

2. 出典

内閣府

3. 引用範囲

https://www.mext.go.jp/content/20210423-mxt_chousei02-000014469_20.pdf

(1 ページ)

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料7 (27 ページ)

1. 書類等の題名

2040 年を見据えた大学院教育のあるべき姿 ～社会を先導する人材の育成に向けた体質改善の方策～ (審議まとめ)

2. 出典

文部科学省

3. 引用範囲

https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2019/02/18/1412981_001r.pdf (4-10 ページ)

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料 8 (35 ページ)

1. 書類等の題名

滋賀県総合教育会議 会議録 (令和 5 年 11 月 13 日)

2. 出典

滋賀県

3. 引用範囲

<https://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/5453636.pdf> (20-25 ページ)

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料9 (40 ページ)

1. 書類等の題名

滋賀県における 理系人材育成に向けた提言 ～滋賀県の社会価値創出のための理系人材基盤の構築に向けて～

2. 出典

一般社団法人 環びわ湖大学・地域コンソーシアム

3. 引用範囲

https://www.kanbiwa.jp/business/.assets/2024.3_rikei_teigen.pdf
(21-22 ページ)

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料 10 (42 ページ)

1. 書類等の題名

令和 2 年 (2020) 患者調査の結果 (令和 4 (2022) 年 6 月 30 日)

2. 出典

厚生労働省

3. 引用範囲

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/kanja/20/index.html> (24 -25 ページ)

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料 11 (44 ページ)

1. 書類等の題名

公認心理師の生涯学習制度

2. 出典

公益社団法人 日本公認心理師協会

3. 引用範囲

<https://www.jacpp.or.jp/qualification/index.html>

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料 12 (46 ページ)

1. 書類等の題名

令和 5 年度公認心理師活動状況等調査報告書〔最終版〕

2. 出典

一般財団法人日本心理研修センター

3. 引用範囲

https://www.jccpp.or.jp/download/pdf/R5_konin_shinrishi_katsudo_joukyoutou_chosa_hokokusho_saisyu.pdf (1 ページ、5 ページ)

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料 13（48 ページ）

1. 書類等の題名

公認心理師実習演習担当教員養成講習会の実施について

2. 出典

文部科学省

3. 引用範囲

<https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/001094362.pdf>

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料 14 (49 ページ)

1. 書類等の題名

第 9 回臨床心理士の動向調査報告書

2. 出典

一般社団法人日本臨床心理士会

3. 引用範囲

<https://www.jsccp.jp/suggestion/sug/> (1 ページ、10 ページ))

4. その他の説明

引用範囲の閲覧には会員登録が必要。

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料 15 (51 ページ)

1. 書類等の題名

人材育成に関するアンケート調査

2. 出典

一般社団法人 日本経済団体連合会

3. 引用範囲

<https://www.keidanren.or.jp/policy/2020/008.pdf> (22 ページ)

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料 16 (52 ページ)

1. 書類等の題名

リクルート進学総研マーケットレポート 2023

2. 出典

リクルート進学総研

3. 引用範囲

https://souken.shingakunet.com/research/pdf/2023_souken_report/2023_souken_report.pdf (1 ページ、4 ページ、7-10 ページ)

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料 17 (58 ページ)

1. 書類等の題名

私立大入試結果 (全体)

2. 出典

河合塾

3. 引用範囲

https://www.keinet.ne.jp/exam/past/pdf/25s_zentai.pdf (1 ページ)

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料 18 (59 ページ)

1. 書類等の題名

令和 5 (2024) 年度私立大学・短期大学等入学志願動向

2. 出典

日本私立学校振興・共済事業団

3. 引用範囲

<https://www.shigaku.go.jp/files/shigandoukouR5.pdf> (66 ページ)

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料 19 (60 ページ)

1. 書類等の題名

令和 6 (2024) 年度私立大学・短期大学等入学志願動向

2. 出典

日本私立学校振興・共済事業団

3. 引用範囲

<https://www.shigaku.go.jp/files/shigandoukouR6.pdf> (64 ページ)

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料 20 (61 ページ)

1. 書類等の題名

大学院関連参考資料集

2. 出典

文部科学省

3. 引用範囲

https://www.mext.go.jp/content/20240913-mxt_koutou02-000038029_12.pdf

(13 ページ)

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料 21 (62 ページ)

1. 書類等の題名

我が国の未来をけん引する 大学等と社会の在り方について (第一次提言)

2. 出典

内閣官房

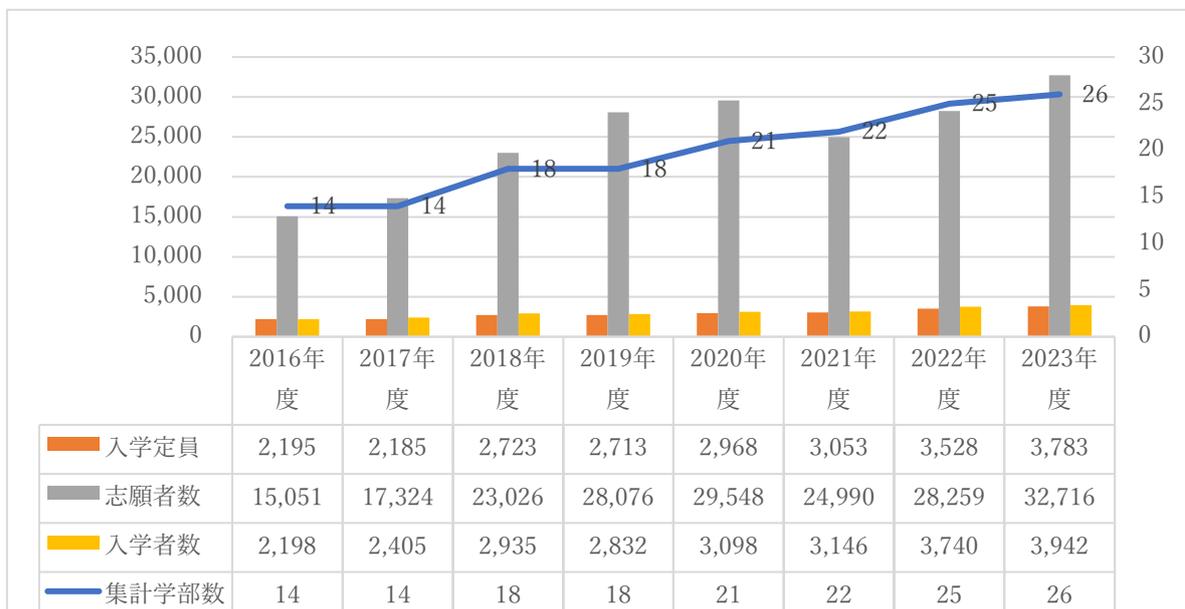
3. 引用範囲

<https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/pdf/220510honbun.pdf>

(12 ページ)

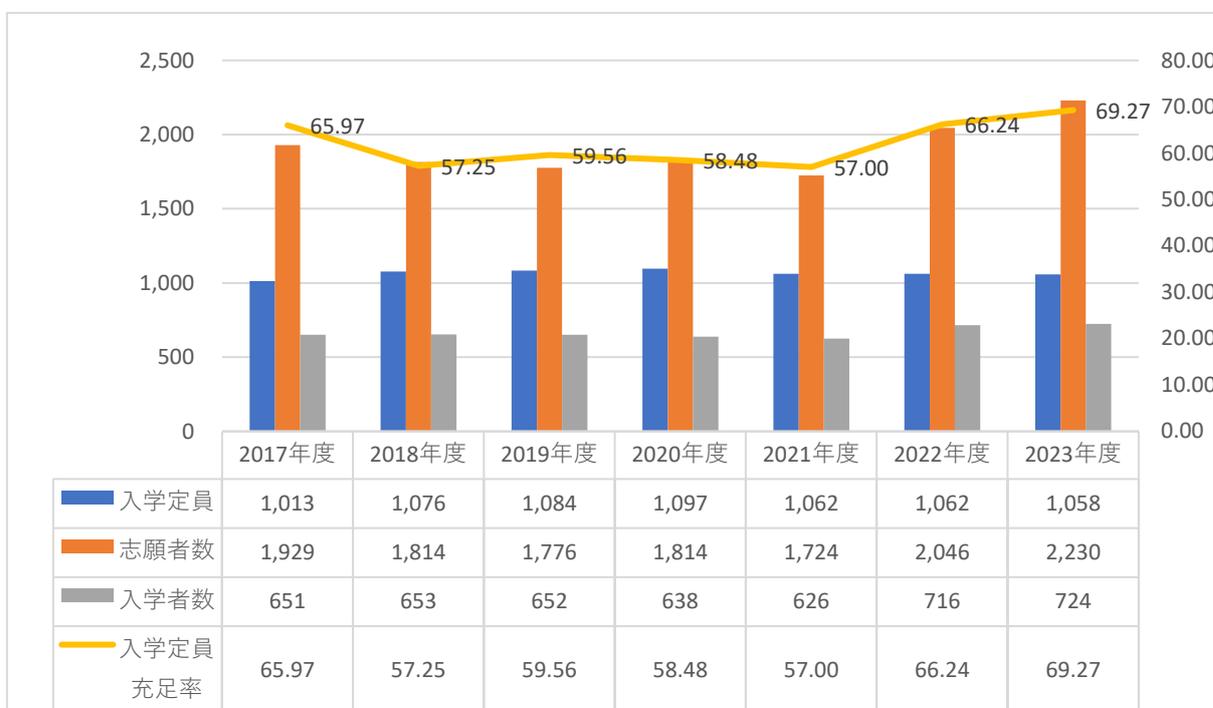
【資料 22】 人分科学系 心理学 志願者・入学者動向／人文科学系（心理学研究科・心理科学研究科）、その他（人間科学研究科・臨床心理学研究科） 志願者数・入学者数

<人分科学系 心理学 志願者・入学者動向>



日本私立学校振興・共催事業団「私立大学・短期大学入学志願者動向」より

<人文科学系（心理学研究科・心理科学研究科）、その他（人間科学研究科・臨床心理学研究科） 志願者数・入学者数>



日本私立学校振興・共催事業団「私立大学・短期大学入学志願者動向」より

出典：日本私立学校振興・共済事業団

【資料23】立命館大学都道府県別出身者数（学部）

都道府県名称	2024年度	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度
北海道	855	840	777	725	712
青森県	25	27	24	29	31
岩手県	28	28	26	25	27
宮城県	117	124	127	115	124
秋田県	26	24	24	22	28
山形県	32	31	34	33	35
福島県	58	56	53	57	52
茨城県	191	183	181	182	158
栃木県	98	107	104	106	100
群馬県	121	136	135	131	134
埼玉県	208	227	244	238	211
千葉県	230	241	247	260	259
東京都	651	674	665	659	581
神奈川県	263	273	285	283	267
新潟県	126	141	139	137	131
富山県	301	295	280	249	249
石川県	378	361	350	332	336
福井県	364	352	345	329	346
山梨県	88	86	84	80	71
長野県	291	308	313	305	306
岐阜県	608	577	548	529	522
静岡県	807	809	776	765	735
愛知県	2472	2426	2336	2216	2125
三重県	551	546	515	514	514
滋賀県	2983	2874	2756	2689	2671
京都府	6004	5882	5637	5509	5542
大阪府	5851	5869	5713	5743	5876
兵庫県	2380	2352	2305	2290	2292
奈良県	1030	1049	1065	1089	1070
和歌山県	368	372	376	367	348
鳥取県	141	133	127	124	123
島根県	71	77	90	83	88
岡山県	472	471	447	429	428
広島県	810	761	749	763	764
山口県	270	264	272	259	272
徳島県	155	162	151	146	149
香川県	346	334	330	328	337
愛媛県	296	294	283	260	273
高知県	155	159	151	146	147
福岡県	1006	969	959	941	897
佐賀県	109	108	108	106	97
長崎県	120	116	118	116	125
熊本県	186	176	182	180	209
大分県	154	140	146	150	148
宮崎県	73	72	76	81	82
鹿児島県	161	152	148	146	142
沖縄県	165	143	112	87	79
その他	2404	2291	2181	2114	2031
総計	34599	34092	33094	32467	32244

【資料24】

立命館大学大学院

「デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻[修士課程](仮称)」

入学意向についての社会人アンケート

報告書

令和7年2月

株式会社高等教育総合研究所

目次

1. 社会人アンケート調査 実施概要	2
2. 社会人アンケート調査 集計結果	3
3. 社会人アンケート調査 クロス集計結果	7

添付資料

・進学意向に関する調査(社会人対象)アンケート設問サイト:スクリーニング調査	9
・進学意向に関する調査(社会人対象)アンケート設問サイト:本調査	15
・「デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻[修士課程](仮称)」リーフレット	24

(注)

本報告書で記載の「構成比」(%)はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

1. 社会人アンケート調査 実施概要

<p>調査目的 及び 調査対象</p>	<p>立命館大学大学院が2026年(令和8年)度に設置構想中の「デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻[修士課程](仮称)」の学生確保の見通しを明らかにするため、社会人を対象としたアンケート調査を実施した。 具体的には以下を対象にアンケート実施または依頼した。</p> <p>近畿二府四県(京都府、大阪府、滋賀県、奈良県、兵庫県、和歌山県)および福井県、愛知県、三重県在住の20代以上50代以下で、大学卒業以上(大学院を含む)の学歴を有し、かつリカレント教育やリスキリング教育又は大学院での学びに興味がある者</p>
<p>調査内容</p>	<p><スクリーニング調査>3問</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 居住地 ● 最終学歴 ● リカレント教育やリスキリング教育又は大学院での学びへの興味の有無 <p><本調査>9問</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 回答者の基本情報(年代、性別、現在の状況、最終学歴、専攻した学問分野) ● 学びたいと考えている興味のある学問分野 ● 志望する大学院の設置者 ● 立命館大学大学院「デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻[修士課程](仮称)」が開設された場合に受験意向、入学意向など <p>※社会人が対象のため「卒業後の進路」に係る設問は設けていないが、スクリーニング調査の結果、「調査対象」にあてはまる者のみを本調査の対象とした。</p>
<p>調査時期</p>	<p>2024年12月</p>
<p>調査方法</p>	<p>高等教育総合研究所がアンケート企画・設計を行い、協力先ネット・リサーチ会社(株式会社クロス・マーケティング)の登録モニターを対象にインターネットでアンケート回答を依頼。 はじめに10,000人を対象にスクリーニング調査を実施。スクリーニング調査は近畿二府四県(京都府、大阪府、滋賀県、奈良県、兵庫県、和歌山県)および福井県、愛知県、三重県在住とした登録モニターだが、スクリーニング調査時に当該地域以外の地域に居住とした者は本調査の対象外とした。</p>
<p>回答件数(本調査)</p>	<p>有効回答数937件</p>

2. 社会人アンケート調査 集計結果

スクリーニング調査結果(10,000人が回答)

SC1 あなたの住まいをお答えください。(択一)

	選択項目	回答数	%
1	北海道	127	1.3
2	青森県	62	0.6
3	岩手県	67	0.7
4	宮城県	38	0.4
5	秋田県	23	0.2
6	山形県	14	0.1
7	福島県	14	0.1
8	茨城県	19	0.2
9	栃木県	22	0.2
10	群馬県	20	0.2
11	埼玉県	15	0.2
12	千葉県	31	0.3
13	東京都	61	0.6
14	神奈川県	32	0.3
15	新潟県	12	0.1
16	富山県	14	0.1
17	石川県	8	0.1
18	福井県	152	1.5
19	山梨県	8	0.1
20	長野県	12	0.1
21	岐阜県	21	0.2
22	静岡県	24	0.2
23	愛知県	2,138	21.4
24	三重県	435	4.4
25	滋賀県	386	3.9
26	京都府	782	7.8
27	大阪府	2,943	29.4
28	兵庫県	1,701	17.0
29	奈良県	391	3.9
30	和歌山県	206	2.1
31	鳥取県	5	0.1
32	島根県	3	0.0
33	岡山県	12	0.1
34	広島県	8	0.1
35	山口県	7	0.1
36	徳島県	4	0.0
37	香川県	5	0.1
38	愛媛県	7	0.1
39	高知県	7	0.1
40	福岡県	10	0.1
41	佐賀県	3	0.0
42	長崎県	5	0.1
43	熊本県	4	0.0
44	大分県	3	0.0
45	宮崎県	12	0.1
46	鹿児島県	15	0.2
47	沖縄県	112	1.1
	合計	10,000	100.0

SC2 あなたの最終学歴をお答えください。（択一）

選択項目		回答数	%
1	大学（学部）	3,949	39.5
2	大学院（修士）	484	4.8
3	大学院（博士）	178	1.8
4	短期大学	997	10.0
5	専門学校	1,173	11.7
6	高等学校	2,576	25.8
7	その他（高校・大学在学中も含む）	643	6.4
合計		10,000	100.0

SC3 あなたはリカレント教育やリスキリング教育又は大学院での学びに興味がありますか。（択一）

選択項目		回答数	%
1	興味がある	1,541	15.4
2	興味がない	5,907	59.1
3	わからない	2,552	25.5
合計		10,000	100.0

以降の本調査はスクリーニング調査で以下1～3の条件にあてはまる回答者のみに依頼した。

- 1 SC1で居住地が「福井県」「愛知県」「三重県」「滋賀県」「京都府」「大阪府」「兵庫県」「奈良県」「和歌山県」のいずれかに在住
- 2 SC2で最終学歴が「大学(学部)」「大学院(修士)」「大学院(博士)」のいずれかに該当
- 3 SC3でリカレント教育やリスキリング又は大学院での学びに「興味がある」

本調査結果(937人が回答)

Q1 あなたの年代についてお答えください。（択一）

選択項目		回答数	%
1	10代以下	4	0.4
2	20代	111	11.8
3	30代	274	29.2
4	40代	333	35.5
5	50代	205	21.9
6	60代以上	10	1.1
合計		937	100.0

以降の設問の回答対象者（933人）

- ・ Q1で「2:20代」「3:30代」「4:40代」「5:50代」「6:60代以上」を選択した者

Q2 あなたの性別をお答えください。（択一）

選択項目		回答数	%
1	男性	559	59.9
2	女性	370	39.7
3	回答しない	4	0.4
合計		933	100.0

Q3 あなたの現況についてお答えください。(択一)

選択項目		回答数	%
1	在職中(公務員)	108	11.6
2	在職中(自営業)	78	8.4
3	在職中(公務員、自営業を除く企業・機関・団体等)	629	67.4
4	主婦・主夫	57	6.1
5	無職	44	4.7
6	その他	17	1.8
合計		933	100.0

Q4 あなたの最終学歴をお答えください。(択一)

選択項目		回答数	%
1	大学	750	80.4
2	大学院(修士)	139	14.9
3	大学院(博士)	35	3.8
4	大学院(専門職)	9	1.0
合計		933	100.0

Q5 あなたが大学・大学院で学ばれた学問分野をお答えください。(択一)

選択項目		回答数	%
1	芸術(美術)	19	2.0
2	芸術(デザイン)	18	1.9
3	芸術(音楽)	12	1.3
4	芸術(その他)	4	0.4
5	人文科学(文学、史学、哲学など)	162	17.4
6	社会科学(法学・政治学、商学・経済学、社会学など)	316	33.9
7	理学(数学、物理学、化学、生物、地学など)	66	7.1
8	工学(機械工学、電気通信工学、土木建築工学、応用化学など)	127	13.6
9	農学(農学、農芸化学、農業工学、林学など)	22	2.4
10	保健(医学、歯学、薬学、看護学など)	44	4.7
11	商船(商船学)	4	0.4
12	家政(家政学、食物学、被服学、住居学など)	8	0.9
13	教育(教育学、小・中・高校課程、体育学など)	44	4.7
14	その他(国際関係学、総合科学、教養学など)	87	9.3
合計		933	100.0

Q6 あなたが興味があるとされたリカレント教育、リスキリング教育又は大学院での学びにおいて、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。(複数回答可)

選択項目		回答数	%
1	芸術(美術)	104	11.1
2	芸術(デザイン)	122	13.1
3	芸術(音楽)	87	9.3
4	芸術(その他)	45	4.8
5	人文科学(文学、史学、哲学など)	225	24.1
6	社会科学(法学・政治学、商学・経済学、社会学など)	379	40.6
7	理学(数学、物理学、化学、生物、地学など)	149	16.0
8	工学(機械工学、電気通信工学、土木建築工学、応用化学など)	187	20.0
9	農学(農学、農芸化学、農業工学、林学など)	99	10.6
10	保健(医学、歯学、薬学、看護学など)	128	13.7
11	商船(商船学)	29	3.1
12	家政(家政学、食物学、被服学、住居学など)	71	7.6
13	教育(教育学、小・中・高校課程、体育学など)	118	12.6
14	その他(国際関係学、総合科学、教養学など)	170	18.2
合計		933	100.0

Q7 あなたが大学院進学を希望される場合、志望する大学等の設置者の希望を選択してください。（複数回答可）

選択項目		回答数	%
1	私立	481	51.6
2	国立	630	67.5
3	公立	462	49.5
合計		933	100.0

Q8 立命館大学大学院「デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻[修士課程]（仮称）」が開設された場合、受験を希望しますか。次の中から1つ選択してください。（択一）

選択項目		回答数	%
1	第一志望として受験する	174	18.6
2	第二志望として受験する	145	15.5
3	第三志望以降として受験する	128	13.7
4	受験しない	486	52.1
合計		933	100.0

Q8の回答対象者（447人）

- ・ Q8で「第一志望として受験する」「第二志望として受験する」「第三志望以降として受験する」のいずれかを選択した者

Q9 立命館大学大学院「デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻[修士課程]（仮称）」を受験して合格した場合、入学を希望しますか。（択一）

選択項目		回答数	%
1	入学する	165	36.9
2	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	261	58.4
3	入学しない	21	4.7
合計		447	100.0

3. 社会人アンケート調査 クロス集計結果

(1) クロス集計を踏まえた、「デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻[修士課程] (仮称)」(入学定員20名)への受験・入学意向

<クロス集計の前提(以下すべての条件を見たす回答者のみの結果)>

- ・ 学びたいと考えている興味のある学問分野として芸術(美術)、芸術(デザイン)、芸術(その他)のいずれかを選択
- ・ 志望する大学院の設置者に私立を選択

以上に該当する回答者合計117人(当初回答者937人の12.4%)の1年次への受験・入学意向は以下の通りである。

Q8 立命館大学大学院「デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻[修士課程] (仮称)」が開設された場合、1年次入学を前提とした受験を希望しますか。(択一)

選択項目		回答数	%
1	第一志望として受験する	48	41.0%
2	第二志望として受験する	22	18.8%
3	第三志望以降として受験する	17	14.5%
4	受験しない	30	25.6%
合計		117	100.0%

Q8で「第一志望として受験する」とした回答者48人のQ9結果

Q9 立命館大学大学院「デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻[修士課程] (仮称)」を受験して合格した場合、入学を希望しますか。(択一)

選択項目		回答数	%
1	入学する	39	81.3%
2	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	9	18.8%
3	入学しない	0	0.0%
合計		48	100.0%

以上の通り、クロス集計を踏まえた上で、立命館大学大学院「デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻[修士課程] (仮称)」に「第一志望として受験」としたのは48人、合格した場合「入学する」としたのは入学定員20名(予定)を大きく上回る39人いた。

「第一志望として受験する」とした回答者一覧(クロス集計後)

※ 全員が以下にあてはまる

- ・リカレント教育やリスキリング教育又は大学院での学びに興味あり
- ・学びたいと考えている興味のある学問分野として芸術(美術)、芸術(デザイン)、芸術(その他)のいずれかを選択
- ・志望する大学院の設置者に私立を選択

回答者区分	居住地	最終学歴	年代	性別	現況	専攻した学問分野	興味のある学問分野			受験希望	合格の場合の入学有無
							芸術(美術)	芸術(デザイン)	芸術(その他)		
1	愛知県	大学(学部)	30代	男性	在職中(公務員、自営業を除く企業・機関・団体等)	社会科学	○	○	○	第一志望	入学する
2	愛知県	大学(学部)	30代	女性	在職中(公務員)	芸術	○			第一志望	入学する
3	愛知県	大学(学部)	30代	男性	在職中(公務員)	芸術	○			第一志望	入学する
4	愛知県	大学(学部)	30代	女性	在職中(公務員)	芸術	○			第一志望	入学する
5	愛知県	大学(学部)	40代	女性	在職中(公務員、自営業を除く企業・機関・団体等)	芸術	○	○		第一志望	入学する
6	愛知県	大学(学部)	50代	男性	在職中(公務員、自営業を除く企業・機関・団体等)	人文科学	○	○		第一志望	入学する
7	滋賀県	大学院(修士)	30代	男性	在職中(公務員)	芸術	○	○	○	第一志望	入学する
8	滋賀県	大学(学部)	30代	男性	在職中(公務員、自営業を除く企業・機関・団体等)	その他	○	○		第一志望	入学する
9	京都府	大学(学部)	30代	男性	在職中(公務員、自営業を除く企業・機関・団体等)	教育		○		第一志望	入学する
10	京都府	大学(学部)	30代	女性	在職中(公務員、自営業を除く企業・機関・団体等)	社会科学	○	○	○	第一志望	入学する
11	京都府	大学(学部)	30代	女性	在職中(公務員)	芸術	○	○		第一志望	入学する
12	京都府	大学院(修士)	40代	女性	在職中(公務員、自営業を除く企業・機関・団体等)	人文科学	○			第一志望	入学する
13	京都府	大学(学部)	40代	女性	在職中(自営業)	芸術	○			第一志望	入学する
14	京都府	大学(学部)	40代	男性	在職中(自営業)	社会科学	○			第一志望	入学する
15	大阪府	大学(学部)	20代	女性	在職中(公務員、自営業を除く企業・機関・団体等)	人文科学	○			第一志望	入学する
16	大阪府	大学(学部)	20代	女性	在職中(公務員、自営業を除く企業・機関・団体等)	人文科学	○			第一志望	入学する
17	大阪府	大学(学部)	20代	男性	在職中(公務員、自営業を除く企業・機関・団体等)	教育	○	○		第一志望	入学する
18	大阪府	大学院(修士)	30代	女性	在職中(公務員、自営業を除く企業・機関・団体等)	芸術		○		第一志望	入学する
19	大阪府	大学院(修士)	30代	女性	在職中(公務員)	芸術	○	○		第一志望	入学する
20	大阪府	大学(学部)	30代	男性	在職中(公務員)	社会科学	○	○	○	第一志望	入学する
21	大阪府	大学(学部)	30代	女性	在職中(公務員、自営業を除く企業・機関・団体等)	工学	○	○		第一志望	入学する
22	大阪府	大学(学部)	30代	女性	在職中(公務員)	教育	○	○		第一志望	入学する
23	大阪府	大学(学部)	30代	女性	在職中(公務員、自営業を除く企業・機関・団体等)	工学	○	○		第一志望	入学する
24	大阪府	大学(学部)	30代	男性	在職中(自営業)	芸術	○			第一志望	入学する
25	大阪府	大学(学部)	30代	女性	在職中(公務員、自営業を除く企業・機関・団体等)	その他			○	第一志望	入学する
26	大阪府	大学(学部)	40代	男性	在職中(公務員、自営業を除く企業・機関・団体等)	社会科学	○			第一志望	入学する
27	大阪府	大学(学部)	40代	男性	在職中(公務員、自営業を除く企業・機関・団体等)	社会科学	○	○		第一志望	入学する
28	大阪府	大学(学部)	40代	男性	在職中(公務員、自営業を除く企業・機関・団体等)	理学	○	○		第一志望	入学する
29	大阪府	大学院(修士)	40代	女性	在職中(公務員)	社会科学		○		第一志望	入学する
30	大阪府	大学(学部)	40代	女性	在職中(公務員、自営業を除く企業・機関・団体等)	芸術			○	第一志望	入学する
31	大阪府	大学(学部)	40代	男性	在職中(公務員、自営業を除く企業・機関・団体等)	芸術	○			第一志望	入学する
32	大阪府	大学(学部)	50代	男性	在職中(公務員)	教育		○		第一志望	入学する
33	大阪府	大学(学部)	50代	女性	主婦・主夫	社会科学		○		第一志望	入学する
34	大阪府	大学(学部)	50代	男性	在職中(公務員、自営業を除く企業・機関・団体等)	社会科学	○	○	○	第一志望	入学する
35	兵庫県	大学(学部)	20代	女性	在職中(公務員、自営業を除く企業・機関・団体等)	社会科学	○	○		第一志望	入学する
36	兵庫県	大学(学部)	30代	男性	在職中(公務員、自営業を除く企業・機関・団体等)	その他	○			第一志望	入学する
37	兵庫県	大学(学部)	30代	男性	在職中(公務員)	芸術	○			第一志望	入学する
38	兵庫県	大学(学部)	40代	女性	在職中(公務員、自営業を除く企業・機関・団体等)	人文科学		○		第一志望	入学する
39	兵庫県	大学(学部)	40代	男性	在職中(自営業)	社会科学		○		第一志望	入学する
40	愛知県	大学(学部)	20代	女性	在職中(公務員)	芸術		○		第一志望	志望順位が上位の～入学する
41	愛知県	大学(学部)	30代	男性	在職中(公務員、自営業を除く企業・機関・団体等)	社会科学	○	○	○	第一志望	志望順位が上位の～入学する
42	愛知県	大学院(修士)	30代	男性	在職中(公務員)	社会科学	○	○	○	第一志望	志望順位が上位の～入学する
43	愛知県	大学(学部)	30代	男性	在職中(公務員)	芸術		○		第一志望	志望順位が上位の～入学する
44	愛知県	大学(学部)	50代	女性	在職中(公務員、自営業を除く企業・機関・団体等)	芸術	○			第一志望	志望順位が上位の～入学する
45	大阪府	大学(学部)	20代	女性	在職中(公務員、自営業を除く企業・機関・団体等)	社会科学			○	第一志望	志望順位が上位の～入学する
46	大阪府	大学(学部)	40代	女性	在職中(自営業)	芸術	○			第一志望	志望順位が上位の～入学する
47	大阪府	大学(学部)	40代	女性	在職中(自営業)	芸術	○			第一志望	志望順位が上位の～入学する
48	兵庫県	大学(学部)	50代	男性	在職中(公務員)	工学	○			第一志望	志望順位が上位の～入学する

進学意向に関する調査(社会人対象)アンケート設問サイト
スクリーニング調査

社会人の学びについてのアンケート

アンケートにご協力をお願い致します。

回答する

回答者の皆様へ

◆アンケート内で知り得た情報について

当アンケートには機密情報が含まれます。当アンケートの内容や知り得た情報は第三者に口外・転載・漏洩することないようにお願いいたします。

◆アンケートによっては機微情報をお伺いする設問が含まれる場合があります。

回答内容は、個人が特定されない形で統計的に処理されたデータとして扱われますが、回答したくない場合は途中で回答をやめていただいて問題ありません。

回答をやめる場合はブラウザの閉じるボタンを押して終了してください。

◆推奨環境について

アンケートにお答え頂くには下記の環境が必要です。

- ・JavaScriptを有効にしてください。
- ・Cookieを有効(受け入れる)にしてください。

●WindowsPC

GoogleChrome(最新版)/Mozilla Firefox(最新版)

●MAC

Safari(最新版)

●スマートフォン/タブレット

iOS/AndroidOSの標準ブラウザ

※フィーチャーフォン(ガラケー)では回答できません。

※すべての機種での動作を保証するものではありません。

設問タイプ

単一選択

選択肢を引き継ぐ

回答者によって選択肢の順番をランダム表示

回答必須

プルダウン形式

Q1. あなたのお住まいをお答えください。（あてはまるもの1つ） 必須

北海道

青森県

岩手県

宮城県

秋田県

山形県

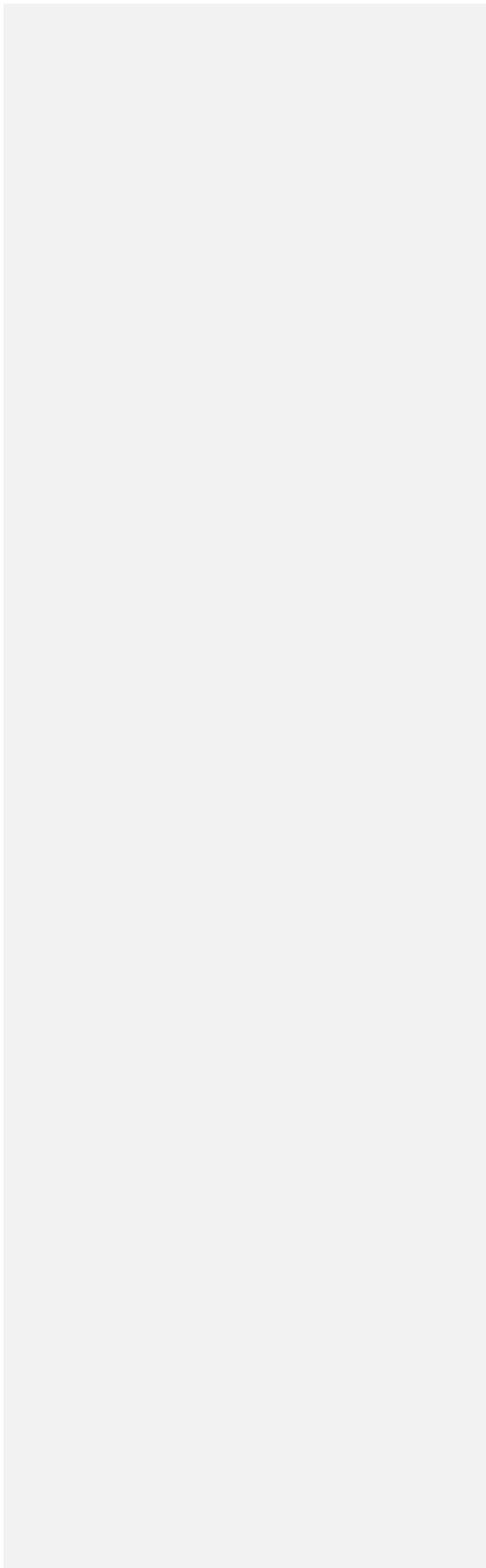
福島県

茨城県

栃木県

群馬県

埼玉県



- 千葉県
- 東京都
- 神奈川県
- 新潟県
- 富山県
- 石川県
- 福井県
- 山梨県
- 長野県
- 岐阜県
- 静岡県
- 愛知県
- 三重県
- 滋賀県
- 京都府
- 大阪府
- 兵庫県
- 奈良県
- 和歌山県
- 鳥取県
- 島根県
- 岡山県
- 広島県
- 山口県
- 徳島県
- 香川県
- 愛媛県
- 高知県

福岡県

佐賀県

長崎県

熊本県

大分県

宮崎県

鹿児島県

沖縄県

これらの選択肢から1つ選択してください

つぎへ

設問タイプ

単一選択

選択肢を引き継ぐ

回答者によって選択肢の順番をランダム表示

回答必須

プルダウン形式

Q2. あなたの最終学歴をお答えください。（あてはまるもの1つ） 必須

大学（学部）

大学院（修士）

大学院（博士）

短期大学

専門学校

高等学校

その他（高校・大学在学中も含む）

これらの選択肢から1つ選択してください

つぎへ

設問タイプ

単一選択

選択肢を引き継ぐ

回答者によって選択肢の順番をランダム表示

回答必須

プルダウン形式

Q3. あなたはリカレント教育やリスキリング教育又は大学院での学びに興味がありますか。（あてはまるものの1つ） 必須

興味がある

興味がない

わからない

これらの選択肢から1つ選択してください

つぎへ

抽出条件

設問 Q1.あなたのお住まいをお答えください。(あてはまるもの1つ)

回答 いずれか

- 北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県
 山形県 福島県 茨城県 栃木県 群馬県
 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県
 新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県
 長野県 岐阜県 静岡県 愛知県 三重県
 滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県
 和歌山県 鳥取県 島根県 岡山県
 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県
 高知県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県
 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県

AND

設問 Q2.あなたの最終学歴をお答えください。(あてはまるもの1つ)

回答 いずれか

- 大学(学部) 大学院(修士) 大学院(博士)
 短期大学 専門学校 高等学校
 その他(高校・大学在学中も含む)

AND

設問 Q3.あなたはリカレント教育やリスキリング教育又は大学院での学びに興味がありますか。(あてはまるもの1つ)

回答 いずれか

- 興味がある 興味がない わからない

ありがとうございました

進学意向に関する調査(社会人対象)アンケート設問サイト
本調査

大学院での学びについてのアンケート

アンケートにご協力をお願い致します。

回答する

回答者の皆様へ

◆アンケート内で知り得た情報について

当アンケートには機密情報が含まれます。当アンケートの内容や知り得た情報は第三者に口外・転載・漏洩することないようにお願いいたします。

◆アンケートによっては機微情報をお伺いする設問が含まれる場合があります。

回答内容は、個人が特定されない形で統計的に処理されたデータとして扱われますが、回答したくない場合は途中で回答をやめていただいて問題ありません。
回答をやめる場合はブラウザの閉じるボタンを押して終了してください。

◆推奨環境について

アンケートにお答え頂くには下記の環境が必要です。

- ・JavaScriptを有効にしてください。
- ・Cookieを有効(受け入れる)にしてください。

●WindowsPC

GoogleChrome(最新版)/Mozilla Firefox(最新版)

●MAC

Safari(最新版)

●スマートフォン/タブレット

iOS/AndroidOSの標準ブラウザ

※フィーチャーフォン(ガラケー)では回答できません。

※すべての機種での動作を保証するものではありません。

設問タイプ

単一選択

選択肢を引き継ぐ

回答者によって選択肢の順番をランダム表示

回答必須

ブルダウン形式

途中終了条件

設問 Q1.あなたの年代についてお答えください。

回答 いずれか

10代以下 20代 30代 40代

50代 60代以上

Q1. あなたの年代についてお答えください。 **必須**

10代以下

20代

30代

40代

50代

60代以上

これらの選択肢から1つ選択してください

つぎへ

設問タイプ

単一選択

選択肢を引き継ぐ

回答者によって選択肢の順番をランダム表示

回答必須

プルダウン形式

Q2. あなたの性別をお答えください。（あてはまるもの1つ） 必須

男性

女性

回答しない

これらの選択肢から1つ選択してください

つぎへ

設問タイプ

単一選択

入力制限 制限なし 数字 英数字 メール 日付

選択肢を引き継ぐ

回答者によって選択肢の順番をランダム表示

回答必須

プルダウン形式

Q3. あなたの現況についてお答えください。（あてはまるもの1つ） 必須

在職中（公務員）

在職中（自営業）

在職中（公務員、自営業を除く企業・機関・団体等）

主婦・主夫

無職

その他(具体的に入力してください)

これらの選択肢から1つ選択してください

つぎへ

設問タイプ

単一選択

選択肢を引き継ぐ

回答者によって選択肢の順番をランダム表示

回答必須

フルダウン形式

Q4. あなたの最終学歴をお答えください。 必須

大学

大学院（修士）

大学院（博士）

大学院（専門職）

これらの選択肢から1つ選択してください

つぎへ

設問タイプ

単一選択

選択肢を引き継ぐ

回答者によって選択肢の順番をランダム表示

回答必須

ブルダウン形式

Q5. あなたが大学・大学院で学ばれた学問分野をお答えください。（あてはまるもの1つ） 必須

芸術（美術）

芸術（デザイン）

芸術（音楽）

芸術（その他）

人文科学（文学、史学、哲学など）

社会科学（法学・政治学、商学・経済学、社会学など）

理学（数学、物理学、化学、生物、地学など）

工学（機械工学、電気通信工学、土木建築工学、応用化学など）

農学（農学、農芸化学、農業工学、林学など）

保健（医学、歯学、薬学、看護学など）

商船（商船学）

家政（家政学、食物学、被服学、住居学など）

教育（教育学、小・中・高校課程、体育学など）

その他（国際関係学、総合科学、教養学など）

これらの選択肢から1つ選択してください

つぎへ

設問タイプ

Q6. あなたが興味があるとされたりカレント教育、リスキリング教育又は大学院での学びにおいて、学びたいと

複数選択

選択肢を引き継ぐ

回答者によって選択肢の順番をランダム表示

回答必須

考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（あてはまるものすべて） 必須

芸術（美術）

芸術（デザイン）

芸術（音楽）

芸術（その他）

人文科学（文学、史学、哲学など）

社会科学（法学・政治学、商学・経済学、社会学など）

理学（数学、物理学、化学、生物、地学など）

工学（機械工学、電気通信工学、土木建築工学、応用化学など）

農学（農学、農芸化学、農業工学、林学など）

保健（医学、歯学、薬学、看護学など）

商船（商船学）

家政（家政学、食物学、被服学、住居学など）

教育（教育学、小・中・高校課程、体育学など）

その他（国際関係学、総合科学、教養学など）

いずれかの選択肢を選択してください

つぎへ

設問タイプ

複数選択

Q7. あなたが大学院進学を希望される場合、志望する大学等の設置者の希望を選択してください。（あてはまるものすべて） 必須

- 選択肢を引き継ぐ
- 回答者によって選択肢の順番をランダム表示
- 回答必須

私立

国立

公立

いずれかの選択肢を選択してください

つぎへ

設問タイプ

説明ページ

長辺合わせ

ここからは立命館大学が設置構想中の大学院「デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻[修士課程](仮称)」の概要およびリーフレットをみてお答えください。

概要

https://drive.google.com/file/d/13sCyIqmUIYOikp0VHSys_wYvDbMyXIAY/view?pli=1

リーフレット（前半部分はデザイン・アート学部の紹介を含む）

<https://drive.google.com/file/d/1BTdHIPDGEwh8oHfx1u9eIDqskBjNLJbQ/view?pli=1>

つぎへ

設問タイプ

単一選択

選択肢を引き継ぐ

回答者によって選択肢の順番をランダム表示

回答必須

プルダウン形式

途中終了条件

Q8.立命館大学大学院「デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻[修士課程](仮称)」が開設された場合、受験を希望しますか。次の中から1つ選択してください。

回答 いずれか

第一志望として受験する 第二志望として受験する

第三志望以降として受験する 受験しない

Q8. 立命館大学大学院「デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻[修士課程](仮称)」が開設された場合、受験を希望しますか。次の中から1つ選択してください。 **必須**

第一志望として受験する

第二志望として受験する

第三志望以降として受験する

受験しない

これらの選択肢から1つ選択してください

つぎへ

設問タイプ

単一選択

選択肢を引き継ぐ

回答者によって選択肢の順番をランダム表示

回答必須

プルダウン形式

Q9. 立命館大学大学院「デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻[修士課程](仮称)」を受験して合格した場合、入学を希望しますか。次の中から1つ選択してください。 **必須**

入学する

志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する

入学しない

これらの選択肢から1つ選択してください

つぎへ

ありがとうございました

「デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻[修士課程](仮称)」

リーフレットおよび概要

College of Arts & Design

R RITSUMEIKAN
UNIVERSITY

2026.4—
立命館大学 衣笠キャンパス

デザイン・アート学部(仮称) デザイン・アート学研究所(仮称) 設置構想中

※設置計画は、現在構想中であり、内容に変更が生じる可能性があります。

デザイン・アート学部/研究所の特色

歴史・文化都市「京都」に位置する衣笠キャンパスにおいて、未来志向の新たなデザイン学の追求とアートの技術・感性を基盤に自然科学と人文・社会科学領域を横断した教育・研究の展開を行います。

リアルだけでなく、オンライン・オンデマンド・バーチャル空間などを利用したバーチャルキャンパスなどを導入し、多様な社会に適したより柔軟で高次元の学びの環境を整備予定です。

美的感性に裏打ちされた、「問題解決力」「問い直し力」「共創力」「問題発見力」「創造的思考力」を総合的に身につけた、クリエイティブで柔軟な思考を涵養します。

デザイン・アートの現状と課題

現在、デザイン・アートを取り巻く状況には、以下のようなものが社会的課題として認識できます。

1—デザインの専門性の喪失

日本国内のデザインの歴史の変遷を見ると、デザインが多様な分野に拡張し、専門知が拡散しています。その結果、デザインの本来の意義が十分に理解されず、専門性が失われています。この事態を改善し、デザイン学を再構築する場が求められています。

2—デザイン思考におけるアートの観点の喪失

デザイン思考が普及する中で、デザインの「問題解決」の側面が過度に注目され、アートの観点が見落とされています。デザインとアートの関係を再評価し、再結合することが求められています。

3—デザインの定義の曖昧性

デザインの領域横断的な学際性が評価される一方で、応用分野ごとにデザインの定義が異なり、ミスコミュニケーションが発生しています。本学部では、各分野のデザインの意味を比較検討し、共通の意義を見出します。

4—日本の歴史と文化を踏まえたデザイン教育研究の不在

日本の歴史と文化を基にした独自のデザイン教育研究が不足しています。京都の文化資源を最大限に活用し、日本独自のデザイン教育を展開します。

5—デジタルネイティブのデザイン教育研究の不在

デジタル化の進展に伴い、デジタル環境に適応したデザイン教育研究が必要です。デジタル技術を駆使し、学生が自らの感性に基づいた表現や研究を行える環境を整備します。

本学部・研究科では、社会環境の変化とデザイン・アートの現状における5つの課題を踏まえ、アートの観点からデザインの位置づけを見直します。そして、空洞化しているデザイン学領域に責任を持ち、日本の歴史と文化を反映した独自の視点とデジタルネイティブのデザイン教育研究を推進します。これにより、世界的なデザイン・アートの拠点である京都で、専門家、研究者、高度専門職業人を育成します。この新しいデザイン学への進化は古いデザイン学を否定するのではなく、それに基づき、新たなデザイン学の領域からの融合によって生じます。本学部・研究科は、この進化を基に、総合大学としての特性を生かし、「総合大学だからこそできるデザイン・アートの知」の創造を目指します。

教育理念

デザイン・アート学部は、デザイン学を一つのディシプリンとして捉え、歴史都市京都にある総合大学が展開する未来志向の新たなデザイン学を追求しつつ、アートの感性と技術を基盤に自然科学と人文・社会科学領域を横断した教育・研究を展開することを目的として設置するものです。企業や地域社会との連携を重視し、豊かな文化・生活様式や未来への持続可能な社会の形成に関わる創造的な表現活動に取り組みます。

人材育成目的

デザイン・アート学部は、人工知能や仮想・複合現実などのデジタル情報技術の発展を背景に、人間本来の思考と創造性のあり方自体が問い直されるべき社会的要請に応えるために、本学園の根幹である「建学の精神」、「教学理念」、「立命館憲章」に則り、長い歴史と重厚な文化のもとで革新的な知が創出されてきた京都という都市において、フィジカルとデジタルに跨がる知の蓄積と循環機能を戦略基盤に持ち、他者との協働と省察による社会実践活動を通して、美的感性に裏打ちされた「問題解決力」「問い直し力」「共創力」「問題発見力」「創造的思考力」を総合的に身につけながら、職域を問わず多様な社会や組織において豊かな文化・生活世界の新たな形成理念を提案・創造することができる人材を育成します。

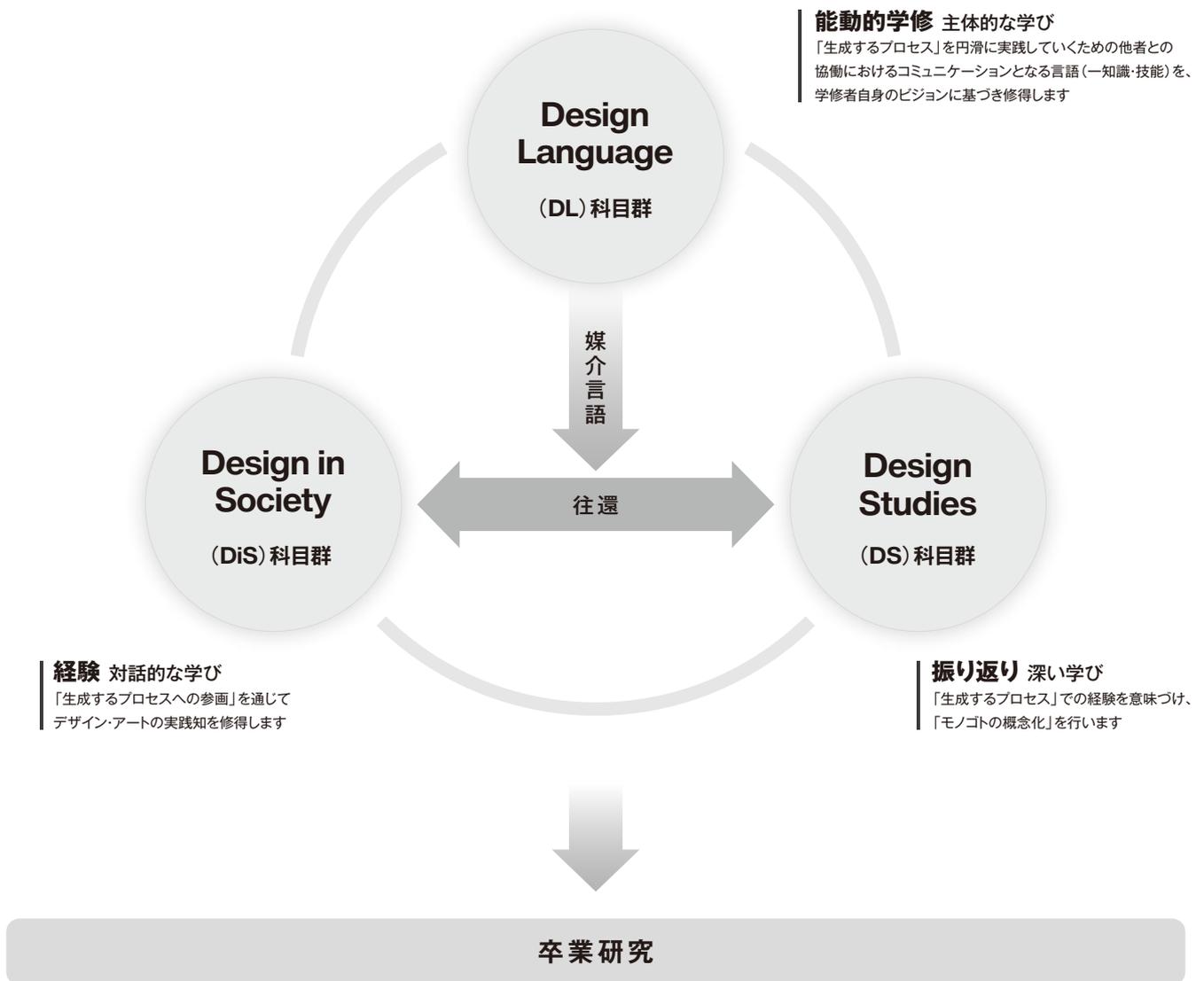
デザイン・アート学部における カリキュラムレベルでのアクティブラーニング

デザイン・アート学部のカリキュラムには、アクティブラーニングの構成要素である「主体的・対話的・深い学び」がその構造に埋め込まれており、カリキュラムレベルでアクティブラーニングを実現します。

デザイン・アート学部での学びは、常に学内外の他者との協働において生成するプロセスのなかにあります。

デザイン・アート学部では、「まち全体をラーニングプレイス」と捉え、大学の学びをキャンパスの外に広げた多様な社会での学びの場において、豊かな文化・生活様式や未来への持続可能な社会の形成に関わる創造的な表現活動に取り組みます。

この中核となるのが「Design in Society (DiS) 科目群」で実施されるプロジェクト実践型の授業形態でとなります。



デザイン・アート学部のカリキュラム

● Design in Society [DiS] 科目群

この科目群は2回生以上に配当され、他者との協働において「生成するプロセス」への参画を通じて、デザイン・アートの実践知を修得することを目的としています。

ここで社会実践に参画し、多様な社会実践者との協働によって身につけられる社会的スキルは、卒業後に職域を問わず多様な社会や組織において活躍するためのキャリア形成に資するものとなります。

「デザイン学生成プロジェクト演習1・2」(2回生以上)

専門性の異なる複数の教員から考案されるデザイン・アートに関わる最新のテーマ・トピックに基づいたプロジェクトへ参画する。

「デザイン学総合研究1・2」(3回生以上)

教員の主要研究テーマに基づくプロジェクトへ参画する。

「卒業演習1・2」(4回生)

自身が興味を持つデザイン・アート領域に関わる新たな研究テーマを定め、それに基づいた卒業研究プロジェクトを構想し具現化する。

科目区分	1回生		2回生		3回生		4回生	
	1 Semester	2 Semester	3 Semester	4 Semester	5 Semester	6 Semester	7 Semester	8 Semester
Design in Society [DiS]			デザイン学生成プロジェクト演習1	デザイン学生成プロジェクト演習2	デザイン学総合研究1	デザイン学総合研究2	卒業演習1	卒業演習2

● Design Studies [DS] 科目群

この科目群は1回生以上に配当され、他者との協働において生成するプロセスへの参画を通して「経験したこと」に対して、自分自身がどのように「意味づけ」していくか、その考え方や方法について学ぶことを目的としています。

古今東西のさまざまなモノやコトの生成について、ケーススタディから自分が参画したプロジェクト(他者との協働において生成するプロセス)への意味づけ(モノゴトの概念化)を深く広く行えるようになることを目指します。

「デザイン学1・2」(1回生)

本学部でのデザイン・アートの学びを構成する4領域(「意味」「情報」「環境」「社会」)からそれぞれの理論的・実践的アプローチを学ぶ。

「デザイン学3A・3B・4」(2回生)

デザイン・アートに関わるさまざまな社会実践者の取り組み、および教員の研究実践から学ぶ。

「デザイン学5・6」(3回生)

デザイン・アートに関わる国内外での最新の社会実践事例から学び、議論し、意味づけをしていく。

科目区分	1回生		2回生		3回生		4回生	
	1 Semester	2 Semester	3 Semester	4 Semester	5 Semester	6 Semester	7 Semester	8 Semester
Design Studies [DS]	デザイン学1	デザイン学2	デザイン学3A	デザイン学3B デザイン学4	デザイン学5	デザイン学6		

●Design Language [DL] 科目群

デザイン・アートに関わるさまざまな「知識」や「技能」を、協働における他者とのコミュニケーションのための「言語(ランゲージ)」と捉えた上で、本科目群に配置された科目はさらに「知識群(Knowledge)」「技能群(Skill)」に区分され、各群の導入系科目を1回生以上に配当、専門系科目を2回生以上に配当しています。

この科目群に置かれた「知識」と「技能」を身につけていくことで、さまざまな他者との協働を円滑に、そして効果的に実践していくことが可能となることを目的としています。

デザイン・アートの学びを構成する4領野とアートの視点

意味デザイン

意味デザインは、人間による感性や知性に基づいた営みから生み出される有形無形の資源を蓄積し、それらに対して新たな「意味」や「表現」を付与し、人間社会に還元していくプロセスであり、ここでは、デザインされた文化的資源がさらに人間による文化的営みのなかでかたちを変え、それらが新たにデザインの対象となっていくサイクルが含まれる。

この分野においては、文化情報学、芸術学、文化財科学、博物館学などの知識を基盤とした方法論からデザイン学にアプローチする。

情報デザイン

人類史における様々な技術の発展は、情報の可視化、蓄積、伝達のかたちを変え、そのことを通じて情報自体が持つ意味の質や方向づけをも変えてきた。デザイン・アート学部が研究対象とする情報デザインは、感覚や認知の次元も含めてコミュニケーションを成り立たせている条件の総体に対して、新たな「かたち」や「機能」を与えることで、価値創造を目指すものである。

この分野においては、情報工学、電気・電子工学、感性工学、認知科学などの知識を基盤とした方法論からデザイン学にアプローチする。

環境デザイン

人間は自己を取り巻く環境を創り出す主体であると同時に、その認知や行動は環境からの大きな影響を受ける。この意味で人間とそれを取り巻くモノやそれによって構成される空間の関係は相互的なダイナミズムがある。デザイン・アート学部が研究対象とする環境デザインは、例えば、一つの部屋から都市や地域に至るまで、さまざまなスケールの「環境」に対して、このダイナミズムを可視化し、そこに創造的な介入をおこなっていくプロセスである。この分野においては、建築・都市工学、地理学、地域社会学、生活科学などの知識を基盤とした方法論からデザイン学にアプローチする。

社会デザイン

社会デザインは、社会に流通・布置されているデザインされた人工物(製品・サービスや組織、制度を含む)の根底にある意味を対象に、それらに介在する全てのものの関係性を見直し、そこから得られる経験を再定義することで新たな価値創出を目指すプロセスである。その実践は、人工物が生み出された理念をはじめ、生成過程や、人的物的リソース、それらの営みの主体となる組織やコミュニケーション自体のデザインが含まれるが、そうした人工物が消費される生活や社会のあり方について、空間軸・時間軸をまたいだ洞察が必要となる。

この分野においては、経営学、社会学、文化人類学、史学などの知識を基盤とした方法論からデザイン学にアプローチする。

科目区分		1回生		2回生		3回生		4回生	
		1 Semester	2 Semester	3 Semester	4 Semester	5 Semester	6 Semester	7 Semester	8 Semester
Design Language [DL]	英語 [E]	英語P1	英語P2	英語P3	英語P4				
	技能群 [S]	導入 I	デザイン・アート技能基礎 [DL-S-1-a] デザインリサーチ/デザインリサーチのためのアカデミック・ライティング/デジタルビジュアルデザイン基礎/Webデザイン基礎/アート・ドキュメンテーション/デザイン・アートのためのプログラミング/デザイン・アートのための製図 アート表現基礎 [DL-S-I-b] デジタルアート表現基礎(絵画)/デジタルアート表現基礎(立体造形)/フィジカルアート表現基礎(身体パフォーマンス)/フィジカルアート表現基礎(絵画)/フィジカルアート表現基礎(立体造形)						
		専門 M		デザインする/デザインされる意味 [DL-S-M-a] デザイン評価法/アート作品のデジタル分析技術実習/美術品・工芸品のデジタル化技術実習/工芸・美術・芸術の社会活用実習/デジタル文化資源の活用実習/パフォーマンス制作と記録/データベース構築実習/テキストマイニング デザインする/デザインされる情報 [DL-S-M-b] デザインとAI・人工知能・機械学習/デザインとバーチャルリアリティ/デザインのためのビッグデータ解析/Webアーカイブ技術/Webコンテンツ活用システム デジタルファブリケーション/コンピュータグラフィックス/サウンド処理/音響・音声アーカイブ デザインする/デザインされる環境 [DL-S-M-c] コミュニティデザイン/ヴィジュアルライゼーション/CAD/CG演習/実測演習/地域調査法/ランドスケープ・プランニング デザインする/デザインされる社会 [DL-S-M-d] デザインエスノグラフィー/サービスデザイン/アートマネジメント実習/ミュゼオロジー実習/グラフィックファシリテーション/ワークショップデザイン アート表現応用 [DL-S-M-e] デジタルアート表現応用(インスタレーション)/フィジカルアート表現応用(インスタレーション)					
	知識群 [K]	導入 I	デザイン・アート知識基礎 [DL-K-1-a] デザイン理論/グローバルデザイン論/デザイン態度論/デザイン・アートとビジュアルコミュニケーション/インダストリアルデザイン論/デジタルヒューマンティーズ概論/デザイン・アートとコンピュータ基礎/地域デザイン論/人間中心デザイン論/京都・伝統文化論/芸術批評論						
専門 M			デザインする/デザインされる意味 [DL-K-M-a] 視覚芸術表現論/デザインと人類学/芸能・演劇史/工芸・産業史/視覚文化・芸術史/身体表現論/音楽とデザイン/現代アート論 デザインする/デザインされる情報 [DL-K-M-b] デジタルメディアデザイン論/デザインと知覚/デザインとコンピュータ応用/デザインのための数理/デジタルアーカイブ概論/感性・認知情報処理論/メディア処理論/デザインと人間工学/デザインのためのデータマイニング デザインする/デザインされる環境 [DL-K-M-c] コ・デザイン論/都市デザイン/景観論/地理情報科学/建築意匠論/建築・インテリア空間設計論/日本庭園文化史/歴史まちづくり デザインする/デザインされる社会 [DL-K-M-d] 戦略的デザイン論/デザインとマーケティング/デザインと行政/デザインと知的財産権/デザインマネジメント論/アートマネジメント論/ミュゼオロジー/美術教育論 デザイン・アートと国際社会/デザイン・アートと世界史/デザイン・アートと歴史・考古学						

デザイン・アート学研究科のカリキュラム

デザイン・アート学研究は、アートの技術と感性を基盤に自然科学と人文・社会科学を横断した研究領域を開拓し、新たなデザイン学を追究することを目的として構想しています。

修士課程 (2年制)

様々な領域の学部からの進学者を対象とした一般的な修業年限の2年制コース

科目区分	1回生		2回生	
	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター
研究指導科目	新領域 デザイン・アート学研究I	新領域 デザイン・アート学研究II	新領域 デザイン・アート学研究III	新領域 デザイン・アート学研究IV
新領域 デザイン・アート学 基盤科目群	新領域 デザイン・アート学特論I	新領域 デザイン・アート学特論II		
	新領域デザイン・アート リサーチ方法論研究I	新領域デザイン・アート リサーチ方法論研究II		
新領域 デザイン・ アート ランゲージ 科目群	理論	グローバルデザイン論/デジタルメディアデザイン論/コンピューティングデザイン論/デジタルデータデザイン論/ デジタルデザインヒューマニティーズ論/ローカルデザイン論/ デザインリーダーシップ論/戦略的デザインマネジメント論/戦略的アートマネジメント論		
		デジタルアート表現演習(夏期集中)/フィジカルアート表現演習(夏期集中)/デザインフィールドワーク演習(夏期集中)		
	技能	デジタルデザイン表現演習/ デザイン科学評価法演習/質的デザイン評価法演習 デジタルアーカイブ演習/ファシリテーションデザイン演習		

修士課程 (1年制)

デザイン関連の社会人、将来のアカデミックフィールドを目指す社会人向けの1年制コース
「新領域デザインストラテジー専修」と「新領域アートディレクション専修」の2専修を設置

科目区分	1回生		
	1セメスター	2セメスター	
研究指導科目	新領域デザインストラテジー研究I 新領域アートディレクション研究I	新領域デザインストラテジー研究II 新領域アートディレクション研究II	
新領域 デザイン・アート学 基盤科目群	新領域デザイン・アート学特論I 新領域デザイン・アートリサーチ方法論研究I	新領域デザイン・アート学特論II 新領域デザイン・アートリサーチ方法論研究II	
新領域 デザイン・ アート ランゲージ 科目群	理論	グローバルデザイン論 デジタルメディアデザイン論 デジタルデザインヒューマニティーズ論	ローカルデザイン論 デザインリーダーシップ論 戦略的デザインマネジメント論 戦略的アートマネジメント論
		デジタルアート表現演習(夏期集中)/フィジカルアート表現演習(夏期集中)/デザインフィールドワーク演習(夏期集中)	
	技能	デジタルデザイン表現演習 デザイン科学評価法演習 質的デザイン評価法演習	ファシリテーションデザイン演習 デジタルアーカイブ演習

博士課程後期課程 (2027年設置構想中)

科目区分	1回生		2回生		3回生	
	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター
研究指導科目	新領域 デザイン・アート学 特別研究I	新領域 デザイン・アート学 特別研究II	新領域 デザイン・アート学 特別研究III	新領域 デザイン・アート学 特別研究IV	新領域 デザイン・アート学 特別研究V	新領域 デザイン・アート学 特別研究VI
新領域デザイン・ アート学 応用プロジェクト 科目群	新領域 デザイン・アート学 応用プロジェクト 研究I	新領域 デザイン・アート学 応用プロジェクト 研究II	新領域 デザイン・アート学 応用プロジェクト 研究III	新領域 デザイン・アート学 応用プロジェクト 研究IV	新領域 デザイン・アート学 応用プロジェクト 研究V	新領域 デザイン・アート学 応用プロジェクト 研究VI

キャリアモデル

デザイン・アート学部を卒業後は、企業等への就職や大学院進学などのこれまでの進路・進学のみならず、次のような活動やキャリアモデルが想定されています。

- 企業組織の戦略とデザイン戦略の統合を担う。
- テクノロジーを熟知し、組織ビジョンの構想から実現までをトータルで設計・実行する。
- 社会的、経済的コンテキストを踏まえ、新たなビジネスやサービスの開発を通じて、社会的課題に対して解決策を提示する。
- 地域社会の生活や産業と結びついて新たなデザインの課題を提起するような政策的な活動を行う。
- デザイン・アートの視座から、現在、未来を透視し、あるべき生活世界の新たな理念形成を推進していく。
- 創造的で共感できるビジョンを探索し、それを他者と共有し、巻き込んでいくプロジェクト実践を行う。

デザインストラテジスト、デザインコンサルタント/デザインリサーチャー、
クリエイティブディレクター/アートディレクター、ビジネスデザイナー、デジタルデザインエンジニア、
エクスペリエンスデザイナー、共創型ローカルデザイナー、アートナビゲーター/イベントプロデューサー、
キュレーター/デジタルアーキビスト、ビジョンデザイナー、カルチュラルデザイナー など

デザインストラテジスト

ビジネスとデザイン・アートの融合により可能となる事業戦略の立案

デザインコンサルタント/デザインリサーチャー

企業・組織におけるデザイン戦略の策定やブランディングなど企業や組織の持続的な価値提供の支援

クリエイティブディレクター/アートディレクター

組織への共感や信頼を高めるためのさまざまな施策・ツール等の企画立案から制作までの全ての工程をまとめる

ビジネスデザイナー

組織の理念を可視化し、事業価値と顧客価値の両立、サービス、ビジネスをリードする

デジタルデザインエンジニア

デジタルプロダクトの開発プロセスおよび、人間とコンピューター・デジタル技術の相互作用をデザインする

エクスペリエンスデザイナー

ユーザーがサービスや製品から得られる体験価値をデザインする

共創型ローカルデザイナー

地域活性化において価値の創出、情報発信、人材育成などをデザインする

アートナビゲーター/イベントプロデューサー

アートの社会動向や作品などに関する幅広い知識を生かし、アートの社会的価値を広く伝える/アートの社会的価値を応用展開することによる各種イベントの企画運営責任者

キュレーター/デジタルアーキビスト

博物館や美術館等で資料収集、展示、調査研究に携わる専門職員:学芸員/アーカイブのデジタル化についての知識と技能を持ち、総合的な文化情報の管理・活用をする専門家

ビジョンデザイナー

新しいビジョンを提示、これからのあるべき生活世界の形成に向けた社会課題や市場を構想する

カルチュラルデザイナー

社会や組織に新たな文化を創り、ライフスタイルとして提案する取り組みを実践する

4年間の学びのステージ

初回生教育から卒業研究までを一貫して、学生が主体的に学びを展開できるように支援します。

特に、初回生教育では学生が自己の主体的な学び方を確立すること、DiS科目群では社会実践に参画すること、DS科目群では社会実践の経験を概念化すること、DL科目群では知識や技能を身につけることを方針とした科目を提供します。

学びのステージ	Design in Society [DiS] 科目群	Design Studies [DS] 科目群	Design Language [DL] 科目群
1回生 デザイン・アートに 特有な見方・学び方 の基礎を固める		デザイン学1 デザイン学2	技能群導入科目 知識群導入科目
2回生 「生成への参加」と 「概念化」によって、 自己の課題を 明確化する	デザイン学 生成プロジェクト 演習1 デザイン学 生成プロジェクト 演習2	往還 デザイン学3A 往還 デザイン学3B デザイン学4	技能群専門科目 知識群専門科目
3回生 「生成への参加」と 「概念化」の反復に よって、自己の課題を より深く探究する	デザイン学 総合研究1 デザイン学 総合研究2	往還 デザイン学5 往還 デザイン学6	技能群専門科目 知識群専門科目
4回生 「生成への参加」と 「概念化」の反復に よる、社会価値創出 プロセスをまとめる	卒業演習1 卒業演習2		技能群専門科目 知識群専門科目



卒業研究

Q&A

高校では文系クラスに所属していますが、文系・理系でデザイン・アート学部の勉強に向き不向きはありますか？

文系クラスでも理系クラスの学生のみなさんでも支障はありません。教育内容をよく理解して関心のある学生のみなさんのチャレンジをお待ちしています。

デザイン・アート学部ではカリキュラムのほかにはどのような特徴がありますか？

共同、共創の場となるプロジェクト活動を重視し、大学キャンパスだけでなく、京都、日本国内外を学びの場とした「まち全体がラーニングプレイス」というコンセプトを掲げています。

デザイン・アート学部に進学希望なのですが、企業等への就職で不利ではありませんか？

デザイン・アートの価値創出やデザイン人材は社会から求められており、左頁「キャリアモデル」に記載のようなキャリアが形成できます。

私は、社会人で時間的な余裕がありませんが、デザイン・アート学研究科で学ぶことは可能ですか？

社会人のみなさんが学びやすいよう修士課程には「1年制コース」を設置予定です。また、オンラインやオンデマンド授業を組み込む予定としており、仕事と学業の両立が可能となります。

衣笠キャンパス ACCESS

■ JR・近鉄京都駅から

市バス50にて42分、市バス・JRバス「快速立命館」にて36分、「立命館大学前(終点)」下車

市バス205にて38分、「衣笠校前」下車、徒歩10分

JRバス「高尾・京北線」にて30分、「立命館大学前」下車

■ JR円町駅から

市バス・JRバス「快速立命館」にて8分、「立命館大学前(終点)」下車

市バス15にて10分、「臨」にて9分、「立命館大学前(終点)」下車

市バス204/205にて5分、「衣笠校前」下車、徒歩10分

JRバス「高尾・京北線」にて8分、「立命館大学前」下車

■ 阪急電車西院駅から

市バス・JRバス「快速立命館」にて15分、「臨」にて17分、「立命館大学前(終点)」下車

市バス205にて13分、「衣笠校前」下車、徒歩10分

■ 京阪電車三条駅から

市バス12にて53分、市バス15にて34分、市バス51にて36分、「立命館大学前(終点)」下車

市バス59にて40分、「立命館大学前」下車



R RITSUMEIKAN
UNIVERSITY

立命館大学 デザイン・アート学部 デザイン・アート学研究科

事務局(朱雀キャンパス5F総合企画課) 〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1番地

TEL: 075-813-8130 | <https://www.ritsumei.ac.jp>

立命館大学

デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻

仮称
設置構想中

学部
の
概
要

所在地：立命館大学 衣笠キャンパス(〒603-8577 京都府京都市北区等持院北町56-1)

入学定員：20名(収容定員:40名) ※2026年度予定

修業年限：2年 ※大学院設置基準第3条第3項に基づき、履修上の区分を設け、1年修了を認める。

取得学位：修士(デザイン・アート学)

養成する人材：デザイン・アート学研究科修士課程は、人工知能や仮想・複合現実などのデジタル情報技術の発展を背景に、人間本来の思考と創造性のあり方自体が問い直されるべき社会的要請に応えるために、美的感性に裏打ちされた「問題解決力」「問い直し力」「共創力」「問題発見力」「創造的思考力」を総合して高度に発揮しながら他者と積極的に協働し、その能力の社会的意義と効用を評価することによって、多様な社会や組織において、フィジカルからデジタルに拡張し融合した未来社会を感性豊かに創造できる研究者および高度専門職業人を育成する。

設置
の
理
由

デザイン・アート学研究科は、総合大学である本学がデザインやアートの領域を教育研究の対象とし、未来社会を感性豊かに創造する人材を育成するとともに、アートの感性と技術を基盤に自然科学と人文・社会科学を横断した研究領域を開拓し、新たなデザイン学を追求することを目的として設置するものです。

学
び
の
特
徴

「デザインストラテジー」「アートディレクション」を中心に学ぶ「1年制」コースも設置(主に社会人対象)

研究指導を受けながら研究論文の完成に向けた活動に取り組む「研究指導科目」、デザイン・アートに関する研究領域に特化した研究方法論やリサーチ手法、アカデミックライティングなどを中心的に学ぶ「新領域デザイン・アート学基盤科目群」、これら研究実践と方法論・手法との緊密な連携を支える「理論」と「技能」を学ぶ「新領域デザイン・アートランゲージ科目群」の3つの区分を設定する。

【研究指導科目】

この科目は、研究指導資格を有した教員による複数指導体制によって運用され、デザイン・アートの新たな領域における研究能力を開拓し深化させることを目的とし、テクノロジーの進化、社会的な変化、文化や国際情勢の変容、地球環境の変化などに応じた新たなデザイン・アート領域における最新のトピックや研究動向について、文献レビューやケーススタディを通じて、理論的なフレームワークと研究手法・アプローチを探究することで、研究のためのプロジェクトテーマと研究実践計画を構想する。

【新領域デザイン・アート学基盤科目群】

この科目群は、デザイン・アートの新たな領域における最新の研究および実践について、研究者および社会実践者の取り組みのケーススタディを通して、社会背景、背景理論、概念、課題設定、アプローチ、方法論的特性、技術、関係者のネットワーク・コラボレーション、貢献の範囲などの観点から分析・理解することで、課題研究において独自の研究テーマとそのアプローチを設定するための鍵を見つける。また、アカデミックな文書の基本構造(先行研究の批判的検討、課題導出、調査計画の作成、調査実施、データ分析、結論の導出)や基本原則(存在論・認識論に基づいた方法論の選択、パラグラフ・ライティング、図・表の表現、適切な引用方法など)について、研究論文に応用できるスキルを涵養する。

【新領域デザイン・アートランゲージ科目群】

この科目群は、「理論」と「技能」に区分され、「理論」では、本研究科の研究対象とする中心的な学問分野である「デザイン・アート学」にアプローチするための4領域:意味・情報・環境・社会の視座から学び、「技能」では、アートの視座からデジタル造形表現やフィジカル造形表現を学ぶことに加え、理系視座・文系視座の双方からデザイン・アートに関わる実践の評価法について学ぶ。

アド
ミッ
シ
ョ
ン
ポ
リ
シ
ー

「知識・技能」

美的感性に裏打ちされた「問題解決力」「問い直し力」「共創力」「問題発見力」「創造的思考力」を総合的に発揮し、フィジカルとデジタルの両面におけるデザイン・アートに関わる諸分野の専門知識と専門技能を自分の研究・制作において戦略的に活用するための、基礎知識と基礎技能を有している者。

「思考力・判断力、表現力等の能力」

美的感性に裏打ちされた「問題解決力」「問い直し力」「共創力」「問題発見力」「創造的思考力」を総合的に発揮するために、創造的で柔軟な感性に基づいた意思決定や行動によって、多様な社会や組織においてリーダーシップを発揮する意欲と能力を持つ者。

「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」

美的感性に裏打ちされた「問題解決力」「問い直し力」「共創力」「問題発見力」「創造的思考力」を総合的に発揮し、国内外の他者との協働とその省察を通じた社会実践活動を通して、デザイン・アート領域における新たな問題を汲み上げ、新しい研究領域を開拓するための努力を惜しまない者。

上記内容は構想中の内容であり、今後変更となる場合があります。

■JR・近鉄京都駅から衣笠キャンパス

市バス50にて42分、市バス・JRバス「快速立命館」にて36分、「立命館大学前(終点)」下車
市バス205にて38分、「衣笠校前」下車、徒歩10分
JRバス「高尾・京北線」にて30分、「立命館大学前」下車

■JR円町駅から衣笠キャンパス

市バス・JRバス「快速立命館」にて8分、「立命館大学前(終点)」下車
市バス15にて10分、「臨」にて9分、「立命館大学前(終点)」下車
市バス204/205にて5分、「衣笠校前」下車、徒歩10分
JRバス「高尾・京北線」にて8分、「立命館大学前」下車

■阪急電車西院駅から衣笠キャンパス

市バス・JRバス「快速立命館」にて15分、「臨」にて17分、「立命館大学前(終点)」下車
市バス205にて13分、「衣笠校前」下車、徒歩10分

■京阪電車三条駅から衣笠キャンパス

市バス12にて53分、市バス15にて34分、市バス51にて36分、「立命館大学前(終点)」下車
市バス59にて40分、「立命館大学前」下車



ア
ク
セ
ス

初年度学費(他大学を含む)

大学・学部・学科名	初年度納付金(入学金・授業料等の合計)
立命館大学デザイン・アート学研究科デザイン・アート学専攻	【2年制】入学金200,000+授業料911,600=1,111,600円(程度を予定)
	【1年制】入学金200,000+授業料1,723,200=1,923,200円(程度を予定)
武蔵野美術大学造形構想研究科造形構想専攻	1,778,000円
多摩美術大学美術研究科デザイン専攻	1,759,000円
慶應義塾大学メディアデザイン研究科	1,982,600円
慶應義塾大学システムデザイン・マネジメント研究科	1,982,600円
京都芸術大学芸術研究科芸術専攻	1,640,000円

※ 立命館大学デザイン・アート学研究科デザイン・アート学専攻の学費は予定のものです。

※ 他大学の学費は各大学ホームページ掲載情報に基づきます(2024年10月時点)。

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料 25 (100 ページ)

1. 書類等の題名

2024 年卒企業新卒採用予定調査

2. 出典

マイナビ

3. 引用範囲

https://career-research.mynavi.jp/research/20230224_45586

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料 26 (101 ページ)

1. 書類等の題名

教育未来創造会議 論点整理 (案)

2. 出典

内閣官房

3. 引用範囲

<https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/dai2/siryou1-2.pdf>

(1 ページ)

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料 27 (102 ページ)

1. 書類等の題名

理工系人材需給状況に関する 調査結果概要

2. 出典

経済産業省 産業技術環境局 大学連携推進室

3. 引用範囲

https://www.meti.go.jp/policy/innovation_corp/jinzai/1-3_rikoukeijinzai_chousakekka.pdf (13 ページ)

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料 28 (103 ページ)

1. 書類等の題名

我が国の未来をけん引する 大学等と社会の在り方について (第一次提言) 概要

2. 出典

内閣官房

3. 引用範囲

<https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/dai3/siryoul-1.pdf> (1 ページ)

立命館大学

デザイン・アート学部 デザイン・アート学科（仮称）

デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻（仮称）

設置構想についての人材需要アンケート調査

報告書

令和7年2月

株式会社高等教育総合研究所

目次

1. 人材需要アンケート調査 概要	2
2. 人材需要アンケート調査 集計結果	3
3. 人材需要アンケート調査 結果の要点.....	11

(添付資料)

人材需要アンケート調査用紙.....	13
「デザイン・アート学部 デザイン・アート学科（仮称）」概要	15
デザイン・アート学部 デザイン・アート学科（仮称）およびデザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻（仮称）リーフレット.....	17

1.人材需要アンケート調査概要

調査目的	令和8年(2026年)度に立命館大学が構想中の「デザイン・アート学部 デザイン・アート学科(仮称)」(入学定員:180名)、および「デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻(仮称)」(入学定員:20名)の設置における卒業・修了後の採用・就職(人材需要)の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	[調査対象] 東証スタンダードまたは東証プライム上場企業から 前述の学部・研究科が育成する人材像に適した業種 [業種] 製造業、卸売業、小売業、建築業、IT関連業等 [調査地域] 首都圏を中心とした全国 [依頼件数] 3,226件
調査内容	・回答対象先の基本情報(業種・所在地・従業員/職員規模) ・立命館大学「デザイン・アート学部 デザイン・アート学科(仮称)」 「デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻(仮称)」卒業生・修了生の人材ニーズ ・立命館大学「デザイン・アート学部 デザイン・アート学科(仮称)」 「デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻(仮称)」卒業生・修了生の採用意向
調査時期	令和6年11月~令和7年1月
調査方法	調査対象事業所に対しアンケートを郵送し依頼することにより実施 (紙方式・web方式での回答方法を案内し、いずれかで回答を依頼)
回収件数	有効回答数 365件(回収率 11.31%)

2.人材需要アンケート調査 集計結果

※「構成比」 (%) はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

問1 貴社の本社または貴団体の本部所在地について、お答えください。

選択肢	回答数	回答割合	選択肢	回答数	回答割合
北海道	4	1.1%	滋賀県	1	0.3%
青森県	0	0.0%	京都府	10	2.7%
岩手県	0	0.0%	大阪府	61	16.7%
宮城県	1	0.3%	兵庫県	14	3.8%
秋田県	1	0.3%	奈良県	0	0.0%
山形県	1	0.3%	和歌山県	1	0.3%
福島県	0	0.0%	鳥取県	1	0.3%
茨城県	0	0.0%	島根県	0	0.0%
栃木県	3	0.8%	岡山県	2	0.5%
群馬県	2	0.5%	広島県	7	1.9%
埼玉県	9	2.5%	山口県	0	0.0%
千葉県	4	1.1%	徳島県	1	0.3%
東京都	142	38.9%	香川県	3	0.8%
神奈川県	20	5.5%	愛媛県	1	0.3%
新潟県	5	1.4%	高知県	0	0.0%
富山県	3	0.8%	福岡県	7	1.9%
石川県	6	1.6%	佐賀県	0	0.0%
福井県	1	0.3%	長崎県	0	0.0%
山梨県	0	0.0%	熊本県	0	0.0%
長野県	5	1.4%	大分県	1	0.3%
岐阜県	3	0.8%	宮崎県	1	0.3%
静岡県	8	2.2%	鹿児島県	0	0.0%
愛知県	32	8.8%	沖縄県	0	0.0%
三重県	1	0.3%	無回答	3	0.0%
			合計	365	100.0%

問2 貴社・貴団体の業種（主な事業内容）として、最もあてはまるものをお選びください。（あてはまるもの1つ）

選択肢	回答数	回答割合
農・林・漁・鉱業	1	0.3%
建設業	40	11.0%
電気・ガス・熱供給・水道業	2	0.5%
製造業	117	32.1%
通信業	7	1.9%
IT 関連業	39	10.7%
放送、新聞、出版業	0	0.0%
運輸業、郵便業	8	2.2%
金融業（銀行・信託・証券・貸金）	14	3.8%
保険業	1	0.3%
学術研究、専門・技術サービス	7	1.9%
卸売業、小売業	69	18.9%
不動産業、物品賃貸業	12	3.3%
旅行業	1	0.3%
宿泊業、飲食サービス業	12	3.3%
教育・学習支援業	3	0.8%
生活関連サービス業、娯楽業	2	0.5%
医療	3	0.8%
福祉	3	0.8%
その他サービス業	16	4.4%
国家公務	0	0.0%
地方公務	0	0.0%
非営利団体	0	0.0%
その他	4	1.1%
無回答	4	1.1%
合計	365	100.0%

問3 貴社・貴団体の従業員数について、ご回答ください。

選択肢	回答数	回答割合
20名未満	2	0.5%
20名～100名未満	5	1.4%
100名～300名未満	54	14.8%
300名～1,000名未満	132	36.2%
1,000名以上	169	46.3%
無回答	3	0.8%
合計	365	100.0%

問4 立命館大学が設置構想中の「デザイン・アート学部 デザイン・アート学科（仮称）」が養成する人材についての社会ニーズについてお答えください。（あてはまるもの1つ）

選択肢	回答数	回答割合
ニーズは高い	79	21.6%
ニーズはある程度高い	191	52.3%
ニーズはあまりない	34	9.3%
ニーズはない	2	0.5%
わからない	55	15.1%
無回答	4	1.1%
合計	365	100.0%

問5 立命館大学が設置構想中の「デザイン・アート学部 デザイン・アート学科（仮称）」が養成する人材について採用したいと思われますか。（あてはまるもの1つ）

選択肢	回答数	回答割合
採用したい	199	54.5%
採用しない	9	2.5%
わからない	154	42.2%
無回答	3	0.8%
合計	365	100.0%

問6 問5で「採用したい」とされた場合、単年度で採用可能な人数をお答えください。

選択肢	回答数	回答割合
1人	51	25.6%
2人	20	10.1%
3人	10	5.0%
4人	2	1.0%
5人以上	14	7.0%
人数は未定だが、最低1人	100	50.3%
無回答	2	1.0%
合計	199	100.0%

問7 立命館大学大学院が設置構想中の「デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻（仮称）」が養成する人材についての社会ニーズについてお答えください。（あてはまるもの1つ）

選択肢	回答数	回答割合
ニーズは高い	72	19.7%
ニーズはある程度高い	196	53.7%
ニーズはあまりない	32	8.8%
ニーズはない	2	0.5%
わからない	63	17.3%
無回答	0	0.0%
合計	365	100.0%

問8 立命館大学大学院が設置構想中の「デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻（仮称）」が養成する人材について採用したいと思われますか。（あてはまるもの1つ）

選択肢	回答数	回答割合
採用したい	183	50.1%
採用しない	16	4.4%
わからない	163	44.7%
無回答	3	0.8%
合計	365	100.0%

問9 問8で「採用したい」とされた場合、単年度で採用可能な人数をお答えください。

選択肢	回答数	回答割合
1人	51	27.9%
2人	15	8.2%
3人	6	3.3%
4人	2	1.1%
5人以上	15	8.2%
人数は未定だが、最低1人	94	51.4%
無回答	0	0.0%
合計	183	100.0%

※立命館大学が設置構想中の「デザイン・アート学部 デザイン・アート学科（仮称）」について期待される点、ご要望がありましたらご自由にご記入ください。

番号	回答
1	CAD を利用し設計などを学ぶこと
2	弊社事業内容として、デザインは少し関連がありますがアートはあまり関連がないため上記のような回答とさせていただきますが、クリエイティブな分野に長けた学生様にご活躍いただけることを楽しみにしております。
3	多角的にものごとをみることでできる人に成長する印象を受けました。お会いできることがとても楽しみです。
4	商品のデザインや販促 POP のデザインなど
5	IT 技術（情報、AI、人工知能、機械学習）の学びなど、当社で活かすことができる
6	現在のところ当社ではデザイン・アートに関する職種がありませんが第 1 期生が卒業される時期に職制としてデザインに関する職制があればぜひ採用したいと思います。
7	デザイナー職採用はございませんが、営業職として商品の訴求に活かせる力（販促物関連）を期待したいです
8	幹部候補としての入社を期待する
9	デザイン・アート学部として、アートの感性と技術を基盤に多様性が豊かになる社会における諸問題を解決していく教育をしていただきたいと考える。
10	コミュニケーション能力、言語化能力、妥協することもたまには必要...といった、社会的スキル
11	CAD などが使える人材
12	様々な学科をデザインとしていて、実際のヴィジュアルデザインだけなのが斬新だと思いました。印刷会社にはどの学科、専攻も活かせると感じましたので、是非卒業生をお待ちしています。
13	文系（美術系）院卒は採りにくいのが企業人事の本音だと思います。 京都の他美大との比較、差別化ポイントが知りたいです。 広告プロモーションイベントのプロデューサー職を採用しているため、大学の講義で社員からお話しさせていただくことは可能ですので、ご相談いただけますと幸いです。
14	・「デザイン」という単語が持つ意味や印象が非常に幅広く、様々な業界や領域において、重要なファクターや事象を顕すことが多い現代社会においては、関連するスキルや経験値を持つ人材のニーズについて、今後間違いなく増加傾向にあるものと感じています。 ・「理念」や「学びの特徴」といった内容について、幾分、抽象的・概念的な表現が多く、少々分かり難いような印象も受けました。期待される成果や目的、研究対象となる範囲やレイヤ、具体的なキャリア構想、等のイメージが掴めるような、補助的なアウトプットがもう少しあれば、理解が進み、より訴求が成されるのではないかと感じました。
15	弊社のようなコンクリート二次製品メーカーの場合どのようなようになるのか。営業職や工場の製造工程管理職で従事できるのか
16	地方創生分野でも活躍できる人材が育てられると嬉しい。
17	広報や SNS マーケティングの知識も豊富な方だと非常にご活躍いただけると思います。
18	単なるデザイン学ではなく組織や社会の課題解決につながる点を期待しています

	採用面だけで評価するのであれば、当社内では以下のポジションでの活躍を期待できます
19	<p>①EIZO 本社の国内営業業務、販売促進業務 →文系学生が中心。デザインアートでの学びが直接的に作用するわけではないが、映像制作やカメラマン向け製品も扱っているため、芸術分野への興味関心との親和性は高い。</p> <p>・アイレムソフトウェアエンジニアリング(EIZO グループ)におけるデザイナー業務 →パチンコ/パチスロの映像制作や、ゲーム開発を行うグループ会社。美術系学生(デジタル)が中心。</p>
20	デザイン思考と経済活動の結びつきについて具体的なイメージがわからず、期待、要望がわからない。(何となくデザイン思考は必要な気がしています)
21	弊社では自ら考えたことを形にするために行動することを推奨しているので、主体的に学ぶ力を伸ばせる学科を期待しています。
22	小売業の当社は、マネジメントが出来る「地頭力」を優先して採用しているので、現段階では回答しかねる
23	一年生のうちから、専門以外の就職知見を広げてあげてください。
24	企業のブランディングにはクリエイティブな考え方や時代に沿った情報発信が必要だと考えます。このような課題に対して解決策を提示できる人材の育成を期待します。
25	デザイン本来の意義を正しく探求し、多様化する社会の中でも確固たる信念のもと自分のデザインを追求できる人材の育成が求められると考えます。
26	この欄に記載する内容ではないかもしれませんが、弊社では主に営業職を募集する形になり、学生側がデザイン系の学部学科を出て弊社に入社を望むか不明だったため、わからないと回答させていただきました。
27	人口減少が続く中で、様々なマーケットも縮小していくことが想定される。その分外国人が増え、今後の日本文化も変わっていくと思われる。その中でデザインやアートはどのような変遷を見せるのか大変興味がある。
28	製造業においては力を発揮できるのは限られた部署となりますが、他の業界からのニーズはすごく高いと思います。技術のみだけでなく、感性が高い学生は、様々な分野で社会で活躍出来ると思いますので、そこを磨いていただけると良いと思います。
29	アートを通して独自性や様々な観点から物事を見る感性を磨くことで、社会に出た時に柔軟性や企画力として生かされると良いなと感じました。
30	グループウエスコの都市計画部門への興味関心、および関連した学問を履修している学生は会社のニーズがあります。
31	1つの事業に対して多角的な視点で考察のできる人材の養成をされることを期待しており、大変に興味深い学域であると印象を受けた次第です。
32	アパレル商社ですので、企業デザイナーとして幅広く活躍できるのではないかと感じております
33	現在当社に貴学の出身者はいませんが、専攻に参加される学生は年に数名ほどいらっしゃいます。やはり、基本的な学力、知識には申し分ないという方がほとんどで、新学部においても運営のために間口を広げるあまりに学生のレベルが下がってしまうということは、あってはならないと思います。
34	グループ実習、コミュニケーション力
35	グローバル人材の育成
36	ホテル業はセンスや感性も大切なため、バランスが取れているようでしたら積極的に採用いたします。
37	未来志向の新たなデザインという点ではニーズはあると思うが、そこにアートが掛け合わせると、どうなるかが読めない。

38	・創造性 ・建築、メニューブック、店内装飾、SNS の広告デザインに対する能力発揮
39	広告や教材作成にて、人数は限られますが、クリエイターのニーズがございます。もし、興味をもっていただける学生がおりましたら、採用は前向きに検討したいと考えております。
40	問題発見力、解決力のある人材の採用ニーズが高いと感じました。
41	企業における様々なデザインについて任せられるような学生様を輩出していただきたいです。
42	現在、募集の予定はございませんが、将来的に WEB 広告などの作成が可能な人材を採用する可能性がございます。

3.人材需要アンケート調査結果の要点

デザイン・アート学部 デザイン・アート学科（仮称）

立命館大学「デザイン・アート学部 デザイン・アート学科（仮称）」で養成する人材のニーズについては「ニーズは高い」79箇所（21.6%）、「ニーズはある程度高い」191箇所（52.3%）で合計すると270箇所（74.0%）がそのニーズの高さを認める結果となった。

また、199箇所（54.5%）が採用意向を示し、その上での採用可能人数（単年度）合計は予定する入学定員180名の1.7倍となる299人であった。

問4 養成する人材の社会ニーズ

人材ニーズは高い・ある程度高い	270 事業所	74.0%
人材ニーズはない・あまりない・わからない・無回答	95 事業所	26.0%
合計	365 事業所	100.0%

問5 卒業生の採用意向

採用したい	199 事業所	54.5%
採用しない・わからない・無回答	166 事業所	45.5%
合計	365 事業所	100.0%

問9 単年度の採用可能人数

	1人	2人	3人	4人	5人以上	人数は未定だが、最低1人	無回答	合計
「採用したい」の回答数	51	20	10	2	14	100	2	199
採用可能人数計 (回答数×採用可能人数)	51人	40人	30人	8人	70人	100人	0人	299人

※「5人以上」は5人として計算した。

※「人数は未定だが、最低1人」は1人として計算した。

※採用可能人数へ無回答の場合は集計から除外した。

デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻（仮称）

立命館大学院「デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻（仮称）」で養成する人材のニーズについては「ニーズは高い」72箇所（19.7%）、「ニーズはある程度高い」196箇所（53.7%）で合計すると268箇所（73.4%）がそのニーズの高さを認める結果となった。

また、183箇所（50.1%）が採用意向を示し、その上での採用可能人数（単年度）合計は予定する入学定員20名の13.8倍となる276人であった。

問7 養成する人材の社会ニーズ

人材ニーズは高い・ある程度高い	268 事業所	73.4%
人材ニーズはない・あまりない・わからない・無回答	97 事業所	26.6%
合計	365 事業所	100.0%

問8 卒業生の採用意向

採用したい	183 事業所	50.1%
採用しない・わからない・無回答	182 事業所	49.9%
合計	365 事業所	100.0%

問9 単年度の採用可能人数

	1人	2人	3人	4人	5人以上	人数は未定だが、最低1人	無回答	合計
「採用したい」の回答数	51	15	6	2	15	94	0	183
採用可能人数計 (回答数×採用可能人数)	51人	30人	18人	8人	75人	94人	0人	276人

※「5人以上」は5人として計算した。

※「人数は未定だが、最低1人」は1人として計算した。

※採用可能人数へ無回答の場合は集計から除外した。

**立命館大学「デザイン・アート学部 デザイン・アート学科（仮称）」および
「デザイン・アート学研究所 デザイン・アート学専攻（仮称）」
設置構想についての人材需要アンケート**

立命館大学では、2026年4月開設に向けて、「デザイン・アート学部 デザイン・アート学科（仮称）」、立命館大学大学院では「デザイン・アート学研究所 デザイン・アート学専攻（仮称）」を設置構想中です。歴史都市京都にある総合大学において、アートの感性と技術を基盤に自然科学と人文・社会科学領域を横断した未来志向の新たなデザインを追究する教育研究を展開することを目的として設置するものです。別紙リーフレット等の資料にて、学部等概要をご案内申し上げますのでご高覧いただけますと幸いです。

つきましては、採用意向に関する調査にご協力をお願いいたします。なお、調査結果につきましては、本構想の文部科学省への申請に係る統計資料のみに使用することとし、他に転用することは一切致しません。

※このアンケート調査は立命館大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

※本アンケートおよびリーフレットに記載されている内容については予定であり、変更される可能性があります。

記入要領	1. 回答は 所定の欄を塗りつぶしてください 。 2. この用紙は電算処理しますので汚さないようにしてください。 3. 記入は必ず 鉛筆及びシャープペンシル で濃く書いてください。	【記入例】 <input checked="" type="radio"/> 北海道 <input type="radio"/> 茨城県
-------------	--	--

問1 貴社の本社または貴団体の本部所在地について、お答えください。（あてはまるもの1つ）

- | | | | | | | |
|---------------------------|----------------------------|---------------------------|----------------------------|---------------------------|---------------------------|----------------------------|
| <input type="radio"/> 北海道 | <input type="radio"/> 青森県 | <input type="radio"/> 岩手県 | <input type="radio"/> 宮城県 | <input type="radio"/> 秋田県 | <input type="radio"/> 山形県 | <input type="radio"/> 福島県 |
| <input type="radio"/> 茨城県 | <input type="radio"/> 栃木県 | <input type="radio"/> 群馬県 | <input type="radio"/> 埼玉県 | <input type="radio"/> 千葉県 | <input type="radio"/> 東京都 | <input type="radio"/> 神奈川県 |
| <input type="radio"/> 新潟県 | <input type="radio"/> 富山県 | <input type="radio"/> 石川県 | <input type="radio"/> 福井県 | <input type="radio"/> 山梨県 | <input type="radio"/> 長野県 | <input type="radio"/> 岐阜県 |
| <input type="radio"/> 静岡県 | <input type="radio"/> 愛知県 | <input type="radio"/> 三重県 | <input type="radio"/> 滋賀県 | <input type="radio"/> 京都府 | <input type="radio"/> 大阪府 | <input type="radio"/> 兵庫県 |
| <input type="radio"/> 奈良県 | <input type="radio"/> 和歌山県 | <input type="radio"/> 鳥取県 | <input type="radio"/> 島根県 | <input type="radio"/> 岡山県 | <input type="radio"/> 広島県 | <input type="radio"/> 山口県 |
| <input type="radio"/> 徳島県 | <input type="radio"/> 香川県 | <input type="radio"/> 愛媛県 | <input type="radio"/> 高知県 | <input type="radio"/> 福岡県 | <input type="radio"/> 佐賀県 | <input type="radio"/> 長崎県 |
| <input type="radio"/> 熊本県 | <input type="radio"/> 大分県 | <input type="radio"/> 宮崎県 | <input type="radio"/> 鹿児島県 | <input type="radio"/> 沖縄県 | | |

問2 貴社・貴団体の業種（主な事業内容）として、最もあてはまるものをお選びください。（あてはまるもの1つ）

- | | | | |
|--|-----------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|
| <input type="radio"/> 農業、林業、漁業、鉱業 | <input type="radio"/> 建設業 | <input type="radio"/> 電気、ガス、熱供給、水道業 | <input type="radio"/> 製造業 |
| <input type="radio"/> 通信業 | <input type="radio"/> IT関連業 | <input type="radio"/> 放送、新聞、出版業 | <input type="radio"/> 運輸業、郵便業 |
| <input type="radio"/> 金融業（銀行・信託・証券・貸金） | <input type="radio"/> 保険業 | <input type="radio"/> 学術研究、専門・技術サービス | <input type="radio"/> 卸売業、小売業 |
| <input type="radio"/> 不動産業、物品賃貸業 | <input type="radio"/> 旅行業 | <input type="radio"/> 宿泊業、飲食サービス業 | <input type="radio"/> 教育・学習支援業 |
| <input type="radio"/> 生活関連サービス業、娯楽業 | <input type="radio"/> 医療 | <input type="radio"/> 福祉 | <input type="radio"/> その他サービス業 |
| <input type="radio"/> 国家公務 | <input type="radio"/> 地方公務 | <input type="radio"/> 非営利団体 | <input type="radio"/> その他 |

問3 貴社・貴団体の従業員・職員規模として、最もあてはまるものをお選びください。（あてはまるもの1つ）

- | | | |
|--------------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------|
| <input type="radio"/> 20名未満 | <input type="radio"/> 20名以上100名未満 | <input type="radio"/> 100名以上300名未満 |
| <input type="radio"/> 300名以上1,000名未満 | <input type="radio"/> 1,000名以上 | |

ここからは別添の立命館大学が設置構想中の「デザイン・アート学部 デザイン・アート学科（仮称）」
および「デザイン・アート学研究所 デザイン・アート学専攻（仮称）」の
「リーフレット」および「概要資料」をご確認いただき、ご回答をお願いいたします。

⇒ 裏面に続く

◆デザイン・アート学部 デザイン・アート学科 (仮称) についてお聞きします。

問4 立命館大学が設置構想中の「デザイン・アート学部 デザイン・アート学科 (仮称)」が養成する人材についての社会ニーズについてお答えください。(あてはまるもの1つ)

- ニーズは高い ニーズはある程度高い ニーズはあまりない
 ニーズはない わからない

問5 立命館大学が設置構想中の「デザイン・アート学部 デザイン・アート学科 (仮称)」が養成する人材について採用したいと思われますか。(あてはまるもの1つ)

- ①採用したい ②採用しない ③わからない

問6 問5で「①採用したい」とされた場合、単年度で採用可能な人数をお答えください。

- 1人 2人 3人
 4人 5人以上 人数は未確定だが、最低1人

◆デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻 (仮称) についてお聞きします。

問7 立命館大学大学院が設置構想中の「デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻 (仮称)」が養成する人材についての社会ニーズについてお答えください。(あてはまるもの1つ)

- ニーズは高い ニーズはある程度高い ニーズはあまりない
 ニーズはない わからない

問8 立命館大学大学院が設置構想中の「デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻 (仮称)」が養成する人材について採用したいと思われますか。(あてはまるもの1つ)

- ①採用したい ②採用しない ③わからない

問9 問8で「①採用したい」とされた場合、単年度で採用可能な人数をお答えください。

- 1人 2人 3人
 4人 5人以上 人数は未確定だが、最低1人

※ 立命館大学が設置構想中の「デザイン・アート学部 デザイン・アート学科 (仮称)」および「デザイン・アート学研究科 デザイン・アート学専攻 (仮称)」について期待される点、ご要望がありましたらご自由にご記入ください。

※宜しければ貴社名をお教えてください。こちらは、どの企業にご返送いただいたかを把握するための質問であり、アンケートの回答は統計的に処理され、特定の企業・団体が識別できる情報として公表されることはございません。(ゴム印の押印でも問題ございません)

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

立命館大学

デザイン・アート学部 デザイン・アート学科 仮称 設置構想中

学部の概要

所在地：立命館大学 衣笠キャンパス(〒603-8577 京都府京都市北区等持院北町56-1)
入学定員 180名(収容定員:720名) ※2026年度予定
修業年限：4年
取得学位：学士(デザイン・アート)
養成する人材：デザイン・アート学部は、美的感性に裏打ちされた「問題解決力」「問い直し力」「共創力」「問題発見力」「創造的思考力」を総合的に身につけながら、職域を問わず、創造性に満ちた文化的生活や社会生活様式、あるべき未来社会像を具現化できる人材を育成します。

設置の理念

歴史都市京都にある総合大学において、アートの感性と技術を基盤に自然科学と人文・社会科学領域を横断した未来志向の新たなデザイン学を追究する教育研究を展開することを目的として設置するものです。

学びの特徴

社会実践プロジェクトを通じた文理融合、分野横断のカリキュラム。

デザイン・アート学部のカリキュラムには、アクティブラーニングの構成要素である「主体的な・対話的な・深い学び」が以下の科目群からなるカリキュラム構造に埋め込まれており、カリキュラムレベルでアクティブラーニングを実現します。自身の関心や志向性に基づき、「意味デザイン」「社会デザイン」「環境デザイン」「情報デザイン」の4領域に関する「知識」や「技能」を学びつつ、プロジェクト型あるいは課題探究型の協働学習を通じて相互補完や役割分担を経験することにより、文理融合、分野横断となる学修を実体化させます。

Design Studies [DS] 科目群

この科目群は、他者との協働において生成するプロセスへの参画を通じて「経験したこと」に対して、自分自身がどのように「意味づけ」していくか、その考え方や方法について学ぶことを目的としています。さまざまなモノやコトの生成について、ケーススタディから自分が参画したプロジェクトへの意味づけ(モノコトの概念化)を深く広く行えるようになることを目指します。

Design in Society [DiS] 科目群

この科目群は、他者との協働において「生成するプロセス」への参画を通じて、デザイン・アートの実践知を修得することを目的としています。ここで社会実践に参画し、多様な社会実践者との協働によって身につけられる社会的スキルは、職域を問わず多様な社会や組織で活躍するためのキャリア形成につながるものとなります。

Design Language [DL] 科目群

デザイン・アートに関わるさまざまな「知識」や「技能」を、協働における他者とのコミュニケーションのための「言語(ランゲージ)」と捉えた上で、「知識群(Knowledge)」「技能群(Skill)」に区分した科目配置を行っています。この科目群に置かれた「知識」と「技能」を身につけていくことで、さまざまな他者との協働を円滑に、効果的に実践していくことが可能となります。

まち・社会全体がラーニングプレイス。

多様な社会での学びの場を高次元に構築するために、大学キャンパスを超え、京都、日本国内外の社会との連携。さらに、オンライン・オンデマンド・バーチャル空間などを利用したバーチャルキャンパス、バーチャルコミュニティ、バーチャル授業を導入し、柔軟に学生間や教員と学生間の共同作業やコミュニティ形成のプラットフォームを構築します。

アドミッションポリシー (入学者受け入れ方針)

「知識・技能」

美的感性に裏打ちされた「問題解決力」「問い直し力」「共創力」「問題発見力」「創造的思考力」を総合的に発揮し、フィジカルとデジタルに跨るデザイン・アートに関わる知識と技能を身につけるために、高等学校卒業相当の基礎学力を有している者。

「思考力・判断力、表現力等の能力」

美的感性に裏打ちされた「問題解決力」「問い直し力」「共創力」「問題発見力」「創造的思考力」を総合的に発揮するために、デザイン・アートに関わる知識と技能に基づく思考・意思決定・行動の実践に励む意欲を持つ者。

「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」

美的感性に裏打ちされた「問題解決力」「問い直し力」「共創力」「問題発見力」「創造的思考力」を総合的に発揮して、豊かな文化・生活世界の新たな形成理念を構想し、国内外の他者との協働においてそれを具現化するための努力を惜しまない者。

■JR・近鉄京都駅から衣笠キャンパス

市バス50にて42分、市バス・JRバス「快速立命館」にて36分、「立命館大学前(終点)」下車
市バス205にて38分、「衣笠校前」下車、徒歩10分
JRバス「高尾・京北線」にて30分、「立命館大学前」下車

■JR円町駅から衣笠キャンパス

市バス・JRバス「快速立命館」にて8分、「立命館大学前(終点)」下車
市バス15にて10分、「臨」にて9分、「立命館大学前(終点)」下車
市バス204/205にて5分、「衣笠校前」下車、徒歩10分
JRバス「高尾・京北線」にて8分、「立命館大学前」下車

■阪急電車西院駅から衣笠キャンパス

市バス・JRバス「快速立命館」にて15分、「臨」にて17分、「立命館大学前(終点)」下車
市バス205にて13分、「衣笠校前」下車、徒歩10分

■京阪電車三条駅から衣笠キャンパス

市バス12にて53分、市バス15にて34分、市バス51にて36分、「立命館大学前(終点)」下車
市バス59にて40分、「立命館大学前」下車



ア
ク
セ
ス

初年度学費(他大学をきむ)

大学・学部・学科名	初年度納付金(入学金・授業料等の合計)
立命館大学 デザイン・アート学部 デザイン・アート学科	1,900,000円程度を予定
武蔵野美術大学 造形構想学部 クリエイティブイノベーション学科	1,928,000円
多摩美術大学 美術学部 統合デザイン学科	1,965,000円
早稲田大学 創造理工学部 経営システム工学科・社会環境工学科	1,885,000円
法政大学 デザイン工学部 システムデザイン学科	1,824,000円
慶応義塾大学 SFC(総合政策学部 総合政策学科・環境情報学部 環境情報学科)	1,671,350円

※ 立命館大学デザイン・アート学部の学費は予定のものです。

※ 他大学の学費は各大学ホームページ掲載情報に基づきます(2024年7月時点)。

College of Arts & Design

R RITSUMEIKAN
UNIVERSITY

2026.4—
立命館大学 衣笠キャンパス

デザイン・アート学部(仮称) デザイン・アート学研究所(仮称) 設置構想中

※設置計画は、現在構想中であり、内容に変更が生じる可能性があります。

デザイン・アート学部/研究所の特色

歴史・文化都市「京都」に位置する衣笠キャンパスにおいて、未来志向の新たなデザイン学の追求とアートの技術・感性を基盤に自然科学と人文・社会科学領域を横断した教育・研究の展開を行います。

リアルだけでなく、オンライン・オンデマンド・バーチャル空間などを利用したバーチャルキャンパスなどを導入し、多様な社会に適したより柔軟で高次元の学びの環境を整備予定です。

美的感性に裏打ちされた、「問題解決力」「問い直し力」「共創力」「問題発見力」「創造的思考力」を総合的に身につけた、クリエイティブで柔軟な思考を涵養します。

デザイン・アートの現状と課題

現在、デザイン・アートを取り巻く状況には、以下のようなものが社会的課題として認識できます。

1—デザインの専門性の喪失

日本国内のデザインの歴史の変遷を見ると、デザインが多様な分野に拡張し、専門知が拡散しています。その結果、デザインの本来の意義が十分に理解されず、専門性が失われています。この事態を改善し、デザイン学を再構築する場が求められています。

2—デザイン思考におけるアートの観点の喪失

デザイン思考が普及する中で、デザインの「問題解決」の側面が過度に注目され、アートの観点が見落とされています。デザインとアートの関係を再評価し、再結合することが求められています。

3—デザインの定義の曖昧性

デザインの領域横断的な学際性が評価される一方で、応用分野ごとにデザインの定義が異なり、ミスコミュニケーションが発生しています。本学部では、各分野のデザインの意味を比較検討し、共通の意義を見出します。

4—日本の歴史と文化を踏まえたデザイン教育研究の不在

日本の歴史と文化を基にした独自のデザイン教育研究が不足しています。京都の文化資源を最大限に活用し、日本独自のデザイン教育を展開します。

5—デジタルネイティブのデザイン教育研究の不在

デジタル化の進展に伴い、デジタル環境に適応したデザイン教育研究が必要です。デジタル技術を駆使し、学生が自らの感性に基づいた表現や研究を行える環境を整備します。

本学部・研究科では、社会環境の変化とデザイン・アートの現状における5つの課題を踏まえ、アートの観点からデザインの位置づけを見直します。そして、空洞化しているデザイン学領域に責任を持ち、日本の歴史と文化を反映した独自の視点とデジタルネイティブのデザイン教育研究を推進します。これにより、世界的なデザイン・アートの拠点である京都で、専門家、研究者、高度専門職業人を育成します。この新しいデザイン学への進化は古いデザイン学を否定するのではなく、それに基づき、新たなデザイン学の領域からの融合によって生じます。本学部・研究科は、この進化を基に、総合大学としての特性を生かし、「総合大学だからこそできるデザイン・アートの知」の創造を目指します。

教育理念

デザイン・アート学部は、デザイン学を一つのディシプリンとして捉え、歴史都市京都にある総合大学が展開する未来志向の新たなデザイン学を追求しつつ、アートの感性と技術を基盤に自然科学と人文・社会科学領域を横断した教育・研究を展開することを目的として設置するものです。企業や地域社会との連携を重視し、豊かな文化・生活様式や未来への持続可能な社会の形成に関わる創造的な表現活動に取り組みます。

人材育成目的

デザイン・アート学部は、人工知能や仮想・複合現実などのデジタル情報技術の発展を背景に、人間本来の思考と創造性のあり方自体が問い直されるべき社会的要請に応えるために、本学園の根幹である「建学の精神」、「教学理念」、「立命館憲章」に則り、長い歴史と重厚な文化のもとで革新的な知が創出されてきた京都という都市において、フィジカルとデジタルに跨がる知の蓄積と循環機能を戦略基盤に持ち、他者との協働と省察による社会実践活動を通して、美的感性に裏打ちされた「問題解決力」「問い直し力」「共創力」「問題発見力」「創造的思考力」を総合的に身につけながら、職域を問わず多様な社会や組織において豊かな文化・生活世界の新たな形成理念を提案・創造することができる人材を育成します。

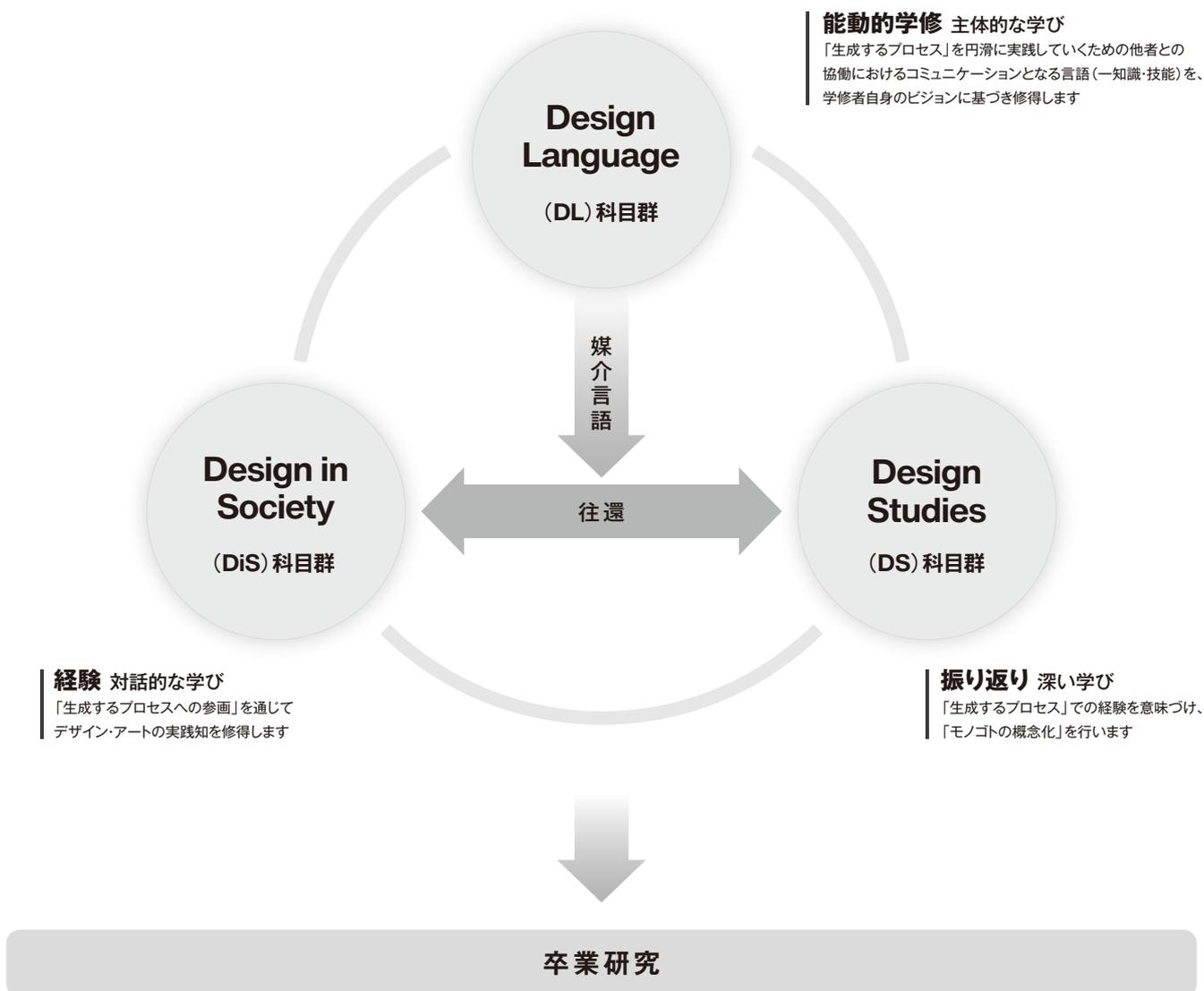
デザイン・アート学部における カリキュラムレベルでのアクティブラーニング

デザイン・アート学部のカリキュラムには、アクティブラーニングの構成要素である「主体的・対話的・深い学び」がその構造に埋め込まれており、カリキュラムレベルでアクティブラーニングを実現します。

デザイン・アート学部での学びは、常に学内外の他者との協働において生成するプロセスのなかにあります。

デザイン・アート学部では、「まち全体をラーニングプレイス」と捉え、大学の学びをキャンパスの外に広げた多様な社会での学びの場において、豊かな文化・生活様式や未来への持続可能な社会の形成に関わる創造的な表現活動に取り組みます。

この中核となるのが「Design in Society (DiS) 科目群」で実施されるプロジェクト実践型の授業形態でとなります。



デザイン・アート学部のカリキュラム

● Design in Society [DiS] 科目群

この科目群は2回生以上に配当され、他者との協働において「生成するプロセス」への参画を通じて、デザイン・アートの実践知を修得することを目的としています。

ここで社会実践に参画し、多様な社会実践者との協働によって身につけられる社会的スキルは、卒業後に職域を問わず多様な社会や組織において活躍するためのキャリア形成に資するものとなります。

「デザイン学生成成プロジェクト演習1・2」(2回生以上)

専門性の異なる複数の教員から考案されるデザイン・アートに関わる最新のテーマ・トピックに基づいたプロジェクトへ参画する。

「デザイン学総合研究1・2」(3回生以上)

教員の主要研究テーマに基づくプロジェクトへ参画する。

「卒業演習1・2」(4回生)

自身が興味を持つデザイン・アート領域に関わる新たな研究テーマを定め、それに基づいた卒業研究プロジェクトを構想し具現化する。

科目区分	1回生		2回生		3回生		4回生	
	1 Semester	2 Semester	3 Semester	4 Semester	5 Semester	6 Semester	7 Semester	8 Semester
Design in Society [DiS]			デザイン学生成成プロジェクト演習1	デザイン学生成成プロジェクト演習2	デザイン学総合研究1	デザイン学総合研究2	卒業演習1	卒業演習2

● Design Studies [DS] 科目群

この科目群は1回生以上に配当され、他者との協働において生成するプロセスへの参画を通して「経験したこと」に対して、自分自身がどのように「意味づけ」していくか、その考え方や方法について学ぶことを目的としています。

古今東西のさまざまなモノやコトの生成について、ケーススタディから自分が参画したプロジェクト(他者との協働において生成するプロセス)への意味づけ(モノゴトの概念化)を深く広く行えるようになることを目指します。

「デザイン学1・2」(1回生)

本学部でのデザイン・アートの学びを構成する4領域(「意味」「情報」「環境」「社会」)からそれぞれの理論的・実践的アプローチを学ぶ。

「デザイン学3A・3B・4」(2回生)

デザイン・アートに関わるさまざまな社会実践者の取り組み、および教員の研究実践から学ぶ。

「デザイン学5・6」(3回生)

デザイン・アートに関わる国内外での最新の社会実践事例から学び、議論し、意味づけをしていく。

科目区分	1回生		2回生		3回生		4回生	
	1 Semester	2 Semester	3 Semester	4 Semester	5 Semester	6 Semester	7 Semester	8 Semester
Design Studies [DS]	デザイン学1	デザイン学2	デザイン学3A	デザイン学3B デザイン学4	デザイン学5	デザイン学6		

●Design Language [DL] 科目群

デザイン・アートに関わるさまざまな「知識」や「技能」を、協働における他者とのコミュニケーションのための「言語(ランゲージ)」と捉えた上で、本科目群に配置された科目はさらに「知識群(Knowledge)」「技能群(Skill)」に区分され、各群の導入系科目を1回生以上に配当、専門系科目を2回生以上に配当しています。

この科目群に置かれた「知識」と「技能」を身につけていくことで、さまざまな他者との協働を円滑に、そして効果的に実践していくことが可能となることを目的としています。

デザイン・アートの学びを構成する4領野とアートの視点

意味デザイン

意味デザインは、人間による感性や知性に基づいた営みから生み出される有形無形の資源を蓄積し、それらに対して新たな「意味」や「表現」を付与し、人間社会に還元していくプロセスであり、ここでは、デザインされた文化的資源がさらに人間による文化的営みのなかでかたちを変え、それらが新たにデザインの対象となっていくサイクルが含まれる。

この分野においては、文化情報学、芸術学、文化財科学、博物館学などの知識を基盤とした方法論からデザイン学にアプローチする。

情報デザイン

人類史における様々な技術の発展は、情報の可視化、蓄積、伝達のかたちを変え、そのことを通じて情報自体が持つ意味の質や方向づけをも変えてきた。デザイン・アート学部が研究対象とする情報デザインは、感覚や認知の次元も含めてコミュニケーションを成り立たせている条件の総体に対して、新たな「かたち」や「機能」を与えることで、価値創造を目指すものである。

この分野においては、情報工学、電気・電子工学、感性工学、認知科学などの知識を基盤とした方法論からデザイン学にアプローチする。

環境デザイン

人間は自己を取り巻く環境を創り出す主体であると同時に、その認知や行動は環境からの大きな影響を受ける。この意味で人間とそれを取り巻くモノやそれによって構成される空間の関係は相互的なダイナミズムがある。デザイン・アート学部が研究対象とする環境デザインは、例えば、一つの部屋から都市や地域に至るまで、さまざまなスケールの「環境」に対して、このダイナミズムを可視化し、そこに創造的な介入をおこなっていくプロセスである。

この分野においては、建築・都市工学、地理学、地域社会学、生活科学などの知識を基盤とした方法論からデザイン学にアプローチする。

社会デザイン

社会デザインは、社会に流通・布置されているデザインされた人工物(製品・サービスや組織、制度を含む)の根底にある意味を対象に、それらに介在する全てのものの関係性を見直し、そこから得られる経験を再定義することで新たな価値創出を目指すプロセスである。その実践は、人工物が生み出された理念をはじめ、生成過程や、人的物的リソース、それらの営みの主体となる組織やコミュニケーション自体のデザインが含まれるが、そうした人工物が消費される生活や社会のあり方について、空間軸・時間軸をまたいだ洞察が必要となる。

この分野においては、経営学、社会学、文化人類学、史学などの知識を基盤とした方法論からデザイン学にアプローチする。

科目区分		1回生		2回生		3回生		4回生		
		1 Semester	2 Semester	3 Semester	4 Semester	5 Semester	6 Semester	7 Semester	8 Semester	
Design Language [DL]	英語 [E]	英語P1	英語P2	英語P3	英語P4					
	技能群 [S]	導入 I	デザイン・アート技能基礎 [DL-S-1-a] デザインリサーチ/デザインリサーチのためのアカデミック・ライティング/デジタルビジュアルデザイン基礎/Webデザイン基礎/アート・ドキュメンテーション/デザイン・アートのためのプログラミング/デザイン・アートのための製図 アート表現基礎 [DL-S-I-b] デジタルアート表現基礎(絵画)/デジタルアート表現基礎(立体造形)/フィジカルアート表現基礎(身体パフォーマンス)/フィジカルアート表現基礎(絵画)/フィジカルアート表現基礎(立体造形)							
		専門 M		デザインする/デザインされる意味 [DL-S-M-a] デザイン評価法/アート作品のデジタル分析技術実習/美術品・工芸品のデジタル化技術実習/工芸・美術・芸術の社会活用実習/デジタル文化資源の活用実習/パフォーマンス制作と記録/データベース構築実習/テキストマイニング デザインする/デザインされる情報 [DL-S-M-b] デザインとAI・人工知能・機械学習/デザインとバーチャルリアリティ/デザインのためのビッグデータ解析/Webアーカイブ技術/Webコンテンツ活用システム デジタルファブリケーション/コンピュータグラフィックス/サウンド処理/音響・音声アーカイブ デザインする/デザインされる環境 [DL-S-M-c] コミュニティデザイン/ヴィジュアルライゼーション/CAD/CG演習/実測演習/地域調査法/ランドスケープ・プランニング デザインする/デザインされる社会 [DL-S-M-d] デザインエスノグラフィー/サービスデザイン/アートマネジメント実習/ミュゼオロジー実習/グラフィックファシリテーション/ワークショップデザイン アート表現応用 [DL-S-M-e] デジタルアート表現応用(インスタレーション)/フィジカルアート表現応用(インスタレーション)						
	知識群 [K]	導入 I	デザイン・アート知識基礎 [DL-K-1-a] デザイン理論/グローバルデザイン論/デザイン態度論/デザイン・アートとビジュアルコミュニケーション/インダストリアルデザイン論/デジタルヒューマンティーズ概論/デザイン・アートとコンピュータ基礎/地域デザイン論/人間中心デザイン論/京都・伝統文化論/芸術批評論							
専門 M			デザインする/デザインされる意味 [DL-K-M-a] 視覚芸術表現論/デザインと人類学/芸能・演劇史/工芸・産業史/視覚文化・芸術史/身体表現論/音楽とデザイン/現代アート論 デザインする/デザインされる情報 [DL-K-M-b] デジタルメディアデザイン論/デザインと知覚/デザインとコンピュータ応用/デザインのための数理/デジタルアーカイブ概論/感性・認知情報処理論/メディア処理論/デザインと人間工学/デザインのためのデータマイニング デザインする/デザインされる環境 [DL-K-M-c] コ・デザイン論/都市デザイン/景観論/地理情報科学/建築意匠論/建築・インテリア空間設計論/日本庭園文化史/歴史まちづくり デザインする/デザインされる社会 [DL-K-M-d] 戦略的デザイン論/デザインとマーケティング/デザインと行政/デザインと知的財産権/デザインマネジメント論/アートマネジメント論/ミュゼオロジー/美術教育論 デザイン・アートと国際社会/デザイン・アートと世界史/デザイン・アートと歴史・考古学							

4年間の学びのステージ

初回生教育から卒業研究までを一貫して、学生が主体的に学びを展開できるように支援します。

特に、初回生教育では学生が自己の主体的な学び方を確立すること、DiS科目群では社会実践に参画すること、DS科目群では社会実践の経験を概念化すること、DL科目群では知識や技能を身につけることを方針とした科目を提供します。

学びのステージ	Design in Society [DiS] 科目群	Design Studies [DS] 科目群	Design Language [DL] 科目群
1回生 デザイン・アートに 特有な見方・学び方 の基礎を固める		デザイン学1 デザイン学2	技能群導入科目 知識群導入科目
2回生 「生成への参加」と 「概念化」によって、 自己の課題を 明確化する	デザイン学 生成プロジェクト 演習1 デザイン学 生成プロジェクト 演習2	往還 デザイン学3A 往還 デザイン学3B デザイン学4	技能群専門科目 知識群専門科目
3回生 「生成への参加」と 「概念化」の反復に よって、自己の課題を より深く探究する	デザイン学 総合研究1 デザイン学 総合研究2	往還 デザイン学5 往還 デザイン学6	技能群専門科目 知識群専門科目
4回生 「生成への参加」と 「概念化」の反復に よる、社会価値創出 プロセスをまとめる	卒業演習1 卒業演習2		技能群専門科目 知識群専門科目

卒業研究

Q&A

高校では文系クラスに所属して
 いますが、文系・理系でデザイン・
 アート学部の勉強に
 向き不向きはありますか？

文系クラスでも理系クラスの学生の
 みなさんでも支障はありません。
 教育内容をよく理解して関心のある
 学生のみなさんのチャレンジを
 お待ちしております。

デザイン・アート学部では
 カリキュラムのほかには
 どのような特徴がありますか？

共同、共創の場となるプロジェク
 ト活動を重視し、大学キャンパス
 だけでなく、京都、日本国内外を
 学びの場とした「まち全体がラー
 ニングプレイス」というコンセプ
 トを掲げています。

デザイン・アート学部に進学希望
 なのですが、企業等への就職で
 不利ではありませんか？

デザイン・アートの価値創出や
 デザイン人材は社会から求められて
 おり、左頁「キャリアモデル」に記載
 のようなキャリアが形成できます。

私は、社会人で時間的な余裕があ
 りませんが、デザイン・アート学
 研究科で学ぶことは可能ですか？

社会人のみなさんが学びやすいよう
 修士課程には「1年制コース」を設
 置予定です。
 また、オンラインやオンデマンド授
 業を組み込む予定としており、仕事
 と学業の両立が可能となります。

衣笠キャンパス ACCESS

■ JR・近鉄京都駅から

市バス50にて42分、市バス・JRバス「快速立命館」にて36分、「立命館大学前(終点)」下車

市バス205にて38分、「衣笠校前」下車、徒歩10分

JRバス「高尾・京北線」にて30分、「立命館大学前」下車

■ JR円町駅から

市バス・JRバス「快速立命館」にて8分、「立命館大学前(終点)」下車

市バス15にて10分、「臨」にて9分、「立命館大学前(終点)」下車

市バス204/205にて5分、「衣笠校前」下車、徒歩10分

JRバス「高尾・京北線」にて8分、「立命館大学前」下車

■ 阪急電車西院駅から

市バス・JRバス「快速立命館」にて15分、「臨」にて17分、「立命館大学前(終点)」下車

市バス205にて13分、「衣笠校前」下車、徒歩10分

■ 京阪電車三条駅から

市バス12にて53分、市バス15にて34分、市バス51にて36分、「立命館大学前(終点)」下車

市バス59にて40分、「立命館大学前」下車



R RITSUMEIKAN
UNIVERSITY

立命館大学 デザイン・アート学部 デザイン・アート学研究科

事務局(朱雀キャンパス5F総合企画課) 〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1番地

TEL: 075-813-8130 | <https://www.ritsumei.ac.jp>

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料 30 (129 ページ)

1. 書類等の題名

2040 年を見据えた大学院教育のあるべき姿 ～社会を先導する人材の育成に向けた体質改善の方策～ (審議まとめ)

2. 出典

文部科学省

3. 引用範囲

https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afielddfile/2019/02/18/1412981_001r.pdf (4-6 ページ)

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙 1

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位5都道府県）※直近年度

	都道府県名	人数	構成比
1			
2			
3			
4			
5			

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	近畿(京都、大阪、兵庫を除く)	97.27%	97.27%	92.53%
2				

※2024（令和6）年度 私立大学・短期大学等入学志願動向14頁、2023（令和5）年度 私立大学・短期大学等入学志願動向14頁を参照し、作成

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	理・工学系	97.26%	102.95%	106.08%
2				

※2024（令和6）年度 私立大学・短期大学等入学志願動向66頁、2023（令和5）年度 私立大学・短期大学等入学志願動向68頁を参照し、作成

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位5都道府県）※直近年度

	都道府県名	人数	構成比
1			
2			
3			
4			
5			

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	大阪府	102.69%	101.65%	101.07%
2				

※2024（令和6）年度 私立大学・短期大学等入学志願動向14頁、2023（令和5）年度 私立大学・短期大学等入学志願動向14頁を参照し、作成

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	人文科学系	47.43%	50.24%	54.04%
2	社会科学系	68.40%	70.72%	75.48%

※2024（令和6）年度 私立大学・短期大学等入学志願動向66頁、2023（令和5）年度 私立大学・短期大学等入学志願動向68頁を参照し、作成

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位5都道府県）※直近年度

	都道府県名	人数	構成比
1			
2			
3			
4			
5			

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	京都府	101.59%	99.93%	98.19%
2				

※2024（令和6）年度 私立大学・短期大学等入学志願動向14頁、2023（令和5）年度 私立大学・短期大学等入学志願動向14頁を参照し、作成

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	芸術系	105.38%	111.97%	121.56%
2				

※2024（令和6）年度 私立大学・短期大学等入学志願動向66頁、2023（令和5）年度 私立大学・短期大学等入学志願動向68頁を参照し、作成

「学生の確保の見通し等を記載した書類」別紙 2 (135 ページ)

1. 書類等の題名

既設学科等の入学定員の充足状況 (直近 5 年間)

2. その他の説明

学内資料 (学外秘) であるため、掲載を省略する。

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：理工学研究科 大学院説明会

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	127人	151人	①取組概要 立命館大学大学院への進学を考えている方に向けて大学院説明会を春と秋に実施している。ZOOMによるオンライン配信での開催をしており、幅広く参加者を集めている。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 過去2年の実績では、説明会に参加して受験対象者の内、38.9%、48.8%が受験、30.6%、34.9%が入学した。説明会参加者における受験率・入学率は安定して高い数字であった。
うち受験対象者数(b)	43人	36人	
うち受験者数(c)	21人	14人	
うち入学者数(d)	15人	11人	
(受験率 c/b)	48.8%	38.9%	
(入学率 d/b)	34.9%	30.6%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：人間科学研究科 大学院説明会

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	391人	218人	①取組概要 立命館大学大学院への進学を考えている方に向けて大学院説明会を春と秋に実施している。ZOOMによるオンライン配信での開催をしており、幅広く参加者を集めている。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 過去2年の実績では、説明会に参加して受験対象者の内、45.2%、25.0%が受験、15.8%、11.2%が入学した。説明会参加者からは、入学定員75名に近い人数の受検につながっている。
うち受験対象者数(b)	232人	146人	
うち受験者数(c)	58人	66人	
うち入学者数(d)	26人	23人	
(受験率 c/b)	25.0%	45.2%	
(入学率 d/b)	11.2%	15.8%	

③募集を行った学科等名称及び取組の名称：映像研究科 大学院説明会

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	91人	61人	①取組概要 立命館大学大学院への進学を考えている方に向けて大学院説明会を春と秋に実施している。ZOOMによるオンライン配信での開催をしており、幅広く参加者を集めている。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 過去2年の実績では、説明会に参加して受験対象者の内、31.1%、33.8%が受験、8.9%、6.5%が入学した。いずれも入学定員10名以上の受検につながっている。
うち受験対象者数(b)	77人	45人	
うち受験者数(c)	26人	14人	
うち入学者数(d)	5人	4人	
(受験率 c/b)	33.8%	31.1%	
(入学率 d/b)	6.5%	8.9%	